漢字から文章へ

第三冊

全十八回　三百六十字

日　人　山　画

漢字の意味と熟語を確かめ、
短文や文章の中で使いながら学びます。

和会塾

読み、書き、考えるための漢字教材

この本の使い方

各回で中心となる八字と、いっしょに覚える十二字を扱います。前の冊で出会った字も含みます。一字の意味を手がかりに、熟語、短文、長文へと進みます。表を見ながら解いてもかまいません。

一・二　扉と漢字表

まず、気になる漢字を探してみましょう。次の表で、読み、意味、熟語を確かめます。表の読みは主なものです。一字の意味を足すだけで決めず、熟語全体の意味も確かめてください。

三・四　漢字の働きと熟語

漢字が熟語の中でどう働くかを考え、文に合う語を選びます。大問四では、□の数が答える語の文字数を示しています。送り仮名のある語は、それも含めて解答欄に書きます。

五　使い分けと自分の一文

似た語が、この文では何を表しているかを考えます。意味が重なる場合もあります。自分で書く問題は、経験したことでも、想像した場面でもかまいません。

六　短文で使う練習

文の中で漢字を書き、熟語を読みます。間違えた字だけでなく、なぜその語を使うのかも確かめ、必要なら表へ戻って読み直しましょう。

七　文章を読んで考える

物語や記録を読み、言葉の意味、人物の変化、事実と推測の違いなどを考えます。記述では、本文の具体的な手がかりを理由や判断に結びつけて書いてください。

答えを確かめる

解答と解説は各回の最後にあります。記述の解答例と別解例は、考え方を確かめるためのものです。同じ言い方でなくても、指定語と字数を守り、問われた内容を根拠と結んで書けていればよいものです。

記述のマス　句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

本書の物語・資料・記録・数値は、学習のために作成したものです。

目次 第一回から第九回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第一回	数と時間をとらえる	出港した日も旅のうち	5	10	12
第二回	位置と方角	海が上にある地図	14	19	21
第三回	人と家族	花婿への手紙	23	28	30
第四回	からだと健康	笑っているけが人	32	37	39
第五回	性質と気持ち	穏やかな声の抗議	41	46	48
第六回	言葉としるし	昨日生まれた店の唄	50	55	57
第七回	考えの形をつかむ	一行長い星空の案内	59	64	66
第八回	身近な動作	帰ってきた空箱	68	73	75
第九回	状態の違いを見る	まだ動かない人形	77	82	84

目次 第十回から第十八回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第十回	社会の仕組み	返事の外にいる人	86	91	93
第十一回	公共とルール	空っぽの宝石箱	95	100	102
第十二回	仕事とお金	たくさん売れた日の記録	104	109	111
第十三回	空と大地	青空の写真を選んだ日	113	118	120
第十四回	植物と動物	猿に実を渡すまで	122	127	129
第十五回	色・形・素材	緑の石はどこへ消えた	131	136	138
第十六回	食べる・着る・住む	休憩中の椅子	140	145	147
第十七回	形・構造・技術	ぴったり一回の車	149	154	156
第十八回	文化と表現	写真の端にあった盆	158	163	165

漢字から文章へ 第三冊

第一回

数と時間をとらえる

船は十日目に帰るはずなのに、二人の日付が違います。
旅が始まった日は、何日目なのでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

日	今	代	始
太陽や一日の時間	いま この時	かわる 時の区切り	物事を起こす

両	万	紀	隻
二つ 双方	大きな数 多くの	記す 時を区切る	船などを数える

いっしょに覚える漢字

一	十	二	前	六	最
億	節	序	升	軒	幾

この回で読むお話

出港した日も旅のうち

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
日	ニチ ジツ ひ か	太陽／一日という時間 日光・毎日・休日・日程	両	リョウ	二つ／双方 両方・両手・両立・両面
今	コン いま	この時／現在 今・今日・今後・今朝	万	マン バン	一万／非常に多い 一万・万一・万能・万全
代	ダイ タイ かわる	かわる／時の区切り 時代・世代・代表	紀	キ	物事を記す／時を区切る 紀行・世紀・紀元
始	シ はじめる はじまる	物事を起こす 始める・始まる・開始・始業	隻	セキ	船などを数える語 一隻・二隻・数隻

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
一	イチ イツ ひとつ	数の一／一つにする 一つ・一度・統一	億	オク	一万の一万倍 一億・数億・億万
十	ジュウ ジッ とお	数の十／交わる形 十人・十字・十分	節	セツ ふし	区切り／つなぎ目 節目・季節・節約
二	ニ ふたつ	数の二 二つ・二倍・二者	序	ジョ	順番／始まり 順序・序文・序列
前	ゼン まえ	先／正面 前日・以前・前方	升	ショウ ます	容量の単位／量る器 一升・升・升目
六	ロク むっつ	数の六 六つ・六月・六角形	軒	ケン のき	家を数える語／のき 一軒・数軒・軒先
最	サイ もっとも	いちばん 最初・最大・最近	幾	キ いく	いくつ／どれほど 幾つ・幾度・幾何

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「日程」の意味に合うものを選びなさい。
ア　同じ時期に生まれた人々　　イ　行事の日取りや進める予定
ウ　船の大きさを表す数　　エ　使ったお金の合計

(2)「世代」の「代」に関わるものを選びなさい。
ア　ほぼ同じ時期に生まれた人々のまとまり　　イ　水や米の量を量る器
ウ　船が泊まる場所　　エ　一日の中の時刻

(3)「開始」と「最初」を適切に読んだものを選びなさい。
ア　どちらも船の数だけを示す　　イ　前者は終えること、後者は最後の順番
ウ　どちらも必ず同じ時刻を示す　　エ　前者は始めること、後者は並びのいちばん初め

(4)「両面」の「両」の働きを選びなさい。
ア　数を減らす　　イ　昔のことを示す
ウ　二つの側をともに表す　　エ　次の日を表す

(5)「世紀」が表す時間の長さを選びなさい。
ア　一年　　イ　百年
ウ　一日　　エ　一万年

(6)「船が一隻、店が一軒」の数え方に合うものを選びなさい。
ア　隻も軒も時間の長さ　　イ　隻も軒も米の量
ウ　数字が同じなら数える対象も同じ　　エ　船と店という対象に応じて語を変える

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　世紀　開始　一億　前日　一隻　今後　最初
十分　世代　六角形　万全　日程　二者　統一

文	解答	文	解答
(1) 行事の日取りと進め方を□□にまとめた。		(8) 港へ船が□□戻ってきた。	
(2) これから先の□□の予定を話す。		(9) 表記を同じ形に□□する。	
(3) 親と子では生まれ育った□□が違う。		(10) 全員分の席を□□に用意した。	
(4) 受付を九時に□□する。		(11) 最終候補の□□が意見を交わす。	
(5) 一万の一万倍は、□□になる。		(12) 本番の一日前、□□に会場を見た。	
(6) 手落ちのないよう準備を□□に整える。		(13) 六つの辺を持つ□□□を描いた。	
(7) 今から百年は、一□□に当たる。		(14) 順番の□□に名前を書く。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「日程」と「時刻」の使い方に合うものを選びなさい。

見学の日程を三日間に分け、初日の集合時刻を十時にした。

ア　両方とも三日間という長さだけを示す。
イ　前者は見学の予定、後者は集合する特定の時点。
ウ　日程には集合のことを書けない。
エ　集合は三日目の十時だと決まる。

（2）二つの「十分」の読み方と意味に合うものを選びなさい。

十時発で、今は九時五十分。出発まで十分ある。持ち物も十分にそろっている。

ア　どちらも必ず十個を表す。
イ　前者は持ち物の数、後者は時刻。
ウ　前者は時間の長さ、後者は不足のないこと。
エ　どちらも同じ一つの読み方しかない。

（3）この予定から分かることを選びなさい。

六月一日を一日目として、六月三日まで毎日一回ずつ調べる。

ア　調べるのは二回だけ。
イ　最初に調べるのは六月二日。
ウ　六月三日には調べない。
エ　一日、二日、三日の三回調べる。

（4）この「両立」の意味に合うものを選びなさい。

練習時間を短く工夫し、部活動と家庭での手伝いを両立した。

ア　二つの活動をともに続けられるようにした。
イ　手伝いを全てやめた。
ウ　両方を必ず同じ時刻にした。
エ　練習だけを残した。

（5）「順序」を使い、作業を進める前後が分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「両立」を使い、続けたい二つのことを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 学んだ漢字を、**マイニチ**少しずつ練習する。	
(2) 昔の写真と、**ゲンザイ**の町を比べた。	
(3) 途中で案内役を**コウタイ**した。	
(4) 学校の**シギョウ**時刻を確かめた。	
(5) 大きな箱を**リョウテ**で持ち上げた。	
(6) 数の十を千倍すると、**イチマン**になる。	
(7) 歴史の年を数える基準となる**キゲン**について学んだ。	
(8) 港の入り口で、**ニセキ**の船がすれ違った。	
(9) 米の量を、**イッショウ**ずつ量る。	
(10) 二本の線が交わる**ジュウジ**の形を描いた。	
(11) 同じ長さのひもをつなぎ、**ニバイ**の長さにした。	
(12) 出来事の**ゼンゴ**のつながりを考えた。	
(13) 一年の六番目の月である**ロクガツ**に開く。	
(14) 卒業を一つの**フシメ**として、日記を読み返した。	
(15) 同じ道を**イクド**も通り、目印を覚えた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 一升瓶	(17) 家屋	(18) 幾何	(19) 億万	(20) 時節

この回を終えたら もう一度確かめる

最初の日も数えるのか、数え始める位置を確かめましょう。
同じ数字でも、後ろの語と前後の文で意味が変わります。

七　文章の中で考えよう

出港した日も旅のうち

「一万円ずつで足りる？」「億万長者になるまで遊ぼう。」弟が紙のお金を配った。結斗は、祖父の家で見つけた船旅ゲームを広げた。端の折り目は白くなり、港の絵だけ、後から色を塗り直したように見える。

港には一隻ずつ船の駒を置く。米屋が一軒、米を量る升の絵、荷物を運ぶ道もある。祖父が子どもの頃に作ったものだ。今の世代のゲームとは、ずいぶん違う。結斗も、まずはお金を増やすのが楽しみになった。

規則を開くと、勝つのはお金の多い人ではなかった。「六月一日に出港。出港の日を一日目として、十日目に帰った船が勝ち」。結斗は十一日に丸を付けた。弟は十日に付ける。「始めてから十日だから、十一日だろ。」勝負を開始する前から、二人の日付が食い違った。

結斗が書き直した日付のメモ

日付	旅の何日目か
六月一日	一日目　出港
六月二日	二日目
六月十日	十日目　帰港

結斗は六月一日から、順序に沿って指で数えた。十日の丸で指が止まる。十一日なら十一日目だ。出港の前日からでも、翌日からでもない。自分は、六月一日の旅を数から落としていたのだ。

紙の上では、もう一日分の旅をしていた。

祖父の机には、船で巡った町の紀行もあった。「二十世紀の終わりの旅」とある。結斗が「一世紀も旅したの？」と聞くと、祖父は笑った。いつの時代の旅かと、何日間旅したかは別だという。弟は机の隅で、駒の底が六角形なのを確かめていた。

二人は規則の「出港の日を一日目」に線を引いた。一日を最初として数える、旅の節目だ。準備は万全のつもりだったが、幾度も読んだ一行に読み落としがある。結斗は十一日の丸を消した。紙が少し薄くなったので、そこは強くこすらなかった。

今度こそ出港だ。弟の船が米屋に寄る。結斗も荷物を買おうとして、手を止めた。帰る日に間に合うだろうか。紙のお金はまだ両手に余るほどあるのに、一日分が急にもったいなくなった。

人物・ゲーム・規則・日付のメモは、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と日付のメモを根拠にして答えなさい。

（1）本文から、旅の様子や見聞を記した文章を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）家や店など、一つの建物を数える「イッケン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）このゲームの「一隻」が数えるものを選びなさい。

ア　米の量。
イ　紙のお金。
ウ　船の駒。
エ　旅の期間。

（4）規則どおりの日付の読み方を選びなさい。

ア　六月一日はまだ旅に含まれない。
イ　六月十日に帰れば十日目になる。
ウ　六月十一日が十日目になる。
エ　お金が最も多ければ、帰る日は問わない。

（5）最後に結斗が荷物を買おうとして手を止めたことを、初めのお金への考え方の変化と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）次に遊ぶ人への規則の補足を、「開始」「順序」を使って 70〜90 字で書きなさい。出港日と帰港日、数える基準を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第一回　数と時間をとらえる

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　行事をいつ、どのような予定で進めるかに関わる語。日付一つだけを指すとは限らない。

（2）ア　ほぼ同じ時期に生まれた人々などのまとまり。百年という長さを表す世紀とは異なる。

（3）エ　開始は物事を始めること。最初は時間や順番のいちばん初め。開始する場面が最初の場面になることもある。

（4）ウ　表と裏など、二つの側の双方に着目する。両手や両方でも、何と何を指すか確かめる。

（5）イ　一世紀は百年の期間。人々のまとまりを表す世代と、語の意味を取り違えない。

（6）エ　隻は船など、軒は家や店などを数える語。同じ一でも、何を数える数かが違う。

四　熟語を広げよう

（1）日程　（2）今後　（3）世代　（4）開始　（5）一億

（6）万全　（7）世紀　（8）一隻　（9）統一　（10）十分

（11）二者　（12）前日　（13）六角形　（14）最初

（5）一億は、一万の一万倍。（6）万全は手落ちがないこと。（10）十分は、ここでは必要な量が足りること。時間の長さなら「じゅっぷん・じっぷん」、足りる意味では「じゅうぶん」と読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　全体の予定と、集合する時点を区別している。日程の中に時刻を書くこともある。

（2）ウ　前者は「じゅっぷん・じっぷん」と読む時間の長さ、後者は「じゅうぶん」と読む足りている状態。文脈を確かめる。

（3）エ　最初の日も含めて一日目と数える。二つの日付の差だけで、調べる回数を決めない。

（4）ア　二つをともに成り立たせること。同じ時刻に行うという意味ではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

材料をそろえてから切るという順序を、作業の前に確かめた。

☆自分で確かめる点　何と何の前後の関係かを示したか。

（6）解答例

読書と家の手伝いを両立できるように、一日の予定を考えた。

☆自分で確かめる点　二つをともに成り立たせる意味で使ったか。

六　短文で使ってみよう

（1）毎日　（2）現在　（3）交代　（4）始業　（5）両手

（6）一万　（7）紀元　（8）二隻　（9）一升　（10）十字

（11）二倍　（12）前後　（13）六月　（14）節目　（15）幾度

（16）いっしょうびん　（17）かおく　（18）きか　（19）おくまん　（20）じせつ

（8）は船が二つなので「二隻」。（9）の升は容量の単位。（11）は長さを比べている。（16）は「いっしょうびん」、（18）は「きか」と読む。

七　文章の中で考えよう

（1）紀行　祖父が船で巡った町について書いた文章。旅をした時代と、旅の日数は分けて読む。

（2）一軒　家や店などの建物を数える。船を数える「一隻」と、対象を分ける。

（3）ウ　船を表す駒を数える。実際の船の大きさや米の量ではない。

（4）イ　出港の六月一日も一日目と数える。十日は十日目、十一日は十一日目になる。

七　記述問題の考え方

（5）　荷物を買う前に止まった理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

お金を増やすより十日目に帰ることが勝負の条件だと分かり、荷物を買うために一日を使ってよいか考え始めたから。

（5）別解例　51 字

初めはお金の多さに目を向けたが、帰る日を数え直し、残る日数に間に合うかも考えて荷物を買おうとしたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 初めのお金への関心と、勝負の条件の違いを示したか。
② 帰港日を気にし、一日を使うことをためらう行動と結んだか。
③ お金そのものが不要になったとは書いていないか。

旅の一日分の重さが変わった、残る日数を意識したなどの表現もよい。荷物の値段や移動の細かな規則は本文にない。

（6）　次に遊ぶ人への補足 70〜90 字

（6）解答例　85 字

ゲームを開始した六月一日を一日目として、日付の順序に沿って数えます。二日は二日目、十日は十日目です。出港した日も旅に含め、十一日ではなく六月十日に帰るようにしてください。

（6）別解例　86 字

六月一日に旅を開始し、その日から一日目と数えます。日付の順序に沿って二日を二日目とすれば、十日目は六月十日です。出港の翌日から数え始めないように、帰港日を確かめてください。

☆（6）自分で確かめる点

①「開始」「順序」を使ったか。
② 出港日の六月一日を含めて一日目とする基準を示したか。
③ 十日目の帰港日は六月十日だと分かるか。

お金や荷物の説明を加える必要はない。規則の勝ち負けと、実際の船旅の日程を混同しない。

漢字から文章へ 第三冊

第二回

位置と方角

港が地図の上に来ると、北は下になりました。
同じ島を描いた二枚なのに、不思議な感じがします。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

中	京	島	南
内側やまんなか	都 大きな町	水に囲まれた土地	方角の南

崎	浜	丘	峰
海へ突き出た土地	海や湖の岸	小高い土地	山の高い頂

いっしょに覚える漢字

上	田	建	央	陸	険
岐	尾	邸	峡	涯	棟

この回で読むお話

海が上にある地図

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
中	チュウ なか	内側／まんなか 中央・途中・中心・中身	崎	さき	陸地が海などへ突き出た所 崎・長崎・宮崎
京	キョウ ケイ	都／大きな町 東京・京都・上京	浜	ヒン はま	海や湖の岸 浜・浜辺・砂浜
島	トウ しま	水で囲まれた陸地 島・列島・離島	丘	キュウ おか	小高い土地 丘・丘陵・砂丘
南	ナン みなみ	方角の南 南・南方・南北	峰	ホウ みね	山の高い頂 峰・連峰・最高峰

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
上	ジョウ うえ あがる	高い所／上がる 上・上方・上る	岐	キ	道などが分かれる 岐路・分岐・多岐
田	デン た	水田／耕す土地 田・水田・田園	尾	ビ お	末端／動物の尾 尾・尾根・末尾
建	ケン たてる たつ	建物などをつくる 建てる・建物・建設	邸	テイ	大きな住まい 邸宅・官邸・私邸
央	オウ	まんなか 中央・震央	峡	キョウ	山や水路の狭い所 峡谷・海峡
陸	リク	水面に対する土地 陸地・大陸・上陸	涯	ガイ	果て／物事の続く限り 生涯・境涯・天涯
険	ケン けわしい	けわしい／危ない 険しい・険悪・危険	棟	トウ むね	建物の屋根の高い部分／建物を数える 棟・一棟・病棟

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「中央」の二字に関わる意味を選びなさい。
ア　いちばん古い　　イ　人が多い
ウ　まんなか　　エ　危ない

(2)「上京」の「京」に関わる説明を選びなさい。
ア　都や大きな町に関わる　　イ　海を渡る船を数える
ウ　山の高さを測る　　エ　土地の南を指す

(3)「島」と「半島」を適切に説明したものを選びなさい。
ア　どちらも四方を陸地に囲まれる　　イ　どちらも必ず山の頂だけを指す
ウ　島は建物、半島は船の名前　　エ　島は水に囲まれ、半島は陸続きで海へ突き出す

(4)「分岐」の「岐」に近い働きを選びなさい。
ア　同じ所に集める　　イ　道などが分かれる
ウ　海の水を量る　　エ　家を建てる

(5)「尾根」の意味に合うものを選びなさい。
ア　建物を数える単位　　イ　海に挟まれた狭い水路
ウ　山の高い部分が細長く続く所　　エ　田の中の水だけ

(6)「一棟」の「棟」が数えるものを選びなさい。
ア　米の量　　イ　船の数
ウ　日数　　エ　建物の数

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　上陸　田園　尾根　丘陵　邸宅　南方　離島
危険　上京　中庭　峡谷　建設　最高峰　砂浜

文	解答	文	解答
(1) 家と家に囲まれた □□に木を植えた。		(8) 田畑が広がる □□の風景を描く。	
(2) 地方から東京へ □□した。		(9) 建物をつくる □□が始まった。	
(3) 周囲を水に囲まれた □□へ船で渡る。		(10) 船から島の陸地へ □□する。	
(4) 町から南の方角、 □□へ進んだ。		(11) 足元が崩れやすい □□な道を避けた。	
(5) 砂の広がる □□を歩いた。		(12) 山の高い部分が細長く続く □□を歩く。	
(6) ゆるやかな高まりが 続く□□だ。		(13) 大きな住まい、 古い□□を見学する。	
(7) 連なる山々の中で 最も高い□□□だ。		(14) 山の間の狭く深い □□を川が流れる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「中心」と「中央」を適切に読んだものを選びなさい。

会議では港の整備が議論の中心となり、地図の中央にある公園は話題に出なかった。

ア　中心も中央も、公園の位置だけを指す。
イ　前者は主な話題、後者は範囲のまんなか。
ウ　港は必ず地図のまんなかにある。
エ　中心には場所の意味が全くない。

（2）「峡谷」と「海峡」に合う説明を選びなさい。

峡谷を流れる川を見たあと、船で二つの島の間の海峡を渡る。

ア　前者は海、後者は山の頂。
イ　どちらも建物の数。
ウ　前者は狭く深い谷、後者は陸地に挟まれた狭い海。
エ　川が流れる所は全て海峡と呼ぶ。

（3）この「上」の違いに合うものを選びなさい。

港は地図の上側に描かれているが、島の南にある。

ア　紙の上側は、必ず北を意味する。
イ　港が島の北へ移った。
ウ　南という方角がなくなった。
エ　紙の上側と、実際の北という方角は別。

（4）「丘」と「峰」のこの使い方に合うものを選びなさい。

近くの小高い丘から、遠くに連なる山の峰を眺めた。

ア　前者は小高い土地、後者は山の頂。
イ　丘は必ず峰より標高が高い。
ウ　峰は海の中だけにある。
エ　二つは必ず同じ場所を指す。

（5）「分岐」を使い、道がどこで分かれるかを伝える一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「中央」を使い、何のまんなかかが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 雨が強まったので、屋外の行事を**チュウシ**した。	
(2) 日本の首都である**トウキョウ**の地図を見る。	
(3) 島々が並ぶ**レットウ**の位置を調べた。	
(4) 地図の**ナンボク**の向きを矢印で示した。	
(5) 波の届く**ハマベ**で貝を探した。	
(6) 砂が積もった**サキュウ**の写真を見た。	
(7) いくつもの山が続く**レンポウ**を眺めた。	
(8) 農家の人に、**タハタ**の様子を聞いた。	
(9) 古い**タテモノ**の形を図に描いた。	
(10) 広く続く陸地を、**タイリク**と呼ぶ。	
(11) 山道が**ケワ**しくなる手前で引き返した。	
(12) 調べる内容は、**タキ**にわたっていた。	
(13) 大きな屋敷の**テイナイ**を案内してもらった。	
(14) 二つの陸地に挟まれた**カイキョウ**を船で渡った。	
(15) 九州にある**ナガサキ**県の位置を地図で探した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 山頂	(17) 病棟	(18) 天涯	(19) 宮崎	(20) 海浜

この回を終えたら もう一度確かめる

地図の上側と北を、同じものだと決めずに見ましょう。
どの方角から見ているかを確かめると、位置関係を読み直せます。

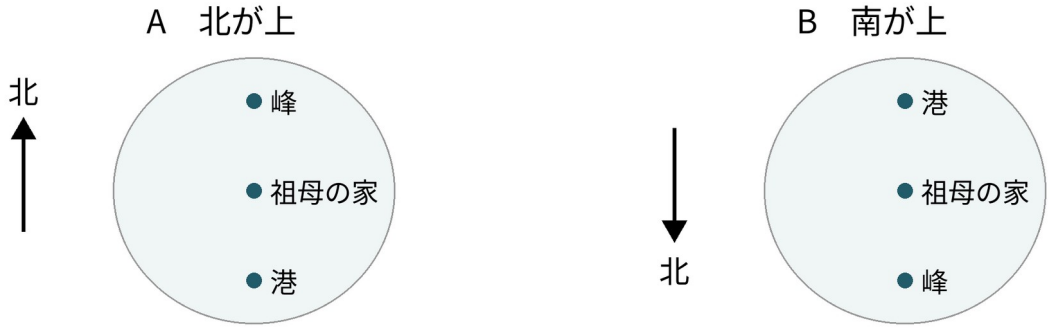
七　文章の中で考えよう

海が上にある地図

港で待っていた船の笛が、祖母の家まで聞こえた。峰崎島の南にある港へ、東京から祖母の友人が来る。夏希は案内図を描いていた。中央に祖母の家、北に峰、南に港。島で生涯を過ごした大工が建てた一棟を、家の目印にした。

「この向きの方が、私には見やすいな。」祖母は紙を回し、港を上にした。峰は下へ、左の田園は右へ来る。「島が逆さまになっちゃった。」夏希が言うと、祖母は窓を指した。海はいつもの場所で光っている。

同じ三か所を描いた二枚の略図



図は位置関係を比べるための略図です。道路・距離・地形の形は省いています。

逆さまになったのは、紙の方だった。

祖母は家の窓から、海を正面に見て話すことが多い。砂浜へ行く道も、丘へ上がる道も、その眺めに重なるらしい。夏希は、北が上の図を見ながら、頭の中で紙を回している人もいるのだと思った。祖母のひじには、さっきまで繕っていた服の糸が一本付いていた。

二人は上陸後の予定を話した。港の先の分岐で、浜へ向かう道と尾根へ上る道に分かれる。険しい所までは行かず、丘から峰を眺める。島と対岸の陸地の間には海峡も見える。夏希は、前に見た山の峡谷とは書き分けた。

ところが、祖母が回した図には、まだ北の印がない。「港へは上に行けばいい」だけでは、北を上にして読む人に違う方へ伝わる。祖母の見やすさは残したい。夏希は、消しかけた邸宅の屋根を描き直し、二枚に北の矢印を足した。家から港へは、どちらも南だ。

図に省いた田園や浜の位置も、二人で口にして確かめた。友人には港に着いてから図を見てもらう。迎えの日、その友人は図を少し回して家の方を見た。夏希はすぐには直さず、「今、どこを見ているの？」と尋ねた。指が家と港を行き来するのを、隣で待った。

人物・島・案内図は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と二枚の略図を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、人の一生の間を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）一つの建物を数える「イットウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「海峡」が表すものを選びなさい。

ア　山の頂が続く所。
イ　島と対岸の陸地の間の狭い海。
ウ　祖母の家の屋根。
エ　田園の中の道路。

（4）二枚の略図について正しいものを選びなさい。

ア　B では港が島の北に移動した。
イ　祖母の家から港へは、A だけ南へ進む。
ウ　紙の上側は違うが、家から港へは両方とも南。
エ　B には方角を示すことができない。

（5）夏希が最後に図の向きを直さなかった理由を、祖母との経験を踏まえ、45〜55 字で書きなさい。

（6）B の図に添える案内を、「南」「分岐」を使って 70〜90 字で書きなさい。図の向きと、港から浜へ向かう道を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第二回　位置と方角

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　中と央は、どちらもまんなかに関わる。中央は、どの範囲のまんなかかを確かめて読む。
（2）ア　京は都に関わる字。上京は、地方から都、とくに東京へ行くことをいう。
（3）エ　島と半島は地形の違う語。半島は一部がほかの陸地とつながっている。
（4）イ　岐は道などが分かれることに関わる。物事が多くの方面に分かれる「多岐」にも使う。
（5）ウ　山の高い所が線のように続く部分。山の頂を表す峰と関係するが、同じ語ではない。
（6）エ　建物を一棟、二棟と数える。棟には屋根の高い部分という意味もある。

四　熟語を広げよう

（1）中庭　（2）上京　（3）離島　（4）南方　（5）砂浜
（6）丘陵　（7）最高峰　（8）田園　（9）建設　（10）上陸
（11）危険　（12）尾根　（13）邸宅　（14）峡谷
（1）中庭は建物に囲まれた庭など。（7）は最も高い峰、（12）は山の高い部分が細長く続く所、（14）は山の間の狭く深い谷。（5）砂浜は砂のある浜をいう。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　この文では、主な話題と地図上の位置を分ける。中心も場所のまんなかを指すことがある。
（2）ウ　峡は狭い所に関わる字。峡谷では谷、海峡では海という、熟語全体の違いを読む。
（3）エ　紙の向きが変わっても、港の方角は変わらない。北を示す矢印などを確かめる。
（4）ア　この文では、いる場所と、遠くに見える山の頂を分けている。語だけで地形の高さを数値まで決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

橋を渡った先の分岐で、海へ向かう道と山へ向かう道に分かれる。

☆自分で確かめる点　分かれる場所と、分かれた先が分かるか。

（6）解答例

公園の中央にある大きな木の前で、友達と待ち合わせた。

☆自分で確かめる点　どの範囲のまんなかかを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）中止　（2）東京　（3）列島　（4）南北　（5）浜辺
（6）砂丘　（7）連峰　（8）田畑　（9）建物　（10）大陸
（11）険　（12）多岐　（13）邸内　（14）海峡　（15）長崎
（16）さんちょう　（17）びょうとう　（18）てんがい　（19）みやざき　（20）かいひん
（6）は砂丘、（7）は連峰。（11）は「険しく」とつながる。（14）の海峡は狭い海。（17）病棟は病院の建物やその区画に関わる語。

七　文章の中で考えよう

（1）生涯　大工が一生を島で過ごしたことを表す。祖母自身の生涯と読み替えない。
（2）一棟　建物を数える語。本文では祖母の家に使われている。
（3）イ　島と対岸の陸地に挟まれた狭い海。峡谷という谷とは分ける。
（4）ウ　紙を回しても位置関係は変わらない。A は北、B は南が上。どちらも家から港へは南へ進む。

七　記述問題の考え方

（5）　友人が図を回したとき 45〜55 字

（5）解答例　52 字

祖母にも見やすい向きがあったため、友人の図の見方もすぐ誤りと決めず、どこを見ているのか確かめようとした。

（5）別解例　52 字

北を上にする以外の見方もあると祖母から知り、友人が見ている場所や図の向きを、まず尋ねようとしたと読める。

☆（5）自分で確かめる点

① 祖母が港を上にして見た経験を踏まえたか。
② 友人の見方をすぐ間違いとせず、尋ねる行動と結んだか。
③ 方角を示す必要がなくなったとはしていないか。

相手の見方に関心を持った、友人が確かめるのを待ったという読みもよい。友人の向きが一番正しいと決める話ではない。

（6）　B に添える案内文 70〜90 字

（6）解答例　85 字

この図は南が上で、港が上側です。北の矢印も見てください。港の先の分岐では、浜へ向かう道を選びます。紙を回しても港や家の場所は変わらないので、方角と目印を照らしてください。

（6）別解例　85 字

南を上にして描いた図なので、港は上側、峰は下側です。港から進んだ先の分岐で、浜へ向かう道を選んでください。上側を北と思い込まず、北の矢印と実際の目印を合わせて見ましょう。

☆（6）自分で確かめる点

①「南」「分岐」を使ったか。
② B では南が上で、港が上側にあると伝えたか。
③ 港の先の分岐で浜へ向かう道を選ぶ案内になっているか。

左右どちらの道かは図にも本文にも示していない。右折・左折を想像で足さず、本文の目印で伝える。

漢字から文章へ 第三冊

第三回

人と家族

結婚式で読む手紙に、叔父を「英雄」と書きました。
でも、伝えたい思い出は、それだけでは収まりません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

人	子	者	女
ひと 人々	子ども 小さいもの	何かをする人	女性

昆	叔	侶	婿
虫や兄弟に関わる	父母の弟妹など	一緒にいる仲間	娘の夫 花婿

いっしょに覚える漢字

君	佐	児	包	娘	御
併	雄	倫	侍	倣	関

この回で読むお話

花婿への手紙

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
人	ジン ニン ひと	ひと／人々 人・人物・人生・人間	昆	コン	虫／兄弟に関わる字 昆虫・昆弟
子	シ ス こ	こども／小さいもの 子・子ども・弟子・様子	叔	シュク	父母の年下のきょうだいなどに関わる 叔父・叔母
者	シャ もの	ある人／もの 者・記者・若者・作者	侶	リョ	一緒にいる仲間 伴侶・僧侶
女	ジョ ニョ おんな	女性 女性・女子・女王	婿	セイ むこ	娘の夫／結婚する男性 娘婿・花婿・婿養子

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
君	クン きみ	相手の呼び名／主君 君・君主・諸君	併	ヘイ あわせる	一つに合わせる 併せる・合併・併用
佐	サ	助ける 補佐・佐官・大佐	雄	ユウ お	おす／力強い 雄・英雄・雄大
児	ジ ニ	子どもに関わる字 児童館・幼児・孤児	倫	リン	人としての関係や道 倫理・人倫・倫常
包	ホウ つつむ	中へ入れておおう 包む・包装・包容	侍	ジ さむらい	仕える／武士 侍・侍女・侍従
娘	むすめ	親から見た女の子／若い女性 娘・娘婿・一人娘	倣	ホウ ならう	手本としてまねる 倣う・模倣
御	ギョ ゴ お おん	敬意を添える／治める 御礼・御所・制御	関	カン せき かかわる	つながる／さえぎる 関わる・関係・関所

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「記者」と「作者」の「者」の働きを選びなさい。
ア　行為に関わる人を示す　　イ　時間の長さを示す
ウ　必ず子どもだけを示す　　エ　相手への命令を示す

(2)「弟子」の「子」を適切に読んだものを選びなさい。
ア　必ず幼児であることを表す　　イ　弟という家族関係だけを表す
ウ　教えを受ける人に関わる　　エ　親の職業だけを表す

(3)「叔父」の説明に合うものを選びなさい。
ア　必ず自分の兄　　イ　父母の弟や、父母の妹の夫など
ウ　自分の娘の夫だけ　　エ　同じ職場の友人だけ

(4)「伴侶」の「侶」に関わるものを選びなさい。
ア　物を包む紙　　イ　物事の始まり
ウ　人の名前を消すこと　　エ　ともにいる仲間

(5)「補佐」の「佐」の意味に近いものを選びなさい。
ア　数える　　イ　隠す
ウ　助ける　　エ　別れる

(6)「模倣」と「倣う」の関係に合うものを選びなさい。
ア　どちらも手本としてまねることに関わる　　イ　どちらも必ず無断で写す意味
ウ　倣うは水を流すことだけ　　エ　模倣は名前を変えることだけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　伴侶　包装　作者　娘婿　人格　御礼　児童館
記者　昆虫　雄大　叔父　模倣　一人娘　弟子

文	解答	文	解答
(1) 取材して記事を書く□□に話を聞く。		(8) 娘の夫を□□と紹介した。	
(2) 絵を描いた□□の名を添えた。		(9) 子どもたちが利用する□□□で遊ぶ。	
(3) 師から技を学ぶ□□になった。		(10) カブトムシなどの□□について調べた。	
(4) 一度の失敗だけで、相手の□□を決めつけない。		(11) 物を包み、表面を覆う□□を工夫した。	
(5) 父の弟である□□が遊びに来た。		(12) 手本の動きを□□して練習する。	
(6) 一緒に暮らす□□と相談した。		(13) 助けてもらった□□を伝えた。	
(7) きょうだいのいない娘を□□□と紹介した。		(14) 大きく広がる□□な山の景色に見入った。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この二つの呼び名に合うものを選びなさい。

母の弟は、私には叔父であり、結婚相手の親には娘婿になる。

ア　呼び名ごとに別の人がいる。
イ　一人の人物を、誰との関係かで呼び分けている。
ウ　叔父と呼べば、娘婿とは呼べない。
エ　娘婿は必ず母の兄である。

（2）この「子ども」と「弟子」に合うものを選びなさい。

大人の弟子が、教室に来た子どもへ筆の持ち方を教えた。

ア　弟子は必ず幼いので、この場面は成立しない。
イ　弟子は先生本人の子でなければならない。
ウ　前者と後者は必ず同じ人。
エ　教えを受ける立場の大人が、子どもに教えている。

（3）「模倣」と「参考」のこの使い方に合うものを選びなさい。

手本の動きを模倣して練習し、別の作品も参考にして、自分の動きを考えた。

ア　手本をまねることと、判断の助けにすることを行った。
イ　参考にした作品は、全て同じ形に写した。
ウ　模倣する前には、必ず作品を壊す。
エ　自分で考えることを全てやめた。

（4）この「君」の指す相手について選びなさい。

昨日、先生が「君も一緒に考えよう」と、隣の生徒に声をかけた。

ア　必ず国を治める君主のこと。
イ　全ての生徒を一度に指す。
ウ　ここでは声をかけられた隣の生徒。
エ　先生の家族だけを指す。

（5）「補佐」を使い、誰をどのように助けるかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「併用」を使い、二つをどう使うかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 紙で作った**ニンギョウ**に顔を描いた。	
(2) 教室には、いろいろな年齢の**コ**どもが集まった。	
(3) 本を読む**ドクシャ**から手紙が届いた。	
(4) 受付にいた**ジョセイ**へ会場を尋ねた。	
(5) 母の妹に当たる**オバ**と話した。	
(6) 物語には、寺で修行する**ソウリョ**が出てくる。	
(7) 結婚式で、**ハナムコ**が手を振った。	
(8) 国を治める**クンシュ**の出てくる話を読んだ。	
(9) 学校の**ジドウ**が広場に集まった。	
(10) 周りを取り囲む**ホウイ**という語を学んだ。	
(11) 父が、私の**ムスメ**ですと紹介した。	
(12) 天皇の住まいに関わる**ゴショ**という語を調べた。	
(13) 物語の**エイユウ**に憧れた。	
(14) 昔の武士を表す**サムライ**の字を練習した。	
(15) 手本に**ナラ**って、筆を動かした。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 昆弟	(17) 雄弁	(18) 侍医	(19) 諸君	(20) 娘心

この回を終えたら もう一度確かめる

誰から見た呼び名かを確かめましょう。
その関係の名だけで、相手の性格や全ての経験は決まりません。

七　文章の中で考えよう

花婿への手紙

手紙のいちばん上に、「いつも私を守る英雄」と書いた。叔父の結婚式で読む手紙だ。真帆は例文と見比べた。まだ二行しかないのに、もう自分の文章ではないような気がした。

母の弟だから叔父、今日は花婿、結婚相手の父には娘婿になる。呼び名を考えるだけでも、同じ人が少し違って見える。真帆が書きたいのは、どの顔だろう。

昆虫を捕まえに行った日を思い出した。叔父が見つけたカブトムシを、真帆は枝から落としてしまった。二人で草を分けて探し、叔父は途中で帽子をなくした。かっこよい話にするのは難しい。

贈り物の包装をする叔父の隣に、伴侶になる女性がいた。帽子の話を聞くと、声を上げて笑う。叔父も「君が、帽子ならまた買えるって言ったんだ」と言った。真帆は覚えていなかった。

励ましてもらっていたのは、自分だけではなかったらしい。

児童館で作った侍の紙人形も出てきた。叔父が形を切り、真帆が顔を描いたものだ。「私はずっと補佐だったと思ってた。」叔父は、作者は二人だと答えた。女の子だからその役になったのではない。「顔は私が描きたい」と、真帆が先に言ったのだという。

人形の顔には、片方だけ長いまつげがある。直そうとすると、叔父は「それもよく覚えてる」と言った。真帆はペンを置いた。朗読の教室で習った、文章を書くときの倫理を思い出す。相手の話を、都合よく別の話にしてよいのか。例文を模倣しても、御礼の中身までは借りられない。

写真と手紙を併用することにした。雄大な山を背にした写真では、叔父の帽子だけがない。この話を書いてよいか尋ねると、二人はうなずいた。「でも、カブトムシは最後に見つかったよ。」叔父が付け加えた。

真帆は「英雄」を消した。守る人と守られる子ども、というだけの関係ではなかった。人を包む大きな言葉より、一緒に草を探した場面を書きたい。虫が見つかったことも、書き足した。

式の前、手紙の末尾に、これから二人としたいことを書いた。次に帽子を探すときも、一人ではないだろう。読み返すと、今度は自分で少し笑えた。

人物・結婚式・手紙・思い出は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、人の行いや関わり方のよしあしを考えるときの語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）人や物事どうしのつながりを表す「カンケイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）この話の「娘婿」が、誰から見た関係かを選びなさい。

ア　真帆から見た関係。
イ　叔父自身から見た関係。
ウ　結婚相手の父から見た関係。
エ　児童館の先生から見た関係。

（4）紙人形について本文に合うものを選びなさい。

ア　叔父は二人を作者と捉えていた。
イ　真帆は人形作りを見ていただけだった。
ウ　顔を描く役は、性別で決められていた。
エ　真帆だけが形も切って完成させた。

（5）真帆が「英雄」を消して草を探した場面を書こうとした理由を、叔父との会話を踏まえて45〜55 字で書きなさい。

（6）真帆の立場で手紙の一部を、「叔父」「御礼」を使って 70〜90 字で書きなさい。帽子のなくなった日の出来事と、伝えたい思いを結びます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第三回　人と家族

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　書いたり作ったりする人など、ある行為や立場に関わる人を表す。者は年齢や性別を限定する字ではない。

（2）ウ　弟子は教えを受ける人。子が付いていても、小さな子どもだけに限らない。

（3）イ　叔父は父母の弟や、父母の妹の夫など。父母の兄などは伯父と表記する。

（4）エ　侶は仲間に関わる字。伴侶は、ともに連れ立つ相手や生活をともにする相手などをいう。

（5）ウ　主となる人を助けることに関わる。補佐する人の具体的な仕事は、場面から確かめる。

（6）ア　形や方法をまねること。許可の有無や、その行為のよしあしは、語だけでは決まらない。

四　熟語を広げよう

（1）記者　（2）作者　（3）弟子　（4）人格　（5）叔父

（6）伴侶　（7）一人娘　（8）娘婿　（9）児童館　（10）昆虫

（11）包装　（12）模倣　（13）御礼　（14）雄大

（4）人格は人柄や人としてのあり方。（7）は一人だけの娘、（8）は娘の夫という関係に着目する。（13）御礼は、ここでは「おれい」と読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　同じ人にも複数の関係がある。誰から見た呼び名かを確かめる。

（2）エ　弟子は学ぶ立場を表し、年少者だけではない。誰かに学び、別の相手に教えることもある。

（3）ア　この文では、まねる練習と、考える材料にすることを分けている。参考の中に、部分的に倣うことが含まれる場合もある。

（4）ウ　君は相手を呼ぶ語として使われている。使う場面や関係によって受け止められ方も異なる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

司会者を補佐するため、発言の順番と残り時間を知らせた。

☆自分で確かめる点　助ける相手の役目と、自分がすることが分かるか。

（6）解答例

案内では写真と文章を併用し、初めて来る人に場所を伝えた。

☆自分で確かめる点　二つのものを合わせて用いる意味になっているか。

六　短文で使ってみよう

（1）人形　（2）子　（3）読者　（4）女性　（5）叔母

（6）僧侶　（7）花婿　（8）君主　（9）児童　（10）包囲

（11）娘　（12）御所　（13）英雄　（14）侍　（15）倣

（16）こんてい　（17）ゆうべん　（18）じい　（19）しょくん　（20）むすめごころ

（5）は母の妹とあるので「叔母」。（14）は「侍」。（15）は「倣って」とつながる。（16）は「こんてい」、（18）は「じい」と読む。

七　文章の中で考えよう

（1）倫理　ここでは、相手の話を自分に都合よく変えてよいかを考えている。

（2）関係　誰から見た呼び名か、互いに何をしたかによって、二人のつながりを捉え直す。

（3）ウ　結婚する相手の父から見て、娘の夫となる人。真帆からは叔父という関係が続く。

（4）ア　叔父が形を切り、真帆が描いた。それぞれの仕事があり、叔父は二人を作者としている。

七　記述問題の考え方

（5）　英雄という言葉を消した理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

叔父は一方的に守る英雄ではなく、自分も励ます言葉をかけた相手であり、一緒に探した実際の思い出を伝えたいから。

（5）別解例　53 字

叔父の話から自分も相手を励ましていたと知り、例文の立派な人物像より、二人で草を探した出来事を書きたいから。

☆（5）自分で確かめる点

① 叔父が真帆の言葉を覚えていたことを根拠にしたか。
② 一方が守るだけではない関係と、具体的な場面を書きたい思いを結んだか。
③ 叔父への感謝がなくなったとはしていないか。

助ける側・助けられる側という見方の変化を示してもよい。英雄という語自体が、いつでも不適切だという説明にはしない。

（6）　結婚式で読む手紙 70〜90 字

（6）解答例　83 字

叔父さん、カブトムシを一緒に探してくれた御礼を伝えます。帽子をなくしたけれど、最後に虫は見つかりました。私の言葉も覚えていてうれしいです。またお二人と出かけたいです。

（6）別解例　86 字

帽子をなくしながら一緒にカブトムシを探してくれた叔父さんに、御礼を伝えます。帽子ならまた買えると言った私の言葉を覚えていたのですね。今度はお二人と一緒に遊びに行きたいです。

☆（6）自分で確かめる点

①「叔父」「御礼」を使ったか。
② カブトムシを探し、帽子をなくした出来事が分かるか。
③ 真帆自身の感謝や、相手とのこれからへの思いを結んだか。

見つかったのはカブトムシで、帽子が見つかったとは本文にない。思い出を短く説明し、誰に何を伝えたいかを明確にする。

漢字から文章へ 第三冊

第四回

からだと健康

けがをした人を描くと、痛そうな顔になりました。
でも、笑っていたら、痛くないと言えるのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

医	肉	病	傷
病気を診て治す	からだの肉 食肉	心身の具合の悪さ	きず きずつける

胆	胴	痘	喉
胆のう 心の強さ	体の中心部分	できものの病気	口の奥から首の内側

いっしょに覚える漢字

直	看	汗	脱	髪	牙
肖	拳	眉	眺	腎	唾

この回で読むお話

笑っているけが人

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
医	イ	病気を診て治す 医師・医学・医療	胆	タン	胆のう／心の強さ 胆のう・大胆・落胆
肉	ニク	からだの肉／食肉 肉・筋肉・肉体	胴	ドウ	頭や手足を除く体の中心部 胴・胴体・胴囲
病	ビョウ ヘイ やむ	心身の具合が悪い 病気・病人・発病	痘	トウ	皮膚にできものが出る病気に関わる 水痘・種痘・天然痘
傷	ショウ きず いたむ	きず／きずつける 傷・負傷・損傷	喉	コウ のど	口の奥から首の内側 喉・咽喉・喉元

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
直	チョク ジキ ただす なおす	まっすぐ／改める 直す・直接・正直	肖	ショウ	よく似る 肖像・肖像画・不肖
看	カン	見守る／世話をする 看護・看病・看板	拳	ケン こぶし	握った手 拳・拳法・拳銃
汗	カン あせ	皮膚から出る水分 汗・発汗・冷汗	眉	ビ まゆ	目の上に生える毛 眉・眉間・白眉
脱	ダツ ぬぐ ぬける	外す／抜け出す 脱ぐ・脱水・脱出	眺	チョウ ながめる	遠くまで見る 眺める・眺望
髪	ハツ かみ	頭に生える毛 髪・頭髪・散髪	腎	ジン	尿を作り、水分などを調節する器官に関わる 腎臓・腎炎
牙	ガ ゲ きば	動物の鋭い歯 牙・象牙・毒牙	唾	ダ つば	口の中に出る液 唾・唾液・唾棄

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「医療」の「医」に関わる働きを選びなさい。
ア　荷物を包む　　イ　病気やけがを診て治す
ウ　海の方角を示す　　エ　日数を数える

(2)「負傷」の「傷」が表すものを選びなさい。
ア　会議の順番　　イ　家の屋根
ウ　人にするお礼　　エ　体に受けたきずやけが

(3)「大胆」と「胆のう」の「胆」を適切に読んだものを選びなさい。
ア　前者は思い切る心、後者は体の器官に関わる　　イ　どちらも必ず同じ病気だけを表す
ウ　前者は髪、後者は手の指　　エ　胆のうは勇気のある人の呼び名

(4)「胴体」が表す部分を選びなさい。
ア　髪の毛だけ　　イ　指先だけ
ウ　頭や手足を除く体の中心部分　　エ　歯の先だけ

(5)「看護」と「看病」に共通する「看」の働きを選びなさい。
ア　人数を増やす　　イ　見守り、世話をする
ウ　絵を消す　　エ　時刻を変える

(6)「肖像」の「肖」に近い意味を選びなさい。
ア　水を運ぶ　　イ　強く握る
ウ　深く怒る　　エ　姿などがよく似る

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　脱水　発病　眉間　医学　腎臓　発汗　負傷
肖像　胴体　眺める　水痘　唾液　筋肉　咽喉

文	解答	文	解答
(1) 病気やけがの診療に関わる□□を学ぶ。		(8) 口の奥や喉に関わる□□という語を調べる。	
(2) 体を動かす□□の働きを調べる。		(9) 丘に上り、遠くの景色を□□□。	
(3) 病気が起きることを□□という。		(10) 汗が出る□□の仕組みを学ぶ。	
(4) 試合で□□した選手が手当てを受けた。		(11) 体内の水分が不足する□□に関する説明だ。	
(5) 左右の眉の間を□□と呼ぶ。		(12) 人物の姿を表す□□画を眺める。	
(6) 頭や手足を除く□□の部分を示す。		(13) 尿を作る器官、□□の図を見る。	
(7)「みずぼうそう」ともいう□□の名を読む。		(14) 口の中に出る□□を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「病気」と「けが」のこの使い方に合うものを選びなさい。

病気についての説明と、転んで負傷した場面の説明を読み比べる。

ア　病気とけがは、いつでも全く同じ原因で起きる。
イ　転んでできた傷を、本文では病名としている。
ウ　心身の具合の悪さと、傷を受けた場面を比べている。
エ　どちらも必ず目に見える。

（2）この「直す」と「治す」に合う説明を選びなさい。

体の絵の向きを直し、病気を治す医療の仕事を紹介する。

ア　前者は形や状態の修正、後者は病気の回復に関わる。
イ　どちらも必ず紙を裏返すこと。
ウ　絵を直せば病気も必ず治る。
エ　後者は文字の誤りだけを表す。

（3）「眺める」と「診る」を適切に読んだものを選びなさい。

医師の肖像を眺めることと、医師が患者を診ることは、同じではない。

ア　どちらも必ず写真だけを見る。
イ　前者は病名を確定すること。
ウ　後者は遠くの景色を見ることだけ。
エ　前者は見ること、後者は病気などの状態を調べること。

（4）この文から確かめられることを選びなさい。

友人は笑いながら「手首が痛い」と言った。痛む理由は聞いていない。

ア　笑っているから痛みはない。
イ　痛みを伝えたが、原因まではこの文では分からない。
ウ　必ず筋肉に傷がある。
エ　病名はすでに分かっている。

（5）「直接」を使い、間に何かを挟まず確かめる場面を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「大胆」を使い、どのような工夫かが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 病気やけがを診て治す**イリョウ**の仕事を知る。	
(2) 人の体を表す**ニクタイ**という語を読む。	
(3) 病院の**ビョウシツ**を訪ねる場面を読んだ。	
(4) 古い本の**ソンショウ**した部分を調べた。	
(5) 計画が中止になり、**ラクタン**した。	
(6) 服の寸法にある**ドウイ**という項目を読んだ。	
(7) 昔の記録にある**シュトウ**という語を調べた。	
(8) 声を出すときの**ノド**の動きを図で見た。	
(9) 病気の人の世話をする**カンビョウ**という語を学んだ。	
(10) 失敗に気づき、**ヒヤアセ**をかいた。	
(11) 服を脱ぐ部屋を**ダツイ**室と呼ぶ。	
(12) 絵の人物の長い**クロカミ**が風になびいていた。	
(13) 怪物の大きな**キバ**を描いた。	
(14) 手の指を曲げて握った**コブシ**の形を写した。	
(15) 目の上の**マユ**を、少し下げて描いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 犬歯	(17) 握手	(18) 白眉	(19) 眺望	(20) 咽頭

この回を終えたら もう一度確かめる

体の部分、見えた様子、本人が伝えた感覚を分けて読みましょう。
一つの表情だけで、痛みや病気の有無は決められません。

七　文章の中で考えよう

笑っているけが人

航の描いた待合室では、全員が眉を寄せ、拳を握り、汗を流していた。学校の展示に出す漫画だ。痛さを伝えようと大胆に描いたら、牙まで出た顔になった。「これ、怪物の待合室？」隣の紬が笑った。

航は医学の本を開いた。胴体の中の筋肉、胆のう、腎臓の図、別の冊子には水痘などの病名がある。余白へ字を書き写しても、自分の絵に何が足りないかは分からない。鉛筆の芯だけが丸くなっていった。

紬は、自分が負傷した日を話した。転んで手首を痛め、母と待合室にいた。看護師に声をかけられると、うなずいて笑ったという。航は、漫画の顔から紬へ目を移した。

「でも、痛かったよ。」
「痛い人は、こんな顔だと思ってた。」
「待ってる間、お母さんの話で笑ったこともあるよ。」

航は、笑いと痛みを別々のこまに描こうとして、手を止めた。同じ場面にあったのだ。今の漫画では、笑顔になったとたん、治ったように見えてしまう。

患者の表情を直した。髪の長い人、上着を脱いだ人、窓の外を眺める人もいる。紬は「喉が痛い人も、ずっと喉を押さえてるわけじゃないよね」と言う。唾を飲み込む小さな動作を描くのは難しい。航は、同じ横顔を三つ並べて試した。

病名を顔だけで当てさせる漫画にはしない。笑顔の患者に「話すときは笑ったが、手首は痛かった」と添える案を、紬に見せた。使ってよいと言われ、文字を入れる。傷が見えないから何もない、とは受け取られたくなかった。

仕上げに廊下へ出ると、医師の肖像が目に入った。絵の人物が何を考え、何を感じているかまでは分からない。直接話してくれた紬の言葉が、描いた顔に重なった。

牙の出た顔は、欄外へ残した。「この人だけは、本当に怪物かも。」紬が言う。航はその下へ、小さく「顔だけでは分かりません」と書いた。

人物・漫画・受診の経験は教材用の創作で、診断や治療の方法を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、病気やけがの人などを見守り、世話をすることに関わる語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）頭に生える毛を表す「トウハツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）この話の「大胆」の意味に合うものを選びなさい。

ア　必ず病気が治ること。
イ　絵を全く描かないこと。
ウ　思い切った表し方をすること。
エ　細かい字を数えること。

（4）紬が話した経験として、本文にあるものを選びなさい。

ア　笑っている間も手首は痛かった。
イ　笑うと手首の痛みは全てなくなった。
ウ　待合室の全員が同じ病気だった。
エ　医師の肖像を見て自分の病名を決めた。

（5）航が笑顔の患者に紬の言葉を添えた理由を、初めの絵との違いも含め、45〜55 字で書きなさい。

（6）漫画の紹介文を、「表情」「負傷」を使って 70〜90 字で書きなさい。描き直した点と、見てほしいことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第四回　からだと健康

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　医は病気やけがを診て治すことに関わる。医師・医学などの熟語全体でも意味を確かめる。
（2）エ　負傷はけがをすること。損傷は物や組織などが傷むことにも使う。
（3）ア　胆には体の器官と、心の強さに関わる使い方がある。熟語の中での働きを確かめる。
（4）ウ　体の中心となる部分。人体以外に、人形や乗り物などの中心部分に使うこともある。
（5）イ　体の状態などを見守り、世話をすること。看板は、人の目に示す物を表す語として使う。
（6）エ　肖は似ることに関わる字。肖像は、特定の人の姿を表す絵・写真・彫刻などをいう。

四　熟語を広げよう

（1）医学　（2）筋肉　（3）発病　（4）負傷　（5）眉間
（6）胴体　（7）水痘　（8）咽喉　（9）眺める　（10）発汗
（11）脱水　（12）肖像　（13）腎臓　（14）唾液
（5）眉間は左右の眉の間。（9）は「眺める」と送り仮名も含める。病名や体の状態を表す語の練習であり、症状から自分で病名を決める問題ではない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　病気は心身の働きなどに不調が生じること、けがは体に傷を受けることに関わる。見た目だけで全てを決めない。
（2）ア　絵の修正と、病気の治療や回復を分けている。直・治の字を文脈に合わせる。
（3）エ　診るは診察すること。絵や写真の印象だけで、人物の体の状態まで決めることとは異なる。
（4）イ　表情と本人の言葉は、どちらも記されている。表情だけで言葉を取り消したり、原因を足したりしない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

話を聞いた本人に直接尋ねて、記録の時刻が合うかを確かめた。

☆自分で確かめる点　誰に、どのように確かめるかが分かるか。

（6）解答例

紙の端まで大きな顔を描く大胆な構図で、人物の驚きを表した。

☆自分で確かめる点　思い切って行う意味で使ったか。

六　短文で使ってみよう

（1）医療　（2）肉体　（3）病室　（4）損傷　（5）落胆
（6）胴囲　（7）種痘　（8）喉　（9）看病　（10）冷汗
（11）脱衣　（12）黒髪　（13）牙　（14）拳　（15）眉
（16）けんし　（17）あくしゅ　（18）はくび　（19）ちょうぼう　（20）いんとう
（7）は「種痘」。（11）は「脱衣室」とつながる。（18）は「はくび」、（19）は「ちょうぼう」。語や読みを学ぶ問題であり、診断や治療の手順ではない。

七　文章の中で考えよう

（1）看護　本文の「看護師」に使われている。病気やけがの人などを見守り、世話をすること。
（2）頭髪　頭に生える毛。「髪」を使って書く。
（3）ウ　痛さを大きく表そうと、牙まで出た顔にした描き方。器官名の胆のうとは意味が違う。

（4）ア　笑っても痛かったという、本人の言葉がある。笑顔だけで痛みの有無や病名は判断しない。

七　記述問題の考え方

（5）　笑顔に添えた言葉 45〜55 字

（5）解答例　53 字

初めは痛い人を険しい顔だけで描いたが、笑っていても痛みはあると知り、表情だけで誤解されないようにするため。

（5）別解例　52 字

笑顔なら治ったと見える絵にせず、負傷した紬の痛みが続いていたことを、本人の言葉でも伝えたいと考えたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 初めは痛い人を特定の顔で表していた点を捉えたか。
② 笑いと痛みが同じ場面にあったという紬の話を根拠にしたか。
③ 絵の表情を言葉で補う目的と結んだか。

笑顔を描いてはいけないという話ではない。本人が伝えた痛みを、見た目だけで消してしまわない工夫に着目する。

（6）　漫画の紹介文 70〜90 字

（6）解答例　84 字

待合室の人を同じ表情で描きましたが、負傷した人も笑うと聞き、描き直しました。笑顔の横には、手首が痛かったという本人の言葉も添えています。絵と言葉を合わせて見てください。

（6）別解例　86 字

負傷していても、笑うときはあると知って、患者の表情を描き直した漫画です。顔だけでは痛みの有無は分かりません。本人の言葉も添えたので、最初の絵から何が変わったか見てください。

☆（6）自分で確かめる点

①「表情」「負傷」を使ったか。
② 同じ痛そうな顔から、笑顔などの表情も描くように変えたと分かるか。
③ 絵と本人の言葉を合わせて見てほしいことを伝えたか。

病名を新しく足す必要はない。漫画の改善点を説明し、実際の診断や治療の案内にはしない。

漢字から文章へ 第三冊

第五回

性質と気持ち

先生は穏やかな声で「困ります」と言いました。
声が静かなら、怒っていないのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

必	性	忠	恭
欠かせない 必ず	物や人の特徴	まごころを尽くす	礼を尽くす

慢	衷	煩	憤
おごる 怠る	心の中 まんなか	思い悩む わずらう	強く怒る

いっしょに覚える漢字

急	苦	善	敬	朗	侮
嫌	賢	淑	愚	穏	羞

この回で読むお話

穏やかな声の抗議

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
必	ヒツ かならず	欠かせない／必ず 必要・必死・必然	慢	マン	おごる／怠る 慢心・自慢・怠慢
性	セイ ショウ	生まれつきの傾向／物事の特徴 性質・個性・性格	衷	チュウ	心の中／まんなか 苦衷・衷心・折衷
忠	チュウ	まごころを尽くす／そむかず守る 忠実・忠告・忠誠	煩	ハン ボン わずらう わずらわす	思い悩む／わずらわしい 煩う・煩雑・煩悩
恭	キョウ うやうやしい	礼を尽くす 恭しい・恭敬・恭順	憤	フン いきどおる	強く怒る 憤る・憤慨・憤激

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
急	キュウ いそぐ	速い／突然 急ぐ・急速・緊急	嫌	ケン ゲン きらう いや	いやがる 嫌う・嫌悪・機嫌
苦	ク くるしい にがい	つらい／にがい 苦しい・苦労・苦心	賢	ケン かしこい	よく考え判断できる 賢い・賢明・賢人
善	ゼン よい	正しくよい 善い・善意・改善	淑	シュク	品よく善い／よいとして慕う 淑女・淑徳・私淑
敬	ケイ うやまう	相手を大切にする 敬う・尊敬・敬意	愚	グ おろか	考えが足りない 愚か・愚問・愚直
朗	ロウ ほがらか	明るくはっきり 朗らか・朗読・明朗	穏	オン おだやか	落ち着いて静か 穏やか・平穏・穏当
侮	ブ あなどる	相手を軽く見る 侮る・侮辱・軽侮	羞	シュウ はじる はじらう	恥ずかしく思う 羞恥・含羞

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「必要」の「必」に関わるものを選びなさい。
ア　あってもなくても同じ　　イ　全て捨てる
ウ　欠かせない　　エ　声を大きくする

(2)「忠実」の意味に合うものを選びなさい。
ア　声を強くして怒る　　イ　まごころをもって務めたり、内容をそのまま守ったりする
ウ　資料を見ずに変える　　エ　相手を軽く見る

(3)「恭しい」の意味に近いものを選びなさい。
ア　礼を尽くして丁寧である　　イ　必ず相手に賛成する
ウ　わざと事実を変える　　エ　必ず喜んでいる

(4)「慢心」の「慢」に近い働きを選びなさい。
ア　数を量る　　イ　まねて覚える
ウ　道を分ける　　エ　思い上がる

(5)「苦衷」の「衷」に関わるものを選びなさい。
ア　紙の表面　　イ　山の頂
ウ　心の中の思い　　エ　船の数

(6)「憤り」の意味に合うものを選びなさい。
ア　明るく笑うだけ　　イ　強い怒りを感じること
ウ　道具を包むこと　　エ　遠くを眺めること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　賢明　恭しい　煩雑　穏和　朗読　嫌悪　怠慢
必要　憤慨　忠実　善意　慢心　侮辱　苦衷

文	解答	文	解答
(1) なくてはならない □□な道具をそろえる。		(8) 込み入ってわずらわしい □□な手続きを見直す。	
(2) 文章を声に出して読む □□の会に参加した。		(9) 不当な扱いへの □□を言葉にする。	
(3) 原文の内容に □□に書き写す。		(10) 相手のためを思う □□から申し出た。	
(4) 礼を尽くした □□□態度で迎える。		(11) 性格や態度が穏やかな □□な人と話した。	
(5) 自分の力を過信する □□を戒めた。		(12) 相手を軽く見て傷つける □□を含む言い方だ。	
(6) するべき仕事を怠った □□を反省する。		(13) よく考えた □□な判断だった。	
(7) 相手が抱える心の苦しみ、 □□を聞いた。		(14) ひどく嫌だと感じる □□の気持ちを抱いた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「善意」と「結果」の関係に合うものを選びなさい。

善意で荷物を片づけたが、持ち主はまだ使う物を探せなくなった。

ア　相手のためを思えば、困らせることはない。
イ　困ったので、片づけた人に善意は全くなかった。
ウ　片づけはどんな場合も侮辱になる。
エ　相手のためを思ったことと、困る結果は両方あり得る。

（2）「穏やか」と「憤る」の使い方に合うものを選びなさい。

不当な扱いに憤っていたが、相手には穏やかな声で改善を求めた。

ア　穏やかなので、改善を求めていない。
イ　怒りを感じながら、落ち着いた声で伝えた。
ウ　憤るとは、必ず大声で怒鳴ること。
エ　二つの語は同じ文に使えない。

（3）この「煩雑」の対象に合うものを選びなさい。

申込手順が煩雑なので、重複する記入欄を減らした。

ア　手順が入り組み、わずらわしいこと。
イ　申込者全員の性格が悪いこと。
ウ　受付の人が必ず怒っていること。
エ　用紙が白いこと。

（4）「忠実」と「賛成」を適切に読んだものを選びなさい。

相手の意見を忠実に書き留めたが、提案には賛成しなかった。

ア　賛成しないなら、記録は必ず誤りだ。
イ　記録したので、提案を実施すると決まった。
ウ　意見を正確に記すことと、支持することを分けている。
エ　相手の発言を全て消した。

（5）「敬意」を使い、相手を大切にしていると分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「憤り」を使い、何に怒っているかが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 必ずそうなることを、**ヒツゼン**という。	
(2) 物語の人物の**セイカク**を、行動から考えた。	
(3) 友人のためを思い、**チュウコク**した。	
(4) 相手に礼を尽くす**キョウケイ**の気持ちを示した。	
(5) 初めて作った作品を、家族に**ジマン**した。	
(6) 二つの案を取り入れた**セッチュウ**案を出した。	
(7) 心を悩ませる**ボンノウ**という語を調べた。	
(8) 不当な扱いを知り、**フンゼン**として抗議した。	
(9) 自分の失敗を思い出し、**クショウ**した。	
(10) 他人を思いやる**ゼンリョウ**な人物が出てくる。	
(11) 相手との関係に応じて、**ケイゴ**を使った。	
(12) 見た目だけで相手を**アナド**ってはいけない。	
(13) 知恵のある**ケンジャ**に相談する話を読んだ。	
(14) 礼儀正しい女性を表す**シュクジョ**という語を学んだ。	
(15) 不器用なほど正直な、**グチョク**な人を描いた物語だ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 私淑	(17) 愚問	(18) 穏やか	(19) 嫌う	(20) 苦心

この回を終えたら もう一度確かめる

人の気持ちと、声や態度を分けて読んでみましょう。
人物を評する前に、何をしたか、何を求めたかも確かめます。

七　文章の中で考えよう

穏やかな声の抗議

ごみ箱の底に、青い紙の角が見えた。返す予定だった下描きだ。僕は紙を引っ張り、付いていた小さな糸を払った。礼先生の声が、まだ耳に残っている。

町の絵画教室の先生だ。恭しい口調で話すので、ある生徒が「淑女みたい」と呼び、周りも使い始めた。明るく朗らかな人で、僕は怒らない性格だとも思っていた。

展示の片づけで、僕は机の下の紙を捨てた。急いで準備をするには、必要ない物を減らすのが賢明だと思ったのだ。だが、来週返すと約束した下描きも混じっていた。先生は静かな声で「困ります。残す約束でした」と言った。

ひどく憤ってはいないのだろうと思い、「手間を減らそうと、善意でやったんです」と答えた。先生はうなずいたが、「約束した人に、返せなくなりました」と繰り返した。ごみ箱を探す間、羞恥で顔が熱くなった。一人では手が回らず、手順も煩雑だった。その苦衷はある。けれど、声の穏やかさまで許してもらう理由にしていた。

下描きを見つけても、そのことは消えなかった。

戻ってきた先生へ、紙を渡す前に尋ねた。「怒っていないんですか。」
「怒っています。でも、あなたを愚かな人だと決めたいのではありません。捨てる前に確かめてほしかったんです。」
僕には、その言葉の方が大声よりも残った。

手順に忠実なつもりで、残す紙の札は読み飛ばしていた。慣れからの慢心もある。怠慢という一語で片づけず、どこで確かめなかったかを伝えたかった。下描きを伸ばして袋へ入れ、次の担当へ、札と持ち主を確かめる手順を書く。袋の口は、下描きが折れないように開けておいた。

先生は引継ぎを最後まで読んだ。敬意のある言い方と、困ることをはっきり伝えることは、両方あった。許したとも言っていない。僕は紙の角を見ながら、もう一度謝った。

帰りに「淑女先生、紙、見つかった？」と声がした。呼び名が嫌なわけではない。ただ、怒りもある一人の人へ、僕は「礼先生」と呼びかけ直した。侮るつもりがなくても、見たい顔だけを見ていたのかもしれない。

人物・教室・出来事は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、恥ずかしいと感じる気持ちを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）急いで済ませる必要のある用事を表す「キュウヨウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「恭しい」が表すものを選びなさい。

ア　必ず相手に賛成すること。
イ　礼を尽くした丁寧な様子。
ウ　声を大きくすること。
エ　困ったことを全て隠すこと。

（4）礼先生が求めたこととして適切なものを選びなさい。

ア　今後は片づけを一切しないこと。
イ　善意なら何をしてもよいと考えること。
ウ　捨てる前に残す物かどうか確かめること。
エ　怒りを感じたら必ず大声を出すこと。

（5）僕が「声の穏やかさまで許してもらう理由にしていた」と気づいたのはなぜか、45〜55 字で説明しなさい。

（6）次の担当者への引継ぎを、「必要」「確認」を使って 70〜90 字で書きなさい。自分の失敗と、次にすることを結びます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第五回　性質と気持ち

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　必は必ずそうであることや、欠かせないことに関わる。必要は、なくてはならないことや、そのものをいう。

（2）イ　任務へのまじめさや、原文などを正確に守ることに使う。何に忠実なのかを確かめる。

（3）ア　相手へ礼を尽くす様子。丁寧な態度であっても、異なる意見を伝えることはある。

（4）エ　自分の力などを過信し、思い上がることに関わる。怠慢では、怠るという働きが表れる。

（5）ウ　苦衷は苦しい立場や、心の中の苦しみ。他人からすぐ見えるとは限らない事情にも使う。

（6）イ　不当なことなどに、強い怒りを感じること。声が大きいかどうかだけでは判断できない。

四　熟語を広げよう

（1）必要　（2）朗読　（3）忠実　（4）恭しい　（5）慢心

（6）怠慢　（7）苦衷　（8）煩雑　（9）憤慨　（10）善意

（11）穏和　（12）侮辱　（13）賢明　（14）嫌悪

（2）は声に出して読むこと。（11）穏和は性格や態度が穏やかなこと。（14）嫌悪はひどく嫌だと思うこと。善意があっても、その行動が相手の希望に合うかは別に確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　思いと結果を分けて読める。善意という語だけで行動を正当化せず、結果だけで思いを取り消さない。

（2）イ　心の中の怒りと、声の様子を分けている。穏やかな声でも明確に抗議することはある。

（3）ア　ここでは手順のあり方を表す。申込者の性格や、受付の人の気持ちを決める語ではない。

（4）ウ　忠実に記録することは、その意見への賛成を意味しない。相手の意見を理解した上で異論を述べることもできる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

異なる意見にも敬意を払い、相手の理由を最後まで聞いた。

☆自分で確かめる点　具体的にどのように関わったかを示したか。

（6）解答例

約束を確かめずに作品を捨てた行為への憤りを、言葉で伝えた。

☆自分で確かめる点　怒りの対象と、伝える内容が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）必然　（2）性格　（3）忠告　（4）恭敬　（5）自慢

（6）折衷　（7）煩悩　（8）憤然　（9）苦笑　（10）善良

（11）敬語　（12）侮　（13）賢者　（14）淑女　（15）愚直

（16）ししゅく　（17）ぐもん　（18）おだやか　（19）きらう　（20）くしん

（4）は「恭敬」、（14）は「淑女」と書く。（12）は「侮って」とつながる。（16）は「ししゅく」、（17）は「ぐもん」と読む。

七　文章の中で考えよう

（1）羞恥　自分が下描きを捨てたことを恥ずかしく思い、顔が熱くなった。

（2）急用　急いで済ませる必要のある用事。「休養」とは字も意味も異なる。

（3）イ　丁寧な口調のこと。賛成や許し、怒りの有無をその語だけで決めない。
（4）ウ　相手の人格を決めつけず、確かめずに捨てた行為を指摘している。

七　記述問題の考え方

（5）　穏やかな声をどう受け取ったか 45〜55 字

（5）解答例　55 字

先生は約束を守れなくなったことに怒っていたのに、僕は静かな声を怒りが弱い印と捉え、行為を認めてほしかったから。

（5）別解例　55 字

困ると繰り返し伝えられたのに、穏やかな声なので深く怒っていないと思い、善意だったという説明で済ませかけたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 声の静かさと、怒りや困っている内容を取り違えた点を示したか。
② 先生が約束していた紙を返せなくなる事実を踏まえたか。
③ 善意や事情を、行為の結果を取り消す理由にしていないか。

先生が許したとは書かれていない。静かな言い方でも、怒りと求めることを明確に伝えている。

（6）　片づけの引継ぎ 70〜90 字

（6）解答例　85 字

私は必要ないと思い込み、返す約束の下描きを捨てました。片づける前に紙の札と持ち主を確認し、返す物かどうかを確かめてください。急いでいても、その確認を飛ばさないでください。

（6）別解例　86 字

机の下の紙も必要ないとは限りません。私は札を読み飛ばして、返す予定の下描きを捨てました。まず札と持ち主を確認してください。何を残すかを確かめてから、捨てる物を分けましょう。

☆（6）自分で確かめる点

①「必要」「確認」を使ったか。
② 必要ないと思い込み、返す下描きを捨てた失敗を伝えたか。
③ 札と持ち主を確かめてから片づける手順を示したか。

誰かの性格を評する引継ぎではなく、次の人が確かめられる行為を書いているかを見る。別の具体策も、本文の失敗に対応していればよい。

漢字から文章へ 第三冊

第六回

言葉としるし

昔からある唄だと思ったら、祖母が昨日作ったものでした。
新しい唄だと知ると、どう紹介したくなるでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

発	調	訓	詩
外へ出す 起こる	調べる 整える	教え 日本語の読み	言葉で表す作品

載	詐	唄	詮
紙面などにのせる	偽ってだます	節をつけた歌	調べる つまるところ

いっしょに覚える漢字

和	向	刊	訪	呈	呉
乞	喝	嘆	彙	楷	伝

この回で読むお話

昨日生まれた店の唄

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
発	ハツ ホツ	外へ出す／物事が起こる 発表・発行・出発	載	サイ のせる	上に置く／誌面に出す 載せる・掲載・記載
調	チョウ しらべる ととのえる	調べる／具合やつり合いを整える 調査・調整・調子	詐	サ	偽ってだます 詐欺・詐称・詐取
訓	クン	教え／漢字の日本語の読み 訓読み・教訓・訓練	唄	うた	歌／節をつけた声 唄・小唄・長唄
詩	シ	言葉で心や情景を表す作品 詩・詩人・詩集	詮	セン	調べて明らかにする／つまるところ 詮議・詮索・所詮

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
和	ワ やわらぐ なごむ	穏やかになる／合う／日本 和らぐ・調和・和語	乞	こう	願い求める 乞う・雨乞い
向	コウ むく むかう	ある方へ進む 向く・方向・傾向	喝	カツ	大声を出す／声を上げてほめる 一喝・喝采・恐喝
刊	カン	本などを世に出す 刊行・週刊・創刊	嘆	タン なげく	深く感じる／悲しむ 嘆く・感嘆・嘆願
訪	ホウ たずねる おとずれる	人や場所をたずねる 訪ねる・訪問・来訪	彙	イ	同類を集める 語彙・字彙
呈	テイ	差し出す／様子を示す 呈する・贈呈・進呈	楷	カイ	手本／字形の整った書き方に関わる 楷書・楷書体
呉	ゴ	中国の国名などに使う字 呉・呉音・呉服	伝	デン つたえる つたわる	人から人へ知らせたり渡したりする 伝える・伝達・伝統

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「発表」と「発行」に関わる「発」の働きを選びなさい。
ア　人に知らせたり、外へ出したりする　　イ　文字を全て消す
ウ　時刻を数える　　エ　必ず船に乗る

(2)「調査」の「調」の意味に近いものを選びなさい。
ア　人をだます　　イ　歌を作るだけ
ウ　詳しく調べる　　エ　紙を包む

(3)「訓読み」の「訓」に合うものを選びなさい。
ア　必ず外国語で読むこと　　イ　漢字の意味に対応する日本語による読み
ウ　作者の名前を隠すこと　　エ　本の印刷部数を数えること

(4)「掲載」と「記載」に共通する「載」の働きを選びなさい。
ア　歌の声を低くする　　イ　物を捨てる
ウ　必ず嘘をつく　　エ　誌面や書類などにのせる

(5)「詐称」の「詐」に近いものを選びなさい。
ア　読みを習う　　イ　うっかり間違えるだけ
ウ　偽ってだます　　エ　相手をほめる

(6)「喝采」の意味に合うものを選びなさい。
ア　ほめたたえる声を上げること　　イ　必ず相手を叱ること
ウ　唄の作者を調べること　　エ　文字を整えて書くこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　和語　伝統　教訓　発表　詐称　刊行　調査
贈呈　詩集　調整　喝采　発車　訓読み　訪問

文	解答	文	解答
(1) 会で作品を□□する。		(8) 漢字の音読みからできた語と、日本語にもとからある□□を比べる。	
(2) 列車が駅を出る□□の時刻を調べる。		(9) 名前や身分を偽る□□について調べる。	
(3) 実際の様子を□□して確かめる。		(10) 受け継がれてきた技や習慣などの□□を学ぶ。	
(4) 音の大きさを□□してそろえる。		(11) 本や冊子を□□して世に出す。	
(5)「山」を「やま」と読む□□□を確かめる。		(12) 相手へ作品を贈る□□式を行う。	
(6) 経験から得た□□を次に生かす。		(13) 演技をほめる□□が起こった。	
(7) 詩をまとめた□□を読む。		(14) 相手の家へ出向く□□の予定を決めた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「掲載」と「刊行」の関係に合うものを選びなさい。

地域の唄を掲載した冊子を刊行する。

ア　掲載したので、本は必ず売れなくなる。
イ　唄を紙面に載せ、その冊子を世に出す。
ウ　刊行とは、唄を歌う声だけを大きくすること。
エ　掲載した内容は、全て古いものと決まる。

（2）「詐称」と「誤記」を区別して読んだものを選びなさい。

作者名が違っていたが、故意に偽ったのか、書き間違えたのかはまだ調べていない。

ア　違いを見つけたので、必ず詐称だと決まる。
イ　書き間違いに違いないので、確認は不要だ。
ウ　どちらでも作者は同じなので直さなくてよい。
エ　誤りは分かるが、意図まではまだ決められない。

（3）「感嘆」と「嘆く」の使い方に合うものを選びなさい。

祖母の見事な唄に感嘆したが、録音に失敗したことは嘆いた。

ア　感心したことと、残念に思ったことを述べている。
イ　どちらも必ず怒っている。
ウ　唄が嫌いだと二度述べている。
エ　録音は問題なく残ったと分かる。

（4）「語彙」と「言葉」に合う説明を選びなさい。

土地の語彙を集め、唄の紹介に使う言葉を選んだ。

ア　語彙は必ず一つの発言だけ。
イ　言葉を選べば、語の意味は確かめなくてよい。
ウ　語の集まりを調べ、その中から表現を選んだ。
エ　どちらも紙の枚数を示す。

（5）「掲載」を使い、何をどこへ載せるかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「感嘆」を使い、何に心を動かされたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 取材へ行くため、朝早く**シュッパツ**した。	
(2) 声の**チョウシ**を確かめてから録音する。	
(3) 声の出し方の**クンレン**も続けた。	
(4) この作品を書いた**シジン**の名を調べた。	
(5) 作者名を用紙に**キサイ**した。	
(6) 人をだまして財物を奪う**サギ**という語を学んだ。	
(7) 短い**コウタ**を一つ聞いた。	
(8) 風の吹く**ホウコウ**を窓で確かめた。	
(9) 相手へ差し上げる本に、**キンテイ**と記した。	
(10) 着物の布を扱う**ゴフク**店を訪ねた。	
(11) 雨を願う**アマゴ**いの話を読んだ。	
(12) 大声で相手を叱る**イッカツ**という語を読む。	
(13) 録音に失敗したことを**ナゲ**いた。	
(14) 字形を整えた**カイショ**で名前を書いた。	
(15) 聞いた内容を正しく**デンタツ**する。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 呉音	(17) 唄う	(18) 所詮	(19) 和文	(20) 乞う

この回を終えたら もう一度確かめる

作者や由来を示す言葉が、作品の受け取り方をどう変えるか考えましょう。
紹介文の印象と、確かめた内容を行き来して読みます。

七　文章の中で考えよう

昨日生まれた店の唄

「一枚ひらり、風を着る。」
布を畳む祖母の手に、唄の言葉が付いてくる。呉服店を訪ねた紗良は、隅で録音した。古くから店に伝わる唄に違いない。窓から入る風で、布の端だけがゆっくり動いていた。

町の冊子に掲載する見出しは、「代々伝わる店の唄」。作者は不詳と記載した。楷書で整えると、由緒のある作品らしく見える。発表での喝采まで思い描いた。

取材の終わり、祖母に教えを乞い、歌詞を確かめた。すると「それ、昨日作ったの」と言われた。最近詩集を読み、和語の響きが面白くなったという。「風を着る」は、昨日の暖かな風から浮かんだ言葉だった。

紗良は落胆した。「昔の唄じゃないんだ。」祖母は、所詮は店で口ずさむだけだと笑う。紗良は録音をもう一度聞いた。布を押さえる所で少し待ち、畳む所で声が伸びる。そこに感嘆したのではなかったか。

録音した声は、さっきと同じだった。

作者を偽る詐称という語を習ったばかりだ。だますつもりはなかったが、由来は確かめていない。祖母の生きた言葉を、勝手に遠い昔へ置こうとしていた。作者と作った日を書き直した。

語彙欄には、店で聞いた言葉を集める。難しい漢字の訓読みも調べ、歌詞と録音を照らして調整した。店の秘密まで詮索しなくても、載せる言葉の由来は確かめたい。祖母に見せると、一行だけ歌い直された。今日の手の動きには、その方が合うらしい。

紗良は書きかけの紙を押さえ、祖母が歌い終わるまで待った。さっき整えた字の脇に、新しい言葉が入る。消した線をたどると、古そうに見せたかった自分の見出しも、まだ薄く読めた。

冊子が刊行されると、祖母に贈呈するため、また店へ向かった。紹介には取材の前日に作られたとある。新しいから古い唄より優れている、とは書かない。目の前で言葉が作られるところを伝えたかった。

「これで歌詞は決まり？」
祖母は窓を見た。「今日は雨だからねえ。」
続きを待つ紗良の前で、畳んだ布がもう一度ひらいた。

人物・店・唄・詩集・冊子は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、細かなことまで立ち入って調べようとする語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）ある範囲の語の集まりを表す「ゴイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「教えを乞う」に合う意味を選びなさい。

ア　相手を必ず叱る。
イ　教えてほしいと願い求める。
ウ　作品を自分の作と偽る。
エ　歌詞を全て忘れる。

（4）本文から確かめられることを選びなさい。

ア　店の唄は、何代も前から同じ歌詞で伝わっていた。
イ　祖母は作品を冊子へ出すことを全て断った。
ウ　紗良は初めから、祖母が昨日作ったと知っていた。
エ　祖母は掲載前にも、手の動きに合わせて一行を歌い直した。

（5）紗良が昨日作ったと知っても唄を紹介しようとした理由を、初めに心を動かされた点も含めて45〜55 字で書きなさい。

（6）冊子の紹介文を、「掲載」「伝達」を使って 70〜90 字で書きなさい。作者や由来と、唄の魅力を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第六回　言葉としるし

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　考えや作品を示したり、本などを世に出したりすることに関わる。熟語全体で何をするかを確かめる。

（2）ウ　調査は実際の様子などを調べること。調整では、つり合いや具合を整えることに関わる。

（3）イ　漢字に、その意味に対応する日本語を当てた読み。山の「やま」など。教訓では教えという意味に使う。

（4）エ　文章・写真・事項などを紙面や書類にのせることに関わる。何をどこに載せるかを読む。

（5）ウ　名前や身分などを偽って称すること。うっかりした誤記と、意図的な偽りを区別する。

（6）ア　演技などをほめ、声を上げること。一喝のように叱る場面とは、熟語全体の意味が異なる。

四　熟語を広げよう

（1）発表　（2）発車　（3）調査　（4）調整　（5）訓読み

（6）教訓　（7）詩集　（8）和語　（9）詐称　（10）伝統

（11）刊行　（12）贈呈　（13）喝采　（14）訪問

（2）は列車が出ること。（8）は日本語にもとからある語。（10）は受け継がれてきたもの。（11）は本や冊子を世に出すこと。何をどのように伝える語か、文全体で確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　紙面に作品を載せることと、本自体を世に出すことを分ける。一つの制作で両方を行う。

（2）エ　内容の誤りと、意図的に偽ったかどうかは別。語の意味を知っていても、事情が不明なまま断定しない。

（3）ア　同じ嘆の字でも、感嘆は深く感心すること、嘆くは悲しみや残念さを表す。この文の対象と気持ちを読む。

（4）ウ　語彙は、ある範囲の語の集まり。言葉は、語や表現、発言などを広く指す。重なる面もあるので文中で確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

会報に写真を掲載する前に、写っている人へ内容を確かめた。

☆自分で確かめる点　内容と、載せる媒体が分かるか。

（6）解答例

一枚の紙から細かな鳥を折る手際に、思わず感嘆の声を上げた。

☆自分で確かめる点　感心した対象や様子を具体的に示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）出発　（2）調子　（3）訓練　（4）詩人　（5）記載

（6）詐欺　（7）小唄　（8）方向　（9）謹呈　（10）呉服

（11）雨乞　（12）一喝　（13）嘆　（14）楷書　（15）伝達

（16）ごおん　（17）うたう　（18）しょせん　（19）わぶん　（20）こう

（11）は「雨乞い」、（13）は「嘆いた」とつながる。（16）は「ごおん」。（18）所詮は、つまるところ・結局という意味。喝采と一喝では、熟語全体の意味を確かめる。

七　文章の中で考えよう

（1）詮索　店の秘密まで立ち入ることと、載せる言葉の由来の確認を分けている。
（2）語彙　店で聞いた語を集めた欄を作っている。
（3）イ　祖母に歌詞などを教えてもらうよう求めたこと。
（4）エ　手の動きに合うよう一行を歌い直している。歌詞をいつでも全く同じに固定するとは書かれていない。

七　記述問題の考え方

（5）　新しい唄を紹介したい理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

感心したのは布を畳む手と言葉が合う様子であり、古さではなかったと気づき、言葉が生まれる様子を伝えたいから。

（5）別解例　53 字

昨日作った唄でも、心を動かされた声や手との調和は変わらず、祖母が今ここで言葉を作る様子に魅力を感じたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 初めに布を畳む手と唄が合う様子に感心した点を示したか。
② 由来を知っても、そのよさがなくならなかったと捉えたか。
③ 新しく言葉が生まれる場面を紹介したい思いと結んだか。

新しいものは古いものよりよい、とは決めない。紗良が感じた魅力を確かめ直す過程を見る。

（6）　冊子に載せる唄の紹介 70〜90 字

（6）解答例　86 字

掲載するのは、呉服店の祖母が取材の前日に作った唄です。布を畳む手に言葉を合わせ、一行を歌い直していました。古くからの唄としてではなく、いま言葉が生まれる面白さを伝達します。

（6）別解例　85 字

祖母が取材の前日、風を感じて作った店の唄を掲載します。布を畳む動きに合う声や、日によって言葉を変える工夫が魅力です。作者や由来を添え、いま言葉が作られる様子も伝達します。

☆（6）自分で確かめる点

①「掲載」「伝達」を使ったか。
② 作者は祖母で、取材の前日に作った唄だと伝えたか。
③ 手の動きと言葉の調和や、変わりながら生まれる面白さを示したか。

刊行の日から見た「昨日」ではなく、取材した日の前日に作った唄だと分かるようにする。最後の雨でどのように歌詞が変わるかは、まだ分からない。

漢字から文章へ 第三冊

第七回

考えの形をつかむ

星空の案内は短くなりました。
けれど、見に来た人は、星空を見られませんでした。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

不	以	故	難
そうではない	基準にする	理由 古くからの	難しい 災い
冗	享	糾	敢
余分 くどくどしい	受け取って味わう	問いただす 絡む	思い切って行う

いっしょに覚える漢字

大	小	歴	延	即	摘
融	汎	微	漫	昧	剝

この回で読むお話

一行長い星空の案内

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
不	フ ブ	打ち消す／そうではない 不明・不足・不安	冗	ジョウ	余分／くどくどしい 冗長・冗談・冗費
以	イ	時や数などを基準にする 以上・以下・以後	享	キョウ	受け入れる／よさを味わう 享受・享年・享楽
故	コ ゆえ	理由／古いこと 故に・事故・故郷	糾	キュウ	より合わせる／問いただす 糾合・紛糾・糾弾
難	ナン かたい むずかしい	難しい／災い 困難・難問・避難	敢	カン あえて	思い切って行う 敢えて・勇敢・果敢

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
大	ダイ タイ おおきい	大きい／重要 大きい・重大・大学	融	ユウ	とけ合う／通じ合う 融合・融通・融資
小	ショウ ちいさい こ	小さい／わずか 小さい・縮小・小数	汎	ハン	広く及ぶ 汎用・広汎
歴	レキ	時の積み重なり 歴史・経歴・歴然	微	ビ	ごく小さい／細かい 微小・微妙・微量
延	エン のびる のばす	長くする／遅らせる 延長・延期・延べ	漫	マン	広がる／しまりがない 漫然・散漫・漫画
即	ソク そくする	すぐ／その場に合う 即座・即時・即する	昧	マイ	はっきりしない 曖昧・三昧
摘	テキ つむ	つまみ取る／選び出す 摘む・指摘・摘出	剝	ハク はがす はがれる	表面をはぎ取る 剝がす・剝離・剝奪

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「不明」の「不」の働きを選びなさい。
ア　前の意味を強める　　イ　後の意味を打ち消す
ウ　人数を数える　　エ　時刻を示す

(2)「十時以後」の「以」に関わるものを選びなさい。
ア　十時を基準にする　　イ　必ず十時を除く
ウ　場所だけを示す　　エ　理由を消す

(3)「故に」が文をつなぐ働きを選びなさい。
ア　関係のない例を並べる　　イ　必ず疑問にする
ウ　順番だけを逆にする　　エ　前の事柄を理由として後へつなぐ

(4)「冗長」の意味に合うものを選びなさい。
ア　必要な条件がそろう　　イ　細かな内容は全て誤り
ウ　余分に長く、まとまりに欠ける　　エ　必ず文字数が百字を超える

(5)「享受」の「享」に関わるものを選びなさい。
ア　よさや利益を受け、味わう　　イ　予定を遅らせる
ウ　意見がもつれる　　エ　紙をはがす

(6)「果敢」の「敢」に近い意味を選びなさい。
ア　何もしない　　イ　思い切って行う
ウ　理由を隠す　　エ　言葉を長くする

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　剝離　果敢　延長　享受　重大　不明　故に
縮小　紛糾　経歴　以前　難問　即座　冗長

文	解答	文	解答
(1) 名前が読めず、 持ち主は□□だ。		(8) ためらわず □□に挑戦した。	
(2) 十時を含む、それより前は 十時□□と表せる。		(9) 人の判断に関わる □□な条件を残す。	
(3) 雨が強い。 □□、会場を屋内へ移す。		(10) 図を小さく □□して印刷する。	
(4) 解くのが難しい □□に取り組む。		(11) これまでの仕事の □□を聞いた。	
(5) 同じ説明を繰り返す □□な前置きを削る。		(12) 利用時間を三十分 □□する。	
(6) 自然の恵みを □□する。		(13) 知らせを聞いて □□に返答した。	
(7) 意見がもつれて 会議が□□した。		(14) 表面の層がはがれる □□の様子を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「冗長」と「詳しい」のこの使い方に合うものを選びなさい。

詳しい時刻表は残し、同じ誘い文句が続く冗長な段落を短くした。

ア　詳しい情報は全て削った。
イ　長い段落なら内容を問わず残した。
ウ　行動に必要な情報を残し、重複する部分を削った。
エ　短くなれば、必要な条件はなくてよい。

（2）「故に」を使ったこの文の読み方として適切なものを選びなさい。

全員が昨日来た。故に、全員が明日も来る。

ア　故にがあるので、結論は必ず正しい。
イ　理由としてつないでいるが、明日の参加はまだ分からない。
ウ　故には場所を表すので、理由は述べていない。
エ　昨日と明日は同じ日になる。

（3）「享受」と「受領」のこの使い方に合うものを選びなさい。

資料を受領し、静かな部屋で読める環境のよさを享受した。

ア　前者も後者も、資料の字数を数えること。
イ　受領した資料は、必ず内容に賛成した資料。
ウ　享受するためには、資料を返さなければならない。
エ　資料を受け取り、環境のよさを味わった。

（4）この「指摘」と「批判」に合うものを選びなさい。

日付の誤りを指摘し、その日程で全員が参加できるという主張も批判的に検討した。

ア　誤りの箇所を示し、主張を根拠から検討した。
イ　どちらも必ず相手の人格を責めること。
ウ　日付を示したので、主張も全て正しい。
エ　理由を見ずに、賛成すると決めた。

（5）「指摘」を使い、どの点を示すかが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「以後」を使い、いつを基準にするかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 訪ねた時、持ち主は**フザイ**だった。	
(2) 説明を一分**イナイ**に収める。	
(3) 写真を見て、遠い**コキョウ**を思い出した。	
(4) 使い方の**ナンテン**を挙げ、直す方法を考える。	
(5) 友人の**ジョウダン**を聞いて笑った。	
(6) 劇の登場人物は、**キョウラク**にふけって暮らしていた。	
(7) 会員の**タイハン**が、案に賛成した。	
(8) 十分に準備し、新しい計画を**カンコウ**した。	
(9) 予定の変更にも、**ユウズウ**を利かせて対応する。	
(10) いろいろな用途に使える**ハンヨウ**の道具を選ぶ。	
(11) 町の**レキシ**を、古い写真でたどった。	
(12) 雨のため、開催を一週間**エンキ**した。	
(13) 質問へ**ソクトウ**せず、資料を確かめた。	
(14) 虫の羽にある**ビサイ**な模様を観察する。	
(15) 森へ続く細い**コミチ**を歩いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 不詳	(17) 以外	(18) 融合	(19) 微妙	(20) 剝がす

この回を終えたら もう一度確かめる

短くするときも、読む人が判断するための条件は残しましょう。
理由を示す語があっても、結論を支えているかは確かめます。

七　文章の中で考えよう

一行長い星空の案内

　「自由と見たので。」
父親の横で、小さな子が入口の星を指でなぞった。十三時三分。瑞希は即座に扉へ手を伸ばし、止めた。中では、もう上映が始まっている。次の回まで待てるか尋ねると、父親は時計を見た。次の予定があるという。

　朝、案内を作ったときには、こんな場面を考えていなかった。瑞希の班の作品は、星の映像と影絵を融合したものだ。宇宙の歴史をたどり、最後は小さな教室が大きな星空になる。準備の合間、机の隅の紙の星が、窓からの風で何度も裏返った。

　上映は十三時と十三時二十分の二回で、各十分間。扉を開けると光が入るため、開始後は入室できない。遅れた人は次の回を待つ。その条件を、最初の案内には全部書いていた。

　けれど、紙面は文字でいっぱいだった。汎用のひな形にある「映像の魅力を享受できます」も、自分たちの思い出も残したい。友人に、同じ誘いが続くと注意が散漫になると指摘された。瑞希は果敢に削り、「星空上映。出入り自由」と太く書いた。

　「自由だと、いつでも入れるように読めるよ。」
少しくらい遅れても大丈夫だろう、と瑞希は答えた。だが、案内を変えても規則は変わらない。どこまで削るかで話は紛糾した。細かな条件は冗長なのか、重大なのか。簡単そうだった仕事が、急に難問になった。

　そして今、親子は扉の外にいる。瑞希は規則を説明したが、二人の次の予定までは動かせなかった。子どもの指が星から離れた。父親が会釈し、二人分の足音が廊下を遠ざかっていった。

　短くなった案内だけが、壁に残っていた。

　瑞希は紙を剝がした。部屋が空いている時間と、入ってよい時間は違う。「自由」も曖昧だった。ノートに「条件が不明。故に、読む人は予定を立てられない」と書く。微妙な言い換えの問題だと思っていたことが、相手の一日につながっていた。

　以後の案内には、二回の開始時刻と、開始後は入室できないことを残す。重なる誘い文句は削る。前より一行長くなった。待つ人には椅子を出し、待てない人へ次の開催を知らせられるか班で相談する。上映を延長する約束は、勝手にはしなかった。

人物・上映会・作品・時刻・規則は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、注意がまとまらない様子を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）はっきりしないことを表す「アイマイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「即座」の意味を選びなさい。

ア　翌日になって。
イ　よく見えないまま。
ウ　その場ですぐに。
エ　少しずつ長くして。

（4）十三時三分に来た親子について、本文に合うものを選びなさい。

ア　案内が自由と書くので、規則も変更されていた。
イ　次の回まで待てるとは限らなかった。
ウ　上映はまだ始まっていなかった。
エ　瑞希は上映を延長すると約束した。

（5）瑞希が細かな条件の大切さを考え直した理由を、来た親子の様子と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）案内を短くする瑞希への助言を、「冗長」「指摘」を使って 70〜90 字で書きなさい。残す情報と削る情報を具体的に伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第七回　考えの形をつかむ

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　明らかではないことを表す。不足や不安でも、熟語全体の意味を確かめる。
（2）ア　十時を基準に、それから後を示す。以後は通常、基準となる時も含めていう。
（3）エ　ゆえにと読み、前を理由として後を導く。語でつないでも、根拠が正しいとは限らない。
（4）ウ　必要以上に長いこと。何が余分かは、目的や読む相手に照らして考える。
（5）ア　自然の恵みや自由などを受け、そのよさを味わうことに関わる。
（6）イ　決断して思い切って行うこと。果敢な行動であっても、その内容の検討は必要になる。

四　熟語を広げよう

（1）不明　（2）以前　（3）故に　（4）難問　（5）冗長
（6）享受　（7）紛糾　（8）果敢　（9）重大　（10）縮小
（11）経歴　（12）延長　（13）即座　（14）剝離
（2）以前は、基準となる時も含めて、それより前をいう。（3）は「故に」と書く。（5）細かな条件が必要なら、長いだけで冗長とはしない。（14）剝離は表面の層などがはがれること。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　必要な細かさと、余分な繰り返しを分けている。字数だけでは冗長かどうかは決まらない。
（2）イ　理由を示す働きと、結論を支えるかは別。昨日の参加だけで、明日の参加は決まらない。
（3）エ　資料を受け取ることと、環境のよさを味わうことを分ける。受領は賛成とは限らない。
（4）ア　箇所を示すことと、主張を根拠から吟味することに着目する。二つが重なる場合もある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

友人は、案内に集合場所が書かれていない点を指摘した。
☆自分で確かめる点　何を問題として示したかが分かるか。

（6）解答例

午後三時以後に届いた申込みは、翌日の受付として扱う。
☆自分で確かめる点　基準の時と、その後の扱いを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）不在　（2）以内　（3）故郷　（4）難点　（5）冗談
（6）享楽　（7）大半　（8）敢行　（9）融通　（10）汎用
（11）歴史　（12）延期　（13）即答　（14）微細　（15）小道
（16）ふしょう　（17）いがい　（18）ゆうごう　（19）びみょう　（20）はがす
（6）享楽は、楽しみにふけること。（8）敢行は、思い切って実行すること。（9）は「融通を利かせる」と使う。（14）微細は、ごく細かなこと。（20）は「はがす」。

七　文章の中で考えよう

（1）散漫　誘い文句が重なり、読む人の注意がまとまりにくくなることを表す。
（2）曖昧　ここでは「出入り自由」の意味がはっきりしないこと。
（3）ウ　その場ですぐ、扉へ手を伸ばした行動を表す。
（4）イ　父親には次の予定があった。案内を短くしても、入室の規則は変わっていない。

七　記述問題の考え方

（5）　親子を迎えて考え直した理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

開始後は入れない条件が伝わらず、次の回を待てない親子が来たので、案内が相手の予定に関わると分かったから。

（5）別解例　52 字

細かな条件を削った案内では、入れる時間が伝わらず、次の予定がある親子が星空を見られないことになったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 開始後は入れないという条件が案内から消えた点を捉えたか。
② 次の回まで待てない親子の予定と結んだか。
③ 案内の変更で規則自体も変わったとはしていないか。

父親の「自由と見たので」という言葉と、次の予定があることが手がかり。短い案内がいつでも悪いとまとめない。

（6）　案内の推敲への助言 70〜90 字

（6）解答例　87 字

二回の開始時刻と、開始後は入室できない条件が必要だと指摘します。待つ時間を考えられるよう、その情報は残してください。同じ誘いの繰り返しなど、冗長な部分を削るとよいと思います。

（6）別解例　88 字

冗長かどうかは字数だけで決めず、来る人の行動に必要な情報かで確かめましょう。十三時と十三時二十分に始まり、途中では入れない点を指摘したうえで、重なる誘い文句を減らしてください。

☆（6）自分で確かめる点

①「冗長」「指摘」を使ったか。
② 二つの開始時刻と、開始後の入室条件を残すよう伝えたか。
③ 削れる情報を、重複する誘いなど具体的に示したか。

開催時刻や規則を新しく変える提案ではない。本文にある案内の推敲として伝える。

漢字から文章へ 第三冊

第八回

身近な動作

出口へ運んだ空箱が、入口へ戻ってきました。
戻すことも、仕事を進める動きだったのです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

出	立	引	提
内から外へ	立つ 成り立つ	手前へ動かす 導く	差し出す 掲げる

処	寄	為	携
その場に応じて扱う	近づく 集める	行う 目的	持って行く 組む

いっしょに覚える漢字

入	逆	振	扱	拠	殴
踏	撤	循	敷	逐	践

この回で読むお話

帰ってきた空箱

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
出	シュツ スイ でる だす	内から外へ 出る・提出・出発	処	ショ	その場に応じて扱う 処理・処置・対処
立	リツ リュウ たつ	まっすぐ立つ／成り立つ 立つ・独立・設立	寄	キ よる よせる	近づく／集める 寄る・寄付・寄せる
引	イン ひく	手前へ動かす／導く 引く・引用・引率	為	イ ため なす	行う／目的に関わる 行為・為す・人為
提	テイ さげる	差し出す／掲げる 提げる・提案・提出	携	ケイ たずさえる たずさわる	持って行く／一緒に行う 携える・携帯・提携

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
入	ニュウ いる はいる	外から内へ 入る・入口・記入	踏	トウ ふむ ふまえる	足を置く／よりどころにする 踏む・踏襲・踏まえる
逆	ギャク さか さからう	反対の向き 逆・逆転・逆行	撤	テツ	取り除く／引き上げる 撤去・撤回・撤退
振	シン ふる ふるう	動かす／割り当てる 振る・振動・振替	循	ジュン	順にたどる／めぐる 循環・循序
扱	あつかう	手で動かす／取り上げる 扱う・取扱い・扱い	敷	フ しく	広げて置く 敷く・敷地・屋敷
拠	キョ コ よる	よりどころ／場所を占める 根拠・拠点・占拠	逐	チク	追う／順に進める 逐次・駆逐
殴	オウ なぐる	強く打つ 殴る・殴打・殴り書き	践	セン	踏む／実際に行う 実践・実践的

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「提出」の二字に関わる働きを選びなさい。
ア　資料を捨てる　　イ　必ず入口へ戻す
ウ　物などを差し出す　　エ　反対意見を消す

(2)「引率」の「引」に関わるものを選びなさい。
ア　人を導いて連れて行く　　イ　物の長さを量る
ウ　全てを取り除く　　エ　字を消す

(3)「提案」の意味に合うものを選びなさい。
ア　すでに決まったことを必ず実行する　　イ　返事をせずに断る
ウ　荷物の重さを測る　　エ　考えや方法を出して相談する

(4)「携える」の意味を選びなさい。
ア　手を振って別れる　　イ　持って行く
ウ　必ず借りて返す　　エ　箱を空にする

(5)「根拠」の「拠」に関わるものを選びなさい。
ア　行き先の名前　　イ　作業をやめる時刻
ウ　判断のよりどころ　　エ　荷物の代金

(6)「実践」の「践」に関わるものを選びなさい。
ア　考えたことを実際に行う　　イ　字数だけを数える
ウ　他人へ任せて忘れる　　エ　必ず成功する

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　扱い　循環　携帯　独立　寄付　行為　提案
記入　逆行　撤去　提出　処理　振動　引率

文	解答	文	解答
(1) 書類を先生へ□□した。		(8) 連絡の道具を□□して出かける。	
(2) 一人で成り立つ□□を目指して学ぶ。		(9) 用紙に名前を□□する。	
(3) 先生が一行を□□して見学へ行く。		(10) 流れと反対へ進む□□を見直す。	
(4) 新しい方法を□□した。		(11) 揺れている物の□□を記録する。	
(5) 集めた資料を種類別に□□する。		(12) 物によって、□□を変える。	
(6) 会へ本を□□して贈った。		(13) 不要な看板を□□した。	
(7) どのようなことをしたか、□□と結果を確かめる。		(14) 物が巡る□□の仕組みを作る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）二つの「引く」の使い方に合うものを選びなさい。

担当を決めるくじを引き、自分の箱を机の手前へ引いた。

ア　前者は箱を動かし、後者はくじを選んだ。
イ　くじを選ぶことと、物を手前へ動かすことに使う。
ウ　両方とも必ず人を引率すること。
エ　箱を引けば、くじの結果も変わる。

（2）「提案」と「実践」の関係として適切なものを選びなさい。

箱を戻す方法を提案し、皆で確かめてから実践した。

ア　案を出す前に、すでに全員が実行していた。
イ　提案したので、結果の確認はできない。
ウ　実践したなら、方法は必ず最善だ。
エ　方法を示して検討し、その後、実際に行った。

（3）この「撤去」と「移動」に合うものを選びなさい。

古い看板を会場から撤去し、新しい看板を入口へ移動した。

ア　不要な物を取り除き、別の物の場所を変えた。
イ　全ての看板を壊した。
ウ　撤去した看板は必ず売った。
エ　新しい看板は会場の外へ捨てた。

（4）この「循環」から分かることを選びなさい。

共通の箱は、入口から展示台へ行き、空になると入口へ戻って再び使う。

ア　展示台から戻る箱は、全て使わない。
イ　戻ったら本も元に戻す。
ウ　箱を繰り返し使う流れがある。
エ　本と箱は常に同じ方向へ運ぶ。

（5）「携える」を使い、何を持ってどこへ行くかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「根拠」を使い、何をよりどころに考えたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 用事があり、午後から**ガイシュツ**した。	
(2) 司会の合図で、全員が**キリツ**した。	
(3) 物を引き合う**インリョク**について調べる。	
(4) 会をよくするための**テイゲン**をまとめる。	
(5) 不要になった物の**ショブン**を相談する。	
(6) 資料館へ、古い道具を**キゾウ**した。	
(7) 自然にできた穴か、**ジンイ**によるものかを調べた。	
(8) 隣の班と**レンケイ**して展示を作る。	
(9) 会場への**ニュウジョウ**を待つ。	
(10) 時計の**フリコ**が、左右へ動いている。	
(11) ぬれた紙を**フム**前に、足を止めた。	
(12) 床に置く**シキモノ**を選んだ。	
(13) 数えた物を**チクイチ**記録する。	
(14) 急いだため、メモが**ナグリガキ**になった。	
(15) 皆で考えた方法を**ジッセン**した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 提携	(17) 立地	(18) 逆風	(19) 撤退	(20) 為す

この回を終えたら もう一度確かめる

動作だけでなく、何を、どこからどこへ動かすかを読みましょう。
同じ箱でも、中身と次に使う人によって行き先は変わります。

七　文章の中で考えよう

帰ってきた空箱

「箱を出口へ。」
去年のメモは、そこで終わっていた。殴り書きの矢印は少し上を向いている。拓は裏返したが、続きはなかった。どの箱か先生に尋ねても、去年の手順は全部は覚えていないという。拓はひとまず、紙を名簿の下へ挟んだ。

町の古本市で、くじを引いて入口係になった。本の寄付を受け、会で用意した共通箱へ入れて展示台に渡す。来場者が持参した袋や箱は、その場で持ち主に返す仕事だ。名前を記入して立つと、本を携えた人が次々にやって来た。

去年のやり方を踏襲すれば進むと思い、空いた共通箱を出口へ寄せた。入口の拠点は、少し広くなった。ところが、本を受ける箱がなくなった。展示台には本、出口には空箱がある。荷物を一つ片づけるたび、仕事も一つ進んだつもりだったのに。

栞が出口から箱を一つ持って来た。
「中身じゃなくて、箱が必要なんだよ。」
拓は、流れに逆行していると言いかけた。来場者が進む向きは、確かに反対だ。だが、この箱を入口へ戻さなければ、次の本は受け取れない。

戻ってきた箱の底に、紙のしおりが一枚あった。栞はそれを展示台の係へ渡し、空になったことを確かめた。同じ箱でも、中身の有無で行き先が違う。二人は立つ場所を入れ替えて、本と箱の動きをたどり直した。

二人で確かめた物の動き

物	どこから、どこへ
本の入った共通箱	入口 → 展示台
空になった共通箱	展示台 → 入口
持参した袋や箱	入口で持ち主へ返す

拓は箱の数を逐次記録した。本が出る動きと、空箱が循環する動きがある。記録を根拠に、空箱の戻る場所を入口の横に変えると提案した。先生はうなずき、新しい手順の提出を頼んだ。矢印だけでなく、何を運ぶかも書くことにした。

古い案内を撤去し、床に向きを示す紙を敷いた。本を扱う人と箱を戻す人を分け、実践する。物を運ぶ行為だけを見ず、中身も確かめて渡す。机の振動で落ちた札は、置き場所を変えた。

終了後、残った本は種類ごとに処理し、箱とは別に保管した。最後の共通箱が入口へ帰る。出発した所へ戻ったのに、仕事は進んでいた。拓が名簿を閉じる横で、栞は箱の持ち手へ指を通し、もう本を受け取るような顔をした。

人物・古本市・共通箱・手順は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と物の動きの表を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、活動の中心となる場所を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）前のやり方を受け継ぐことを表す「トウシュウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「逐次」の意味を選びなさい。

ア　一度で全て忘れて。
イ　順を追って次々に。
ウ　必ず反対へ動いて。
エ　本だけを捨てて。

（4）共通箱について本文と表に合うものを選びなさい。

ア　本も箱も展示台から入口へ戻す。
イ　持参の袋も全て共通箱にしてしまう。
ウ　空箱は出口へ捨てる。
エ　本は展示台へ、空いた箱は入口へ運ぶ。

（5）拓が空箱を戻す栞に「逆行している」と言いかけて止まった理由を、45〜55 字で説明しなさい。

（6）初めて来る係への説明を、「提出」「循環」を使って 70〜90 字で書きなさい。本と箱の動き、持参の袋や箱の扱いを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第八回　身近な動作

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　求められた書類や作品などを差し出すこと。誰へ何を出すかを確かめる。
（2）ア　人を率いて連れて行く働き。引くには、くじを引くなど別の使い方もある。
（3）エ　案を示すこと。提案した段階で、全員の賛成や実施が決まるわけではない。
（4）イ　身につけたり手に持ったりして行くこと。何を携えるかは文の中で確かめる。
（5）ウ　判断や主張のよりどころ。拠点では、活動の中心となる場所を表す。
（6）ア　理論や計画を、実際の行動に移すこと。実践したことと、成功したことは分ける。

四　熟語を広げよう

（1）提出　（2）独立　（3）引率　（4）提案　（5）処理
（6）寄付　（7）行為　（8）携帯　（9）記入　（10）逆行
（11）振動　（12）扱い　（13）撤去　（14）循環
（5）処理は、ここでは種類ごとに扱うこと。（6）は物などを贈ること。（12）は送り仮名も含め「扱い」。（14）は物が巡り、繰り返し使われる流れに着目する。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　同じ読みの字でも、対象によって動作の内容が違う。前後の語を合わせて読む。
（2）エ　案を出すことと、行動に移すことの順を読む。実践した後にも、結果を確かめて直せる。
（3）ア　取り除くことと、置く場所を変えることに着目する。撤去後に捨てたかどうかまでは不明。
（4）ウ　物が巡って再利用される流れを読む。箱が戻ることと、本が戻ることを混同しない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖父から借りた地図を携えて、町の資料館を訪ねた。
☆自分で確かめる点　持って行く物と、行く先が分かるか。

（6）解答例

実際に数えた箱の記録を根拠に、戻す場所を提案した。
☆自分で確かめる点　判断と、そのよりどころを結んだか。

六　短文で使ってみよう

（1）外出　（2）起立　（3）引力　（4）提言　（5）処分
（6）寄贈　（7）人為　（8）連携　（9）入場　（10）振り子
（11）踏む　（12）敷物　（13）逐一　（14）殴り書き　（15）実践
（16）ていけい　（17）りっち　（18）ぎゃくふう　（19）てったい　（20）なす
（5）処分は、文脈によって扱いの内容が変わる。（7）人為は、人の手によって行うこと。（10）（11）（14）は送り仮名も書く。（13）逐一は、一つずつ、漏らさずという意味。（20）は「なす」。

七　文章の中で考えよう

（1）拠点　本を受け取る仕事の中心となる入口を指している。
（2）踏襲　前の手順を受け継ぐこと。メモだけでは分からない部分は、確かめ直した。
（3）イ　一つずつ順を追って記録していく様子。
（4）エ　本と空箱では行き先が異なる。来場者の袋や箱は、入口で持ち主へ返す。

七　記述問題の考え方

（5）　箱が戻る動きを捉え直した理由 45〜55 字

（5）解答例　55 字

来場者と同じ向きに進むだけでなく、空いた共通箱を入口へ戻すことで、次の本を受け取れる流れが続くと気づいたから。

（5）別解例　54 字

本を展示台へ渡す動きと、空箱を入口へ戻す動きは役割が違い、戻ることも本を受け取る仕事に必要だと分かったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 人や本の進む向きと、空箱の戻る向きを分けたか。
② 入口で次の本を受ける箱が必要だと示したか。
③ 戻る動きを、仕事を進める役割と結んだか。

逆向きの動きは全てよい、とまとめない。物の中身と、次に使う場所に着目する。

（6）　初めて来る係への説明 70〜90 字

（6）解答例　84 字

提出する手順には、本の入った共通箱は入口から展示台へ、空箱は入口へ戻すと書きます。共通箱を循環させ、次の本を受け取ります。持参した袋や箱は入口で持ち主へ返してください。

（6）別解例　83 字

本を入れた共通箱は展示台へ運び、空になると入口へ戻して循環させます。来場者の袋や箱は共通箱にせず、その場で返します。流れと扱いの違いを、提出する手順に書いてください。

☆（6）自分で確かめる点

①「提出」「循環」を使ったか。
② 本の入った共通箱と、空箱の行き先を分けたか。
③ 持参した袋や箱は、その場で持ち主へ返すと伝えたか。

箱を出口へ運ぶ旧メモを、新しい手順として使わない。寄付された本と、借りていない持参の袋や箱の扱いも分ける。

漢字から文章へ 第三冊

第九回

状態の違いを見る

三日たっても、人形は動きません。
それでも、進んだ仕事はあったのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

重	有	太	若
重い 重なる 大切	ある 持っている	太い 大きい	年が少ない 少し

困	辛	茂	寂
困る 苦しむ	からい つらい	草木がよく育つ	静か さびしい

いっしょに覚える漢字

反	段	絶	措	壮	濃
冶	旺	繊	捗	捻	変

この回で読むお話

まだ動かない人形

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
重	ジュウ チョウ おもい かさなる	重い／重なる／大切 重い・重量・重要・重複	困	コン こまる	動けず苦しむ 困る・困難・困窮
有	ユウ ウ ある	存在する／持つ 有る・所有・有効	辛	シン からい つらい	からい／つらい 辛い・辛苦・辛抱
太	タイ タ ふとい	太い／大きい 太い・太陽・太字	茂	モ しげる	草木が盛んに生える 茂る・繁茂
若	ジャク わかい	年が少ない／いくらか 若い・若者・若干	寂	ジャク セキ さびしい	静か／さびしい 寂しい・静寂・寂然

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
反	ハン そる	反対／はね返る 反対・反応・反る	冶	ヤ	金属をとかして整える 冶金・鍛冶・陶冶
段	ダン	段差／程度の区切り 段階・手段・階段	旺	オウ	勢いが盛ん 旺盛・健旺
絶	ゼツ たえる たつ	切れる／この上ない 絶える・絶対・断絶	繊	セン	細い／細やか 繊細・繊維
措	ソ	置く／取り計らう 措置・措辞	捗	チョク はかどる	物事が進む 進捗・捗る
壮	ソウ	力強く大きい 壮大・壮年・悲壮	捻	ネン ひねる	ねじる／工夫して生む 捻る・捻出
濃	ノウ こい	色や中身が多い 濃い・濃度・濃厚	変	ヘン かわる かえる	前と違う状態になる 変わる・変化・変換

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「重要」と「重量」の「重」を適切に捉えたものを選びなさい。
ア　どちらも同じ重さの単位　　イ　前者は大切さ、後者は物の重さ
ウ　前者は若さ、後者は速さ　　エ　重い物だけが大切だという意味

(2)「所有」の「有」に関わるものを選びなさい。
ア　反対の方向　　イ　必ず使い終えること
ウ　物を壊すこと　　エ　ある物を持つこと

(3)「若干」の意味に合うものを選びなさい。
ア　少し、いくらか　　イ　必ず若者だけ
ウ　全くない　　エ　決まった十個

(4)「辛い」の読み方と意味の組合せを選びなさい。
ア　辛い唐辛子は「つらい」だけ　　イ　辛い経験は「からい」だけ
ウ　味の辛さなら「からい」、苦しい経験なら「つらい」　　エ　二つの意味に違いはない

(5)「段階」の「段」に関わるものを選びなさい。
ア　物を所有すること　　イ　進み方などの区切り
ウ　必ず階段そのもの　　エ　色が濃いこと

(6)「進捗」の意味を選びなさい。
ア　必ず全て完成したこと　　イ　作業の人数だけ
ウ　道具をなくすこと　　エ　物事がどれだけ進んだかということ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　措置　重量　反応　辛抱　所有　壮大　静寂
困難　段階　濃度　太字　繁茂　旺盛　鍛冶

文	解答	文	解答
(1) 荷物の重さ、 □□を量る。		(8) 物音のない □□に包まれる。	
(2) 自分の物として □□している。		(9) 声をかけたときの □□を見る。	
(3) 文字を太くした □□で示す。		(10) 作業を三つの □□に分ける。	
(4) 活動したい気持ちが □□だった。		(11) 鉄を熱して道具を作る □□の仕事を見学する。	
(5) 進めるのが難しい □□な作業だ。		(12) 雨から作品を守る □□をとった。	
(6) 結果が出るまで □□して待つ。		(13) 規模の大きな □□な構想だ。	
(7) 草木が勢いよく □□している。		(14) 液に含む成分の割合、 □□を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「完成」と「進捗」のこの使い方に合うものを選びなさい。

まだ完成していないが、部品の確認まで終わったと進捗を報告した。

ア　完成していないので、報告する内容はない。
イ　確認が終わったので、作品も全て完成した。
ウ　途中で終えた仕事を、全体の完成と分けて示した。
エ　進捗は作品の値段だけを指す。

（2）「繊細」と「弱い」のこの説明に合うものを選びなさい。

繊細な模様を描いた布は、細かな線が美しい。布の強さはまだ調べていない。

ア　細かな模様と、布の強さは分けて確かめる。
イ　繊細な模様なので、必ず布はすぐ破れる。
ウ　細かい模様があれば、布は絶対に破れない。
エ　美しさを述べたので、重さも分かる。

（3）この「若い」と「若干」に合う説明を選びなさい。

若い職人が、予定より若干長い時間をかけて仕上げた。

ア　若干は職人の人数を必ず十人とする。
イ　若い人はいつも作業が遅いという意味。
ウ　両方とも時間がないことだけを表す。
エ　年齢と、予定との差の程度をそれぞれ表す。

（4）「反応」について、この文から言えることを選びなさい。

人形を見た祖父は、しばらく黙っていた。感想はまだ聞いていない。

ア　黙っていたので、必ず嫌いだと思った。
イ　黙っていたことは分かるが、その理由はまだ分からない。
ウ　黙っていたので、必ず満点だと思った。
エ　黙っているときには、考えは全くない。

（5）「若干」を使い、何と比べてどの程度違うかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「進捗」を使い、途中でどこまで済んだかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 判断に関わる**ジュウヨウ**な記録を残す。	
(2) 部品の**ウム**を、一つずつ確かめた。	
(3) 祭りで**タイコ**をたたく役になった。	
(4) 庭の木に、明るい色の**ワカバ**が開いた。	
(5) 急な変更に**コンワク**した。	
(6) 料理には**カラクチ**と甘口がある。	
(7) 道の横の**シゲミ**から、鳥の声がした。	
(8) 皆が帰ると、部屋が**サビシイ**。	
(9) 地図を**ハンタイ**の向きから見る。	
(10) 場面が変わる所で、**ダンラク**を分ける。	
(11) 山の上から見た景色は、**ゼッケイ**だった。	
(12) 忙しい中で、練習の時間を**ネンシュツ**した。	
(13) 遠くからも、**ソウレイ**な宮殿が見えた。	
(14) 青い絵の具の**ノウタン**で、海を描いた。	
(15) 三日間の**ヘンカ**を、写真で比べる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 重複	(17) 若者	(18) 反る	(19) 繊維	(20) 冶金

この回を終えたら もう一度確かめる

見えた変化と、まだ見えない作業の段階を分けて読みましょう。
完成していなくても、済んだことや次の課題は確かめられます。

七　文章の中で考えよう

まだ動かない人形

一日目も、二日目も、三日目も「未完成」。芽衣の進捗欄には、同じ三文字が並んだ。箱の中の人形は今日も動かない。書き足すことがなくなり、鉛筆の先で、三日分の字を順になぞった。

直しているのは、祖父が所有する操り人形だった。鍛冶屋の若者を演じ、草の茂る森を歩く。芽衣が見たのは一度だけだ。頭は重く、服には濃い青の模様がある。糸の外れた今は、寂しい顔で眠っているように見えた。

始めたときの意欲は旺盛だった。腕も指も繊細に動かし、壮大な冒険を演じさせたい。だが、糸をどこへ戻すのかが分からない。祖父も長く触っていなかった。すぐ動くと思っていたので、芽衣には辛い始まりだった。

一日目は部品の有無を調べ、二日目は昔の写真と照合した。写真の端には、人形をのぞく幼い自分の額も写っていた。三日目は太い糸を仮に通し、長さを確かめた。動かす試験はまだだった。

祖父が来て、人形をしばらく見た。反応がないので、芽衣は困った。
「何も変わってないよね。」
「昨日は離れていた腕が、今日は横にある。」
祖父はそう言い、それを動かす試験はまだだ、と付け加えた。

人形が動くまでにも、仕事はあった。

芽衣はメモを開いた。部品の確認、写真との照合、糸の仮合わせ。終えた段階は違う。同じ「未完成」で全部重ねれば、人形は三日間、箱で待っていただけになる。若干進んだとしか見えなくても、昨日とは違う状態にあった。

雨から舞台の絵を守る措置もとり、家の用事の合間に時間を捻出してきた。「絶対に明日完成」とはまだ書けない。確認したことと、動きは未確認であることを並べると、祖父と続けた仕事が断絶していない印にも思えた。

帰る前、祖父が人形を正面へ向けた。「この若者、いつも少し困った顔なんだよ。」芽衣は笑った。寂しい顔だと決めたのは自分だ。明日は明るく塗り直す前に、この若者がどう歩くかを確かめたい。筆の代わりに、記録のノートを箱の横へ置いた。

人物・人形・劇・作業の記録は、本教材のための創作です。修理の手順を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、つながりが途切れることを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）細かく、細やかなことを表す「センサイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「捻出」が表すものを選びなさい。

ア　人形の顔を必ず変えること。
イ　紙を厚くすること。
ウ　工夫して作業の時間を作り出すこと。
エ　予定を全て取り消すこと。

（4）三日目の人形について本文に合うものを選びなさい。

ア　糸を仮に合わせたが、動きの試験はまだだった。
イ　祖父が見る前に、全ての動きを確かめた。
ウ　腕は三日前と全く同じ場所に置かれていた。
エ　完成していないので、部品の確認もしていなかった。

（5）芽衣が「未完成」とだけ記すのを改めた理由を、三日間にした仕事と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）芽衣から祖父への作業報告を、「繊細」「進捗」を使って 70〜90 字で書きなさい。済んだことと、まだ確かめていないことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第九回　状態の違いを見る

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　大切であることと、物の重さに関わる使い方を分ける。熟語全体で意味を読む。
（2）エ　自分のものとして持つこと。所有することと、その場で使うことは同じではない。
（3）ア　多くはない量や程度を表す。若者のように年齢だけを示す使い方ではない。
（4）ウ　からいとつらいは、同じ字で書く場合がある。何について述べる文かを確かめる。
（5）イ　物事を進める過程の区切りなどを表す。どの段階まで済んだかを確かめて読む。
（6）エ　しんちょくと読む。進捗は進み具合に関わり、完成したかどうかだけを表す語ではない。

四　熟語を広げよう

（1）重量　（2）所有　（3）太字　（4）旺盛　（5）困難
（6）辛抱　（7）繁茂　（8）静寂　（9）反応　（10）段階
（11）鍛冶　（12）措置　（13）壮大　（14）濃度

（1）は物の重さ。（4）旺盛は、勢いが盛んなこと。（11）鍛冶は、鉄を熱して打ち、道具などを作る仕事。（14）の濃度は、液などに含む物質の割合に関わる。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　完成は仕上がり、進捗は進み具合に着目する。ここでは途中で終えた仕事を報告している。
（2）ア　ここでは模様の細やかさを表す。繊細という語から、未確認の強さまで決めない。
（3）エ　年齢と程度とで、若の働きが違う。この職人の能力全体を決める文ではない。
（4）イ　見えた反応と、その人の気持ちを分ける。沈黙だけで、評価や理由を一つに決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

新しい人形の頭は、前のものより若干軽くできている。

☆自分で確かめる点　比較する物と、少しの違いが分かるか。

（6）解答例

道具の確認を終え、組立てを始めたと、作業の進捗を報告した。

☆自分で確かめる点　完成したかどうかだけでなく、済んだ仕事を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）重要　（2）有無　（3）太鼓　（4）若葉　（5）困惑
（6）辛口　（7）茂み　（8）寂しい　（9）反対　（10）段落
（11）絶景　（12）捻出　（13）壮麗　（14）濃淡　（15）変化
（16）ちょうふく　（17）わかもの　（18）そる　（19）せんい　（20）やきん

（6）は味の違い、（8）は気持ちなどを表す。（16）重複は「じゅうふく」とも読む。（19）繊維は糸状の細いもの。（20）冶金は、鉱石から金属を取り出し、精製・加工することに関わる。

七　文章の中で考えよう

（1）断絶　ここでは、祖父と続けてきた仕事のつながりが途切れることを表す。
（2）繊細　人形の腕や指の、細かな動きを表そうとしている。
（3）ウ　家の用事の合間に、作業の時間を作り出したこと。
（4）ア　糸の仮合わせまで進んだが、動くことを確認した段階ではない。

七　記述問題の考え方

（5）　未完成だけでは伝わらないこと 45〜55 字

（5）解答例　55 字

部品の確認や写真との照合、糸の仮合わせを終えても、未完成とだけ記すと、進んだ段階や次の課題が見えなくなるから。

（5）別解例　54 字

人形が動かないことだけで、三日間に済んだ確認や仮合わせまで消えないように、進んだ仕事も伝えたいと考えたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 三日間で済んだ仕事を具体的に示したか。
② 全体の完成と、途中の進み具合を分けたか。
③ 動きの試験まで済んだとはしていないか。

完成の日を早めるために記録を変えたのではない。実際の状態と、記録が伝える内容の関係を見る。

（6）　祖父への作業報告 70〜90 字

（6）解答例　86 字

人形の進捗を報告します。部品の確認と写真との照合を終え、糸を仮に合わせました。繊細な腕や指の動きは、まだ試験していません。完成とはせず、動きを確かめる段階だと記録しました。

（6）別解例　88 字

繊細な動きを取り戻したい人形は、部品を調べ、写真と照らし、糸の仮合わせまで進みました。ただし、動かす試験はまだです。未完成という結果だけでなく、済んだ仕事も進捗として伝えます。

☆（6）自分で確かめる点

①「繊細」「進捗」を使ったか。
② 部品の確認、写真との照合、糸の仮合わせを済んだ仕事として示したか。
③ 動きの試験は未実施だと伝えたか。

修理の細かな方法を想像で足さない。人形がもう繊細に動くと決めず、確認と未確認を分ける。

漢字から文章へ 第三冊

第十回

社会の仕組み

夜に開く案には、たくさんの賛成が集まりました。
まだ返事のない人も、同じ希望なのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

会	公	部	員
会う 集まる	社会に関わる 広く	全体の一部	集まりを構成する人

団	私	班	宴
まとまった集まり	自分 個人	小さく分けた組	飲食をともにする

いっしょに覚える漢字

格	統	閉	異	郵	庶
豪	綱	閑	冥	斬	翼

この回で読むお話

返事の外にいる人

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
会	カイ エ あう	集まる／組織 会う・会議・社会	団	ダン トン	まとまった集まり 団体・集団・団結
公	コウ おおやけ	社会に関わる／広く示す 公共・公表・公園	私	シ わたし わたくし	自分／個人に関わる 私・私見・私的
部	ブ	全体の一部分／組織 部分・部屋・部員	班	ハン	小さく分けた組 班・班長・各班
員	イン	組織を構成する人 会員・店員・委員	宴	エン うたげ	飲食などをともにする集まり 宴・宴会・祝宴

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
格	カク コウ	身分／基準／骨組み 資格・格式・合格	豪	ゴウ	力が強い／ぜいたく 豪雨・豪華・富豪
統	トウ すべる	一つにまとめる 統一・統計・伝統	網	モウ あみ	糸を組んだもの／つながり 網・網羅・通信網
閉	ヘイ とじる しめる しまる	とじる／終える 閉じる・閉会・閉鎖	閑	カン	ひま／静か 閑静・閑散・農閑期
異	イ ことなる	違っている 異なる・異議・異文化	冥	メイ ミョウ	暗い／死後の世界に関わる 冥界・冥福・冥王星
郵	ユウ	手紙や荷物を送る 郵便・郵送・郵便局	斬	ザン きる	刀などで切る／際立って新しい 斬る・斬新
庶	ショ	多くの人／一般 庶民・庶務・庶子	翼	ヨク つばさ	鳥のつばさ／助ける 翼・一翼・翼面

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「部員」と「会員」の「員」の働きを選びなさい。
ア　時間を長くする　　イ　全て同じ考えにする
ウ　集まりを構成する人を表す　　エ　建物の大きさを表す

(2)「公共」の「公」に関わる説明を選びなさい。
ア　社会や人々に広く関わる　　イ　必ず一人だけの持ち物
ウ　いつでも無条件に使える　　エ　会員以外の希望を消す

(3)「団体」と「班」を適切に説明したものを選びなさい。
ア　団体は一人、班は建物だけ　　イ　どちらも必ず同じ人数
ウ　どちらも入会の資格が不要　　エ　集まりと、仕事などのため小さく分けた組を表す

(4)「私見」の「私」に関わるものを選びなさい。
ア　法律で決まった結論　　イ　自分の考え
ウ　必ず誤った考え　　エ　全員の統一意見

(5)「庶務」の意味に合うものを選びなさい。
ア　必ず宴会の料理だけ　　イ　作品の順位だけ
ウ　組織で日常的に行うさまざまな事務　　エ　鳥の翼のこと

(6)「斬新」の意味に合うものを選びなさい。
ア　新しく、目立って独創的なこと　　イ　必ず刀で何かを切ること
ウ　古い物を全て捨てること　　エ　全員が必ず賛成すること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　閉会　団体　郵送　私物　各班　資格　斬新
会員　統一　閑散　公共　宴会　部員　庶務

文	解答	文	解答
(1) 会に加わっている□□へ連絡する。		(8) 参加する条件、□□を確かめる。	
(2) 社会や人々に関わる□□の問題を考える。		(9) 三つの国が一つに□□された物語を読む。	
(3) 学校の部活動に加わる□□の仕事を紹介する。		(10) 会議の終わりに□□を告げる。	
(4) 共通の目的を持つ□□に加わった。		(11) 人の出入りが少なく□□とした会場だ。	
(5) 持ち主の決まった□□は、勝手に動かさない。		(12) 案内を手紙にして□□した。	
(6) 小さく分けた□□が役割を決める。		(13) 組織の日常の事務、□□を担当する。	
(7) 飲食をともにする□□を開いた。		(14) 際立って新しい□□な発想だ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「会員」と「参加者」のこの使い方に合うものを選びなさい。

会員でなくても入場できる展示に、会員五人と、会員以外の三人が参加した。

ア　参加者は五人だけ。
イ　参加者八人のうち、会員は五人。
ウ　八人が全て新しい会員になった。
エ　会員以外の三人は入場できなかった。

（2）「私見」と「公表」のこの文に合うものを選びなさい。

自分の私見だと明記して、会の広報に公表した。

ア　私見は外へ示せないので、文は成立しない。
イ　公表したので、自動的に全員の意見になる。
ウ　個人の意見は必ず秘密にしなければならない。
エ　個人の意見であることと、広く示すことは両立する。

（3）「統計」の範囲について正しいものを選びなさい。

十人に聞き、返事のあった六人の希望を集計した。

ア　直接分かるのは、返事のあった六人の希望。
イ　残る四人も、同じ希望だと分かる。
ウ　町の全員の希望が分かる。
エ　質問していない人の返事も含まれる。

（4）「異議」と「閉会」のこの使い方に合うものを選びなさい。

案への異議を記録し、次回もう一度話すことにして閉会した。

ア　閉会したので、案への賛成は全員一致。
イ　異議を述べた人は、必ず会を脱退した。
ウ　会は終えたが、案の検討は次回にも続く。
エ　異議の内容は、必ず記録から消す。

（5）「私見」を使い、自分の考えとして案を述べなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「異議」を使い、何への意見かが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 旅先で、友人と**サイカイ**した。	
(2) 近くの**コウエン**で、鳥を観察した。	
(3) 会の**ホンブ**へ、記録を送る。	
(4) 部屋に入れる**テイイン**を確かめる。	
(5) 同じ目的を持つ**シュウダン**が活動する。	
(6) 発表の間は、**シゴ**を控えた。	
(7) 役割を相談するため、**ハンチョウ**が集まった。	
(8) 完成を祝う**シュクエン**が開かれた。	
(9) 試験に**ゴウカク**した知らせが届く。	
(10) 二つの名簿を一つに**トウゴウ**する。	
(11) 修理のため、入口を一時**ヘイサ**した。	
(12) 遠くの友人と、**ユウビン**で便りを交わす。	
(13) 金色の糸で、**ゴウカ**な衣装を飾った。	
(14) 町を結ぶ**ツウシンモウ**について調べる。	
(15) 死後の世界を描いた**メイカイ**の物語を読む。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 公私	(17) 部門	(18) 宴	(19) 庶民	(20) 斬る

この回を終えたら もう一度確かめる

集まった意見だけでなく、誰に聞き、誰の返事があるかを読みましょう。
今ここにいない人の希望は、まだ決まっていません。

七　文章の中で考えよう

返事の外にいる人

　「みんな夜がいいんだね。」
表を見た結衣が言うと、友人は紙の鳥を持ち上げた。翼の片方だけに、まだ糊の白さが残っている。横から光を当てれば、鳥は壁まで飛ぶように見えた。夜の作品展が目の前にある気がした。

　二人の入る「鳥の会」は、町の会館で展示を準備していた。結衣の鳥と、友人の架空の絵本「冥界の鳥」も並ぶ。普段は会員だけの集まりだが、今回は会員以外も入場でき、特別な資格は要らないと決めた。

　各班から出た夜の開催案は斬新だった。閉会後に宴会もしたい。豪華な催しを思い描き、庶務の担当が会員二十人へ手紙を郵送した。連絡の通信網でも、希望を尋ねた。結衣の目の前にあるのは、その返事を集めた表だった。

会員への希望調査の結果

項目	人数
夜を希望した回答	十二人
昼を希望した回答	四人
まだ返事のない人	四人

　「昼なら、うちの部員も連れて来られます。」
見学に来た学校の先生の一言で、結衣は表を見直した。先生の希望は、この十六人の中にはない。会員以外には、まだ誰にも尋ねていなかった。

　空白の四人分にも、夜とは書いていない。

　回答した会員の統計では、夜の希望が多い。その結果が間違いなのではない。公共の会館で広く開くつもりなのに、自分たちの団体へ返った声を、町のみんなの声にしていた。昼の会館は閑散としていると聞き、「誰も来ない」と書きかけた言葉も消した。前の利用者と今回の来場者は、同じとは限らない。

　会議で結衣は、私見として昼にも開く案を出した。すると夜の準備を担う人から、二回分を手伝えるとは限らないという異議があった。表を二つにしても、準備の時間は増えない。

　その日は時刻を決めずに閉会した。統一した案を急がず、未回答の会員と会員以外に尋ねる方法も考える。来る人と、開く人。その両方が催しの一翼を担っている。結衣は友人の絵本を閉じ、糊の乾いた翼へ、指が触れないよう手を引いた。

人物・団体・会館・絵本・調査結果は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と調査結果の表を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、集めた数値で物事の様子を示す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）鳥の左右の翼を表す「リョウヨク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「一翼を担う」の意味を選びなさい。

ア　鳥の羽を全て集めること。
イ　催しの役割の一部を受け持つこと。
ウ　一人だけで全ての仕事をすること。
エ　会員の資格を失うこと。

（4）表から直接分かることを選びなさい。

ア　未回答の四人も夜を希望している。
イ　会員以外は、昼を希望しない。
ウ　会員二十人全員の希望が確かめられた。
エ　回答のあった十六人では、夜の希望が多い。

（5）結衣が「みんな夜がいい」という捉え方を見直した理由を、調査の範囲と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）次の会議で確かめたいことを、「公共」「会員」を使って 70〜90 字で提案しなさい。来る側と準備する側の両方を考えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十回　社会の仕組み

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　ある組織や集まりに属する人に関わる。員の字だけで、意見が同じとは決まらない。
（2）ア　社会や広く人々に関わる。公共の場でも、目的や利用の条件を確かめる必要がある。
（3）エ　団体は目的などを共有する集まり。班は仕事などのために分けた組。文脈で範囲を読む。
（4）イ　個人としての意見を表す。私見であることだけで、正しいか誤りかまでは決まらない。
（5）ウ　書類や連絡など、組織の一般的な事務に関わる。庶は、多くの物事や人々を表す字。
（6）ア　際立って新しい発想などをいう。新しさと、その案が目的に合うかは分けて検討する。

四　熟語を広げよう

（1）会員　（2）公共　（3）部員　（4）団体　（5）私物
（6）各班　（7）宴会　（8）資格　（9）統一　（10）閉会
（11）閑散　（12）郵送　（13）庶務　（14）斬新

（5）私物は個人の持ち物。（11）閑散は、人の出入りや仕事が少なく静かなこと。今の様子だけで、次の催しにも人が来ないとは決められない。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　所属と、その日に参加した人を分ける。参加だけで、会員になったとは書かれていない。
（2）エ　誰の考えかと、誰に示すかは別。私見と明記した意見は、団体の統一見解とは限らない。
（3）ア　聞いた人と、実際に回答した人を分ける。未回答の人の希望や理由は、まだ分からない。
（4）ウ　その回の会議が終わることと、論点の解決は別。次回に確かめる内容を残している。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私見ですが、昼と夜の両方で試してから、開催時刻を決めたいです。

☆自分で確かめる点　誰の考えかを示し、案を具体的に述べたか。

（6）解答例

会員以外には知らせないという案に、私は異議を述べた。

☆自分で確かめる点　意見の対象となる案が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）再会　（2）公園　（3）本部　（4）定員　（5）集団
（6）私語　（7）班長　（8）祝宴　（9）合格　（10）統合
（11）閉鎖　（12）郵便　（13）豪華　（14）通信網　（15）冥界
（16）こうし　（17）ぶもん　（18）うたげ　（19）しょみん　（20）きる

（6）は、授業や会議の最中などの私的な話。（11）は入口などを閉じて使えなくすること。（15）の冥界は死後の世界。（18）宴は「うたげ」。（20）は「きる」。

七　文章の中で考えよう

（1）統計　ここで集めたのは、回答のあった会員十六人の希望である。
（2）両翼　左右の二つの翼。「一翼を担う」は、役割の一部を受け持つという使い方。
（3）イ　催しを支える仕事の一部を受け持つこと。
（4）エ　回答者の希望について言える。未回答の会員や、聞いていない人の希望は決まらない。

七　記述問題の考え方

（5）　みんなの範囲を見直した理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

夜の希望が多かったのは回答した会員であり、未回答の四人や、昼なら来られる会員以外の人の希望は含まれないから。

（5）別解例　54 字

会員以外に希望を聞かず、返事のない会員もいるため、集まった回答だけで、町のみんなが夜を望むとは言えないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 集計したのは回答のあった会員十六人の希望だと分かるか。
② 未回答の四人と、会員以外の人を区別して捉えたか。
③ 多数の回答を誤りとせず、言える範囲を示したか。

夜の希望が多いという集計自体は正しい。その結果を、回答していない人まで広げた点を考える。

（6）　次の会議への提案 70〜90 字

（6）解答例　87 字

公共の会館で広く開く催しなので、未回答の会員と会員以外にも、来られる時間を尋ねたいです。昼夜の両方で開くと決める前に、準備を担う人が二回分を引き受けられるかも確かめましょう。

（6）別解例　86 字

会員への回答だけでは、公共の会館へ来たい人の希望は分かりません。未回答の人や会員以外へ尋ねる方法を考え、昼にも開く場合は、準備する人の時間と分担も確認してから決めたいです。

☆（6）自分で確かめる点

①「公共」「会員」を使ったか。
② 未回答の会員と、会員以外の来たい人へ確かめる案を示したか。
③ 二回分の準備を担う人の時間や分担も確かめると述べたか。

昼夜二回にすれば必ず全員が参加できる、とはしない。本文でまだ決まっていない時刻を、決定済みとして案内しない。

漢字から文章へ 第三冊

第十一回

公共とルール

宝石箱は空でした。皇帝は「その者を捕らえよ」と命じます。
でも、読者だけが知っている一コマがありました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

正	当	相	刑
正しい まっすぐ	当てはまる 受け持つ	互いに 姿を見る	法律による罰

妃	帝	吏	効
王や皇族の妻	国を治める君主	役所の役人	罪や責任を問う

いっしょに覚える漢字

自	捕	抗	刺	控	伐
銃	窃	虜	獄	朕	傑

この回で読むお話

空っぽの宝石箱

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
正	セイ ショウ ただしい	正しい／まっすぐ 正しい・正確・正当	妃	ヒ	王や皇族の妻に関わる 王妃・皇太子妃
当	トウ あたる あてる	当てはまる／受け持つ 当然・担当・正当	帝	テイ	国を治める君主 皇帝・帝国・帝王
相	ソウ ショウ あい	互いに／姿を見る 相手・相談・首相	吏	リ	役所の役人 官吏・吏員・獄吏
刑	ケイ	法律による罰 刑・刑罰・刑法	劾	ガイ	罪や責任を問いただす 弾劾

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
自	ジ シ みずから	自分／ひとりで 自分・自由・自然	銃	ジュウ	弾丸を発射する武器 銃・銃弾・拳銃
捕	ホ とらえる つかまえる	つかまえる 捕らえる・捕獲・逮捕	窃	セツ ぬすむ	ひそかに盗む 窃盗・窃取・盗窃
抗	コウ あらがう	逆らう／立ち向かう 抵抗・抗議・対抗	虜	リョ とりこ	捕らえられた人 捕虜・虜囚
刺	シ さす ささる	突き入れる／刺激する 刺す・刺激・名刺	獄	ゴク	牢／裁判や刑罰 監獄・獄中・地獄
控	コウ ひかえる	差し止める／記録する 控える・控室・控訴	朕	チン	天皇や皇帝が使う自称 朕
伐	バツ きる	木を切る／攻める 伐採・討伐・征伐	傑	ケツ	特に優れている 英傑・傑作・豪傑

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「正確」の意味に合うものを選びなさい。
ア　内容などに誤りがない　　イ　命令する人が強い
ウ　必ず全員が賛成する　　エ　相手の理由を聞かない

(2)「担当」の「当」に関わるものを選びなさい。
ア　人を疑うことだけ　　イ　考えを隠すこと
ウ　仕事などを受け持つこと　　エ　役所の建物だけ

(3)「相談」の「相」に関わるものを選びなさい。
ア　一人で必ず決める　　イ　互いに話し合う
ウ　相手を閉じ込める　　エ　数を増やす

(4)「刑罰」の「刑」が表すものを選びなさい。
ア　劇の小道具だけ　　イ　相手へのお礼
ウ　誰かを疑う気持ちだけ　　エ　法律に基づいて科す罰

(5)「官吏」の「吏」に関わるものを選びなさい。
ア　王の家族だけ　　イ　荷物を数える人だけ
ウ　役所の事務を扱う役人　　エ　全ての旅人

(6)「弾劾」の意味に合うものを選びなさい。
ア　公の責任を持つ人の罪を明らかにして責任を追及する　　イ　必ず相手をその場で殴る
ウ　役所の書類を全て捨てる　　エ　好きな作品をほめる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　相互　控室　皇帝　捕獲　正門　自由　官吏
刑罰　相手　弾劾　刺激　正当　抗議　王妃

文	解答	文	解答
(1) 校舎の正面の入口、 □□で待ち合わせた。		(8) 役所で働く □□が記録した。	
(2) 道理にかなう □□な理由を示す。		(9) 公の責任ある人の罪を 追及する□□を扱う。	
(3) 話す□□の 考えも聞いた。		(10) 自分で選べる □□について考える。	
(4) 互いの考えを知り、 □□の理解を深める。		(11) 動物をつかまえる □□の記録を読む。	
(5) 犯罪に対して科す □□について学ぶ。		(12) 不当だと考え、 □□を申し入れた。	
(6) 王の妻である □□が登場する。		(13) 音が感覚に及ぼす □□を調べる。	
(7) 帝国を治める □□の物語だ。		(14) 出番を待つ □□へ戻る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「正確」と「正当」に合うものを選びなさい。

入室した時刻は正確に記録されているが、それだけで窃盗と決めるのは正当かを考えた。

ア　記録が正確なら、どんな結論も正しい。
イ　時刻の記録は必ず間違いだ。
ウ　誰かを疑えば、記録の時刻も変わる。
エ　記録の確かさと、判断の妥当性は別に検討する。

（2）「抗議」と「相談」のこの使い方に合うものを選びなさい。

理由を聞かずに決めたことへ抗議し、もう一度確かめる方法も相談した。

ア　抗議したので、その後は話し合えない。
イ　異議を示すことと、方法を話し合うことを行った。
ウ　相談したので、最初の決定に賛成した。
エ　どちらも必ず声を荒らげる行為。

（3）この記録から分かることを選びなさい。

旅人が部屋へ入ったことは見たが、箱を開けたところは見ていない。

ア　入室は確かめたが、箱を開けたとはまだ言えない。
イ　部屋に入ったなら、箱を開けたに違いない。
ウ　見ていないので、箱は絶対に開けていない。
エ　入室した事実も、必ず取り消さなければならない。

（4）「担当」と「責任」のこの文に合うものを選びなさい。

私は記録の担当なので、見聞きした事実を報告する。誰が犯人かは、まだ判断していない。

ア　担当なので、想像も事実として書く。
イ　判断していないので、見たことも報告できない。
ウ　記録の役目を果たし、未確定の判断は確定させない。
エ　報告をすれば、必ず犯人を決めたことになる。

（5）「正確」を使い、何を確かめて記すかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「相談」を使い、相手と何を話し合うかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 会の**トウジツ**に、名札を受け取る。	
(2) 二つの色の**アイショウ**を考えて並べた。	
(3) 漫画には、事件を調べる**ケイジ**が登場する。	
(4) 架空の**テイコク**を舞台にした物語だ。	
(5) まず、**ジブン**で確かめた事実を話す。	
(6) 一方的な命令に**テイコウ**する場面を描く。	
(7) 名前を書いた**メイシ**を渡した。	
(8) 人が眠っているので、大きな声を**ヒカエル**。	
(9) 森の**バッサイ**について話し合った。	
(10) 資料館で、昔の**ジュウダン**を見学した。	
(11) 人の品を盗む**セットウ**の場面がある。	
(12) 戦いで捕らえられた人を**ホリョ**という。	
(13) 物語に登場する**カンゴク**の絵を描いた。	
(14) 漫画の皇帝は、自分を「**チン**」と呼ぶ。	
(15) 後の時代にも読まれる**ケッサク**が生まれた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 正面	(17) 皇太子妃	(18) 捕らえる	(19) 抗う	(20) 傑物

この回を終えたら もう一度確かめる

人物が知っている事実と、読者が知る事実を読み分けましょう。
記録にある行動だけで、別の行動まで確定させないようにします。

七　文章の中で考えよう

空っぽの宝石箱

　「朕は、まだ知らぬ。」
私は、皇帝のふきだしへそう書き込んだ。宝石が見つかる場面より、この一言の方に時間がかかった。消しゴムを使いすぎて、紙はそこだけ薄くなっている。私は純。漫画を描いていて、友人の琴に読んでもらっていた。

　最初の原稿では、皇帝は空の宝石箱を開き、「朕の宝石がない」と叫ぶ。読者には、その前に王妃が掃除のため石を隣室へ移した一コマを見せていた。皇帝はまだ知らない。このずれを面白く描くつもりだった。

　城の控室には、森の伐採について相談に来た旅人がいる。官吏の記録には、部屋へ入った時刻と、昔の戦いで捕虜になったことがある。皇帝は「その者を捕らえよ」と命じ、銃を持つ兵が監獄へ連れて行こうとする。

　「何を根拠に窃盗だと決めたの？」
琴に聞かれ、入った時刻が正確だからだと答えた。
「入室と、石を盗んだことは違うよ。」
私は皇帝を正義の英傑にするつもりだった。けれど、その言葉は胸に刺さった。

　読者の知っていることを、皇帝は知らない。

　皇帝の命令なら正当なのか。旅人の昔の経験が、今の行為を決めるのか。相手の話を聞く前に刑罰へ進む絵を、私は描いていた。王妃に尋ねれば分かるかもしれないのに、誰も聞いていない。官吏の書類には、石を移した記録まであった。

　琴と相談し、何でも知る皇帝ではなく、知らないことを確かめる話にしようと考えた。旅人の「入ったが、箱には触れていない」という抗議も描く。言い返す自由を、ふきだしの外へ追いやりたくなかった。

　責任ある官吏を弾劾する結末も考えた。だが、一人を悪者にすると、記録を読まず命令した皇帝の判断が消えてしまう。宝石が戻ればそれで終わり、にもしたくない。傑作かどうかは、もう少し先に置いておく。

　描き直した皇帝は、命令を止めて王妃を呼ぶ。「まだ知らぬ」と言った、その後のためだ。私は次のコマに細い線を引いた。琴が横で待っている。今度は、せりふの前に王妃を描いた。

人物・漫画・国・出来事は本教材用の創作です。実際の歴史上の制度や、現在の捜査・裁判の手順を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、才知や力に優れた人物を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）ある仕事を受け持つことを表す「タントウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）漫画の中の「朕」が指す人物を選びなさい。

ア　漫画の読者。
イ　旅人。
ウ　その言葉を言う皇帝自身。
エ　作者の友人の琴。

（4）最初の原稿で、皇帝が命令を出す時点の説明として適切なものを選びなさい。

ア　皇帝も読者も、王妃が移した場面をすでに見ている。
イ　読者は王妃の行動を知るが、皇帝はまだ知らない。
ウ　入室時刻の記録が、旅人の窃盗を直接示している。
エ　旅人が昔捕虜だったことは、今回盗んだ証拠になる。

（5）純が皇帝の「その者を捕らえよ」という場面を描き直した理由を、記録と判断の違いから45〜55 字で書きなさい。

（6）純への感想と助言を、「正確」「相談」を使って 70〜90 字で書きなさい。残す事実と、命令の前に確かめることを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十一回　公共とルール

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　事実や内容が誤りなく示されること。分からないことを、分かったこととして足さない。
（2）ウ　ある仕事などを受け持つこと。当てはまる、当たるなど、別の働きもある。
（3）イ　相手と話し合うこと。相談しただけで、その後の結論が一つに決まるとは限らない。
（4）エ　犯罪に対して法律に基づき科す罰に関わる。疑われること自体を、刑罰と同じにはしない。
（5）ウ　官吏は官庁の役人を指す語。物語では、どの役目を担っている人物かを確かめる。
（6）ア　公の責任を持つ人の罪や責任を追及すること。制度の詳しい内容とは分けて読む。

四　熟語を広げよう

（1）正門　（2）正当　（3）相手　（4）相互　（5）刑罰
（6）王妃　（7）皇帝　（8）官吏　（9）弾劾　（10）自由
（11）捕獲　（12）抗議　（13）刺激　（14）控室
（1）正門は、正面の門。（2）正当は、道理にかなうこと。（4）相互は互いにという意味。物語の中の仕組みを、実際の制度の説明とはしない。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　事実の記録が正しいことと、そこから何を結論できるかを分ける。
（2）イ　問題を伝え、確かめ方を話し合っている。声の大きさや結論は、語だけでは決まらない。
（3）ア　確認した事実と、確認していない行動を分ける。見ていないことは、行為がなかった証明とも限らない。
（4）ウ　役目の範囲を確かめている。事実を伝えることと、犯人を決めることは同じではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

入室した時刻を時計と照らし、見たことを正確に記録した。
☆自分で確かめる点　確かめた内容と、記したことが分かるか。

（6）解答例

友人と相談し、記録にない出来事を誰に尋ねるか考えた。
☆自分で確かめる点　話し合う相手と、内容が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）当日　（2）相性　（3）刑事　（4）帝国　（5）自分
（6）抵抗　（7）名刺　（8）控える　（9）伐採　（10）銃弾
（11）窃盗　（12）捕虜　（13）監獄　（14）朕　（15）傑作
（16）しょうめん　（17）こうたいしひ　（18）とらえる　（19）あらがう　（20）けつぶつ
（11）は「せっとう」、（12）は「ほりょ」と読む。（14）朕は、漫画の皇帝が自分を指す言葉。
（18）（19）は送り仮名も読む。（20）傑物は、特に優れた人物。

七　文章の中で考えよう

（1）英傑　純が最初に皇帝を描こうとしていた姿。実際の判断が正しいかは別に確かめる。
（2）担当　ある仕事を受け持つこと。役目の範囲と、確かめた事実を区別して読む。
（3）ウ　皇帝が自分を指して用いる言葉。
（4）イ　同じ時点でも、読者が知ることと、皇帝が知ることは異なっている。

七　記述問題の考え方

（5）　命令の場面を描き直した理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

入室時刻が正確でも石を盗んだ証拠にはならず、王妃や記録を確かめないまま、旅人へ罰を科そうとしていたから。

（5）別解例　52 字

部屋へ入った事実と窃盗という判断を混同し、石を移した王妃にも聞かず、皇帝の命令だけで罰へ進んでいたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 正確な入室の記録と、石を盗んだ判断を分けたか。
② 王妃や記録の確認を飛ばしている点を示したか。
③ 皇帝の立場や旅人の過去だけを、今回の犯行の根拠にしていないか。

この漫画を、現在の捜査や刑罰の制度の説明としない。混同された事実と判断を読み分ける。

（6）　漫画への感想と助言 70〜90 字

（6）解答例　83 字

入室時刻の正確な記録は残し、石を盗んだかは別に確かめる話にするとよいと思います。琴と相談したように、命令の前に王妃へ尋ね、石を移した記録も読む場面を描いてほしいです。

（6）別解例　86 字

読者と皇帝が知ることの違いが面白いです。正確な時刻だけで旅人を犯人と決めず、王妃の話と書類を確かめてほしいです。琴と相談し、皇帝が知らないことを尋ねる場面も残してください。

☆（6）自分で確かめる点

①「正確」「相談」を使ったか。
② 入室の記録は残し、それだけで窃盗と決めないと示したか。
③ 王妃の話や、石を移した記録を確かめる案を伝えたか。

旅人を疑うことも一切許されない、と一般化する必要はない。本文の確認できた範囲と、まだ確かめていない行動を分ける。

漢字から文章へ 第三冊

第十二回

仕事とお金

前よりたくさん売れました。
けれど、費用を引いて残るお金は、前より少ないようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

用	売	束	富
使う 働き	代金を受けて渡す	まとめてしばる	豊か 財産が多い

費	済	届	舗
お金や力を使う	終える 助ける	届く 申し出る	店 道に敷く

いっしょに覚える漢字

事	作	績	蔵	宝	卸
畜	坑	需	勃	勲	価

この回で読むお話

たくさん売れた日の記録

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
用	ヨウ もちいる	使う／必要な働き 用いる・使用・費用	費	ヒ ついやす ついえる	お金や力を使う 費用・消費・学費
売	バイ うる うれる	代金と引き換えに渡す 売る・売上・販売	済	サイ すむ すます	終える／助ける 済む・支払済・救済
束	ソク たば つか	まとめてしばる／制限 束・一束・約束・拘束	届	とどく とどける	目的の所へ達する／申し出る 届く・届ける・届出
富	フ フウ とむ とみ	財産が多い／豊か 富む・富・豊富	舗	ホ	店／道に敷く 店舗・舗装・老舗

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
事	ジ ズ こと	できごと／仕事 事・仕事・記事	畜	チク	家畜を飼う／たくわえる 家畜・畜産・牧畜
作	サク サ つくる	つくる／働く 作る・作業・作品	坑	コウ	地中に掘った穴 坑道・炭坑・坑内
績	セキ	仕事の成果／糸をつむぐ 実績・成績・紡績	需	ジュ	必要として求める 需要・需給・軍需
蔵	ゾウ くら	物をしまう場所 蔵・貯蔵・冷蔵	勃	ボツ	勢いよく起こる 勃興・勃発
宝	ホウ たから	大切で価値あるもの 宝・国宝・宝石	勲	クン	優れた働きの功績 勲章・勲功・勲位
卸	おろす おろし	品を仕入れて小売などへ売る 卸す・卸売・卸値	価	カ あたい	ねうち／値段 価値・価格・評価

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「使用」の「用」に関わるものを選びなさい。
ア　物を全て売る　　イ　何かを使う
ウ　値段を必ず上げる　　エ　財産を数えるだけ

(2)「販売」の「売」が表す働きを選びなさい。
ア　品を必ず無料で配る　　イ　品の色を塗る
ウ　物を一つに束ねる　　エ　代金と引換えに品を渡す

(3)「一束」の「束」に関わるものを選びなさい。
ア　まとめてしばったもの　　イ　必ず一枚の紙だけ
ウ　品の値段だけ　　エ　店に入る資格

(4)「豊富」の「富」に近い意味を選びなさい。
ア　必ず値段が高い　　イ　全て使い終わる
ウ　豊かで、多くある　　エ　品を隠す

(5)「費用」の意味に合うものを選びなさい。
ア　売った枚数だけ　　イ　物事に必要で支出するお金
ウ　受け取った代金だけ　　エ　店の広さだけ

(6)「済む」と「救済」の「済」を適切に捉えたものを選びなさい。
ア　どちらも必ず品を売ること　　イ　前者は紙、後者は絵の具だけ
ウ　二つの語に意味の違いはない　　エ　前者は終わること、後者は困る人を助けることに関わる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　富豪　記事　販売　実績　届出　作業　卸売
一束　店舗　需要　宝物　使用　経済　貯蓄

文	解答	文	解答
(1) 目的に合わせて道具を□□する。		(8) 店である□□を見学した。	
(2) 品を売る□□の仕事を知る。		(9) 取材した内容を□□にまとめた。	
(3) 花をまとめた□□を渡した。		(10) 手順に沿って□□を進める。	
(4) 大きな財産を持つ□□が、物語に登場する。		(11) これまでに残した仕事の□□を調べる。	
(5) その品を買い求める人の□□を調べる。		(12) 将来のため、お金を□□する。	
(6) 生産や売買など□□の動きを学ぶ。		(13) 大切にしてきた□□を見せる。	
(7) 必要事項を役所へ□□として提出する。		(14) 品を仕入れ、小売店などへ売る□□の仕事だ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「売上」と「残ったお金」に合うものを選びなさい。

売上八千円から、記録した費用六千円を引くと、二千円が残った。

ア　残ったお金は八千円。
イ　六千円は売った枚数。
ウ　受け取った総額と、費用を引いた額は異なる。
エ　費用があると、売上は必ずゼロになる。

（2）「価格」と「価値」のこの使い方に合うものを選びなさい。

絵葉書の価格は百円だが、写る故郷を懐かしむ人には、特別な価値があるという。

ア　代金と、その人が感じるねうちを述べている。
イ　価値があるので、代金は必ず千円に変わる。
ウ　価格は気持ちだけで、金額ではない。
エ　全ての人が同じ思い出を持っている。

（3）「需要」について、この記録から言えることを選びなさい。

今日、八十枚売れた。次回の天気、来る人数、買いたい枚数は、まだ確かめていない。

ア　次回も必ず八十枚だけ売れる。
イ　次回は需要が全くない。
ウ　作った枚数が、そのまま次回の需要になる。
エ　今日の販売枚数は分かるが、次回の需要はまだ決まらない。

（4）この「実績」と「予定」に合うものを選びなさい。

昨年の販売実績を調べ、今年の制作予定を立てた。

ア　昨年作らなかった品も、販売した実績になる。
イ　すでに行った結果を、これからの計画に使った。
ウ　予定を立てたので、今年の結果も確定した。
エ　実績は未来の希望だけを表す。

（5）「費用」を使い、何のためのお金かを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「豊富」を使い、何が多くそろうかが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 展示に使う道具を**ヨウイ**する。	
(2) 資料館の**バイテン**で絵葉書を買った。	
(3) 班の**ケッソク**を強め、共同で作業する。	
(4) 物語に描かれた**ヒンプ**の差を考えた。	
(5) 水を出したままにせず、**ロウヒ**を防ぐ。	
(6) 災害で困る人の**キュウサイ**について調べる。	
(7) その知らせは、明日には**トドク**はずだ。	
(8) 家畜を飼う**チクサン**の仕事を見学した。	
(9) 石炭を掘った**タンコウ**の写真を展示する。	
(10) 新しい産業が**ボッコウ**した時代を調べる。	
(11) 大きな功績をたたえる**クンショウ**が飾られている。	
(12) 一枚の**カカク**は百円だった。	
(13) 見聞きしたことを基に、物語を**ソウサク**する。	
(14) 図書室の**ゾウショ**を調べる。	
(15) 光を受けて、**ホウセキ**が輝いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 用心	(17) 売買	(18) 紡績	(19) 卸す	(20) 価値

この回を終えたら もう一度確かめる

売れた金額と、費用を引いて残るお金を分けて読みましょう。
数字を比べるときは、何の費用を含む記録かも確かめます。

七　文章の中で考えよう

たくさん売れた日の記録

売れ残った二十枚を一束にすると、指の間が前より広くなった。厚い紙に変えたせいだ。陸は箱へ入れようとして、もう一度、絵の面を上にした。炭坑の絵に、夕方の光が当たっていた。

ここは蔵を改装した資料館。町の畜産や炭坑、新しい産業が勃興した頃の記録が豊富にある。陸は写真を手がかりに絵葉書を描き、店舗の一角で売った。卸売の店で用紙を選び、今回は百枚作った。友人は、厚い紙の手触りを気に入ってくれた。

価格は前回と同じ、一枚百円。閉店までに八十枚売れた。前回は六十枚だから大成功だと思い、売れるたび、自分の仕事へ勲章を付けてもらった気分になった。だが、支払いを済ませて費用を書くと、友人が首をかしげた。

「前より残るお金が少ないよ。」
今回の紙代は増え、会場の使用料もかかっていた。陸は売れた枚数の下へ線を引き、二回分の記録を並べた。

二回の販売の記録

回	売上	材料と会場の費用	差引で残ったお金
前回	六千円	三千円	三千円
今回	八千円	六千円	二千円

表の費用は、材料と会場だけ。この活動では、手伝った人へ仕事代を出していない。売上は二千円増えたが、表の残額は千円減った。同じ記録の中に、反対の変化があった。全部の仕事代まで引いたお金だとは言えなかった。

それでも、紙を薄くすればよいと、すぐには思えない。

帰り際の客が、この炭坑の絵を指して「父が働いた場所に似ている」と話した。手に届いた一枚を、宝物のように眺めていた。陸はうれしかった。ただ、うれしさで費用は消えない。客の言葉と数字のどちらかを、なかったことにはしたくなかった。

売れ残りは貯蔵する。今回の販売実績は分かるが、次に来る人数や需要はまだ分からない。同じ枚数を作る約束はせず、紙の種類も枚数も比べて決めたい。陸は記録を二段に分け、一段に数字、もう一段に客と友人の言葉を書いた。

絵葉書を箱へ収め、作業を終えた。ふたを閉じるとき、一枚だけ裏返っているのが見えた。陸は向きをそろえ、紙の角を指で押さえる。前には気にしなかった厚さが、指先に残った。

人物・町・資料館・写真・金額は教材用の創作です。記録の費用は材料と会場だけで、実際の事業の全費用を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と販売の記録を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、あとで使えるように物を蓄えておくことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）一定の目的をもって行う仕事を表す「ジギョウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「需要」に合う説明を選びなさい。

ア　作った品の色だけ。
イ　次回に必ず売れると決まった枚数。
ウ　品などを必要として、買い求めることに関わる。
エ　店で使った紙の重さだけ。

（4）二回の記録について正しいものを選びなさい。

ア　売上は増えたが、表の費用を引いた残額は減った。
イ　今回の費用は前回より二千円少ない。
ウ　残額は今回も前回も八千円である。
エ　今回の二千円は、全ての仕事代も引いた額である。

（5）陸が売上だけで大成功と決めるのを見直した理由を、前回との違いから45〜55 字で説明しなさい。

（6）次回の準備に使う記録を、「売上」「費用」を使って 70〜90 字で書きなさい。前回と今回の金額を比べ、言えることをまとめます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十二回　仕事とお金

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　目的のために使うことに関わる。使用した物と、作った物を区別して読む。
（2）エ　品を売ることに関わる。受け取った代金の総額と、費用を引いた残額は分ける。
（3）ア　まとめた物を数える場合などに使う。何本や何枚を一束にするかは、物や場面で異なる。
（4）ウ　物や内容などが豊かにあること。豊富な種類があっても、全て売れるとは限らない。
（5）イ　材料、場所の使用などのために支出するお金。何を費用に含めた記録かも確かめる。
（6）エ　同じ字でも、終えることと助けることで働きが違う。熟語全体の意味を読む。

四　熟語を広げよう

（1）使用　（2）販売　（3）一束　（4）富豪　（5）需要
（6）経済　（7）届出　（8）店舗　（9）記事　（10）作業
（11）実績　（12）貯蓄　（13）宝物　（14）卸売
（4）富豪は、大きな財産を持つ人。（5）需要は、品などを必要とし、買い求めることに関わる。
（7）は「届け出」という表記もある。（12）は蓄えること。（14）は小売店などへ売る取引。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　受け取った代金の総額と、記録した費用を差し引いた残額を区別する。
（2）ア　価格も価値と無関係ではないが、この文では代金と、個人が感じるねうちを分けている。
（3）エ　売れた実績は参考になるが、次回の需要は未確定。記録した範囲から言えることを考える。
（4）イ　過去に行ったことと、未来の計画を区別する。参考にした実績が、今年の結果を保証するわけではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

絵葉書を作る紙と、会場を借りるための費用を記録した。

☆自分で確かめる点　何に支出するお金かを示したか。

（6）解答例

資料館には、町で使われた道具についての記録が豊富にある。

☆自分で確かめる点　数や内容の豊かさを示す使い方になっているか。

六　短文で使ってみよう

（1）用意　（2）売店　（3）結束　（4）貧富　（5）浪費
（6）救済　（7）届く　（8）畜産　（9）炭坑　（10）勃興
（11）勲章　（12）価格　（13）創作　（14）蔵書　（15）宝石
（16）ようじん　（17）ばいばい　（18）ぼうせき　（19）おろす　（20）かち
（7）は送り仮名も含め「届く」。（9）は石炭を掘る場所。（10）勃興は、勢いよく起こること。
（18）紡績は糸をつむぐことなどを表す。（19）は「おろす」。

七　文章の中で考えよう

（1）貯蔵　ここでは、売れ残った絵葉書を保管することに使っている。
（2）事業　一定の目的をもって行う仕事。今回の販売実績と、次回の予定は分けて考える。
（3）ウ　品などを必要として求めること。今回の販売枚数だけで、次回の需要は確定しない。
（4）ア　売上は六千円から八千円に増え、残額は三千円から二千円へ減った。仕事代は含まない。

七　記述問題の考え方

（5）　売上だけでは決められない理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

売れた枚数と売上は増えたが、材料と会場の費用も増え、差し引いて残るお金は前回の三千円から二千円へ減ったから。

（5）別解例　49 字

前回より二千円多く売り上げても、記録した費用は三千円増え、差引で残るお金が千円減ると分かったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 売れた枚数や売上の増加と、残額を分けたか。
② 費用が増えた点を踏まえたか。
③ 残額は前回より千円少ないと分かるか。

厚い紙や客の喜びを否定する必要はない。記録した費用を引いた残額を、数字に沿って説明する。

（6）　次回の準備のための販売記録 70〜90 字

（6）解答例　80 字

今回は売上が八千円で、費用六千円を引くと二千円残りました。前回は六千円から三千円を引き、三千円残っています。売上は増えましたが、差引で残るお金は千円減りました。

（6）別解例　86 字

前回の売上六千円に対し、今回は八千円でした。費用は三千円から六千円へ増えたので、残額は三千円から二千円へ減りました。材料と会場の費用を含む記録として、次回の準備に使います。

☆（6）自分で確かめる点

①「売上」「費用」を使ったか。
② 前回と今回の売上・費用・残額を、取り違えずに示したか。
③ 売上増と残額減を分け、記録の範囲からまとめたか。

表の費用は材料と会場だけ。実際の商売の全費用を引いた利益だとはしない。次回の需要や、最もよい紙を決める記録でもない。

漢字から文章へ 第三冊

第十三回

空と大地

写真の空は、きれいに晴れています。
この一枚を「いつもの川」と紹介してよいのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

山	川	空	土
高く盛り上がる地形	地表を流れる水	そら 中がない	地面を作るもの

候	灰	潮	曇
時節 様子 待つ	燃えかす 灰色	海水 満ち引き	雲で空が覆われる

いっしょに覚える漢字

晴	泳	景	染	宙	浪
滞	洪	爆	壌	漬	濯

この回で読むお話

青空の写真を選んだ日

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
山	サン やま	高く盛り上がった地形 山・山地・火山	候	コウ そうろう	時節／様子／待つ 気候・天候・候補
川	セン かわ	地表を流れる水 川・河川・川岸	灰	カイ はい	燃えかす／ねずみ色 灰・灰色・火山灰
空	クウ そら あく	そら／中がない 空・空気・空間	潮	チョウ しお	海水の満ち引き 潮・満潮・潮流
土	ド ト つち	地面を作るもの 土・土地・土砂	曇	ドン くもる	雲で光が遮られる 曇る・曇天・雨曇り

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
晴	セイ はれる はらす	雲がなくなる／疑いが消える 晴れる・晴天・快晴	滞	タイ とどこおる	一か所にとどまる 滞る・滞在・停滞
泳	エイ およぐ	水中を進む 泳ぐ・水泳・遠泳	洪	コウ	大きくあふれる水 洪水・洪積
景	ケイ	見える眺め／様子 景色・風景・背景	爆	バク	急に破裂する 爆発・爆音・爆風
染	セン そめる そまる	色がつく／広がる 染める・染色・感染	壌	ジョウ	土／地面 土壌・沃壌
宙	チュウ	空中／宇宙 宇宙・宙返り・宙づり	漬	つける つかる	液体にひたす 漬ける・漬物・水漬け
浪	ロウ	波／定まらず移る 波浪・浪費・放浪	濯	タク すすぐ ゆすぐ	水で洗う 洗濯・濯ぐ

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「山地」の「山」が表すものを選びなさい。
ア　海の満ち引き　　イ　低い気温だけ
ウ　高く盛り上がった地形　　エ　空の雲だけ

(2)「空き箱」の「空」に合うものを選びなさい。
ア　中に物が入っていない　　イ　空の高い所にある
ウ　外が明るい　　エ　箱が軽いと測定済み

(3)「天候」と「気候」の説明を選びなさい。
ア　どちらも一回の雨だけ　　イ　天候は土、気候は潮だけ
ウ　晴れなら気候も変わる　　エ　空模様と、長い期間で見た気象の特徴に関わる

(4)「土壌」の「土」と「壌」に関わるものを選びなさい。
ア　空だけを示す　　イ　どちらも土に関わる
ウ　どちらも火だけを示す　　エ　数を減らす

(5)「停滞」の意味を選びなさい。
ア　物を水へひたす　　イ　雲がなくなる
ウ　物事が進まず、とどまる　　エ　水中を進む

(6)「染める」と「洗濯」の働きに合うものを選びなさい。
ア　色をつけることと、衣類などを洗うこと　　イ　どちらも水位を測ること
ウ　どちらも空を写すこと　　エ　字の働きに違いはない

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　曇天　風景　山地　満潮　水泳　空間　染色
気候　洪水　土壌　晴天　火山灰　河川　候補

文	解答	文	解答
(1) 山の多い地域、□□を調べる。		(8) 海の水が満ちた□□の時刻を調べる。	
(2) 自然の水の流れ、□□の記録を読む。		(9) 雲に覆われた□□の空が続いた。	
(3) 部屋の中に使える□□を作る。		(10) よく晴れた□□の日を写した。	
(4) 地面の土、□□の性質を調べる。		(11) プールで□□の練習をする。	
(5) 選ばれる可能性のある□□を三人挙げる。		(12) 目の前に広がる□□を描いた。	
(6) 長い期間で見た□□の特徴を学ぶ。		(13) 布に色をつける□□を体験する。	
(7) 火山から出た細かな□□□が積もった。		(14) 川の水があふれる□□の記録を読む。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「晴天」と「水位」のこの文に合うものを選びなさい。

十一時の空は晴天だったが、川の水位は九時より高かった。

ア　空が晴れたので、水位も必ず下がった。
イ　空模様と川の水の高さは、別々に確かめる。
ウ　水位が高いので、晴天の記録は全て誤り。
エ　九時も十一時も、同じ水位だった。

（2）「天候」と「気候」のこの使い方に合うものを選びなさい。

今日の天候を記し、町の気候を知るために長年の資料も調べた。

ア　一日の天候だけで、長年の特徴を決めた。
イ　二つは関係しないので、比べられない。
ウ　今日の記録は、過去の記録を全て消す。
エ　見る期間の異なる資料を使っている。

（3）この「染色」と「洗濯」に合うものを選びなさい。

青く染色した布が泥で汚れたので、洗濯した。

ア　青くしたことと、汚れを洗ったことを述べている。
イ　洗濯したので、布を染めた事実は消えた。
ウ　青いので、泥は付いていない。
エ　染色は、必ず服を乾かすことを表す。

（4）「風景」と「記録」のこの文から言えることを選びなさい。

川の風景を写した写真に、撮影時刻と観測した水位を添えた。

ア　写真だけで、水位の数字が全て読める。
イ　数字があるので、写真は必ず不要になる。
ウ　見える様子と、時刻や数値を対応させている。
エ　その日の全ての時刻の様子が分かる。

（5）「天候」を使い、いつの空模様かを書きなさい。20〜40 字。

（6）「景色」を使い、何が見えるかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) いくつもの山が連なる**サンミャク**を地図で探す。	
(2) 川沿いの**カワギシ**に草が生えている。	
(3) 中身のない**アキバコ**を片づけた。	
(4) 建物を支える**ドダイ**を調べる。	
(5) 白と黒の間の色を、**ハイイロ**という。	
(6) 海から吹く**シオカゼ**に当たった。	
(7) 今日の空模様は、**クモリ**だ。	
(8) 雲の切れた**ハレマ**から、光が差した。	
(9) プールで、ゆっくり**オヨグ**練習をする。	
(10) 病気の**カンセン**を防ぐ方法について学ぶ。	
(11) 星が広がる**ウチュウ**の写真を見る。	
(12) 海の**ハロウ**を観測した記録を読む。	
(13) 布を**ミズヅケ**にしておいた。	
(14) 汚れた衣類を**センタク**した。	
(15) 布を染める**センリョウ**を選んだ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 天日	(17) 染まる	(18) 濁流	(19) 爆音	(20) 荒波

この回を終えたら もう一度確かめる

空の様子と、地面や川の変化を分けて読みましょう。
一枚の写真を説明するときも、写っていない時間を確かめます。

七　文章の中で考えよう

青空の写真を選んだ日

写真の端に、青い布が一枚だけ残った。航はそこを切り、川と空を大きく見せようとしていた。町の写真展に出す一枚だ。題は「いつもの川、洗濯日和」。横で見ていた祖母が、日付を指した。

「この布、洪水のあとで洗ったのよ。」
航は手を止めた。写真は、川の水があふれた翌日だった。水漬けになった布を洗い、ようやく干したのだという。晴れたから元の暮らしに戻ったのでは、と尋ねると、まだ泥を出せない家もあったと祖母は話した。

青い空より先に、布を見ることになった。

祖母の指は、干し綱の端に止まっていた。染色した布は、風に泳ぐように膨らんでいる。航には、さっきまで気持ちのよい景色だった。どちらの見方でも、写真の青さは変わらない。

撮影は午前十一時、橋の近くの家から。係の人が、同じ日の観測記録を出した。川の水位は同じ地点で測り、町の天候も時刻ごとに記してある。前夜は、上流の山に雨が降ったともある。

その日の町と川の記録

時刻	町の天候	川の水位
九時	曇り	一・〇メートル
十一時	晴れ	一・六メートル
十二時	晴れ	一・四メートル

曇りから晴れへ変わっても、水位は九時より上がっている。十二時には下がったが、片づけまで終わったとは分からない。海の潮や波浪も、写真の一瞬だけで一日を説明できない。

隣の展示には、火山の爆発と灰の積もった土地、そこの土壌を写した連作があった。宇宙から見た雲の画像もある。航は派手な場面を順に見ていたが、途中の、何も起きていないような一枚へ戻った。泥出しが停滞した日や、布を少しずつ洗った時間も、写真の外に続いていたのだ。

題を「青空の下で、泥を洗う」に変え、時刻と水位を添える。祖母の話は、聞いた言葉として記した。青い空を隠す必要はない。ただ、その青さだけで「いつも通り」とは言わない。航は切り取りの線を戻した。写真の端で、布がもう一度、風を受けたように見えた。

人物・町・写真・観測値は教材用の創作です。現実の川の安全は、この表や写真だけで判断しません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と、その日の町と川の記録を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、物事が進まず、とどまることを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）激しく急に破裂することを表す「バクハツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「水漬けになった布」に合う説明を選びなさい。

ア　水にひたった布。
イ　空を描くための布。
ウ　一度も使っていない布。
エ　必ず青く染めたばかりの布。

（4）表から直接分かることを選びなさい。

ア　晴れた時刻には、水位が必ず九時より低い。
イ　十二時には、町の片づけが全て終わった。
ウ　記録した三時刻では、十一時の水位が最も高い。
エ　十一時から十二時まで、一度も水位は変わらなかった。

（5）航が最初の題を変えた理由を、写真と祖母の話、観測記録を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）十一時の写真に添える説明を、「天候」「水位」を使って 70〜90 字で書きなさい。写真だけでは分からないことも伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十三回　空と大地

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　土地の形に関わる字。山地と、そこで見られる天候は分けて読む。
（2）ア　ここでは中身がないこと。空という字でも、空間や青空とは着目点が違う。
（3）エ　天候は空模様、気候は長い期間で見た気象の特徴に関わる。期間を確かめる。
（4）イ　同じような意味の字を重ねた語。土壌の性質は、色だけで全ては決まらない。
（5）ウ　進みが止まったり滞ったりすること。何が進まないのかを文の中で読む。
（6）ア　色をつけることと洗うことを捉え分ける。洗っただけで色が全て消えるとは限らない。

四　熟語を広げよう

（1）山地　（2）河川　（3）空間　（4）土壌　（5）候補
（6）気候　（7）火山灰　（8）満潮　（9）曇天　（10）晴天
（11）水泳　（12）風景　（13）染色　（14）洪水
（5）候補は、ある役目などに選ばれる可能性のある人や物。（6）の気候は長い期間で見た気象の特徴。（14）の洪水は、川の水があふれることなどをいう。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　空と川について別の事柄を記録している。二つが必ず同じように変わるとはしない。
（2）エ　今日の空模様と、長い期間の特徴を分ける。どちらの記録にも役割がある。
（3）ア　布につけた色と、あとから付いた汚れを分ける。洗濯後の色は、この文だけでは不明。
（4）ウ　写真と数値の役割を合わせている。一枚に、その日の全ての変化が写るわけではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

撮影した日の天候を確かめるため、日付の付いた記録を読んだ。
☆自分で確かめる点　日や時刻など、いつの様子かが分かるか。

（6）解答例

橋の上から見える川と山の景色を、一枚の絵に描いた。
☆自分で確かめる点　見える物や、見ている場所を具体的に示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）山脈　（2）川岸　（3）空き箱　（4）土台　（5）灰色
（6）潮風　（7）曇り　（8）晴れ間　（9）泳ぐ　（10）感染
（11）宇宙　（12）波浪　（13）水漬け　（14）洗濯　（15）染料
（16）てんぴ　（17）そまる　（18）だくりゅう　（19）ばくおん　（20）あらなみ
（3）（7）（8）（9）（13）は送り仮名も書く。（12）波浪は、海などの波。（16）天日は太陽の光。「てんじつ」と読んで太陽を指す用法もある。（19）爆音は、爆発やエンジンの大きな音。

七　文章の中で考えよう

（1）停滞　泥出しが進まなかった日々について使う。
（2）爆発　本文では、隣の展示にある火山の写真について使われている。
（3）ア　洪水で水にひたり、洗って干した布。
（4）ウ　三つの記録では十一時が最高。時刻の間の変化や、一日全体の最高値までは分からない。

七　記述問題の考え方

（5）　写真の題を変えた理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

空は晴れても川の水位は高く、布を干す姿も洪水後の片づけだったので、いつもの暮らしとは言えないと気づいたから。

（5）別解例　53 字

青空だけで町が元に戻ったと思ったが、水位の記録や祖母の話から、片づけの続く時間が写真にあると分かったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 青空と、川や町の状態を分けたか。
② 水位の高さと、洪水後の布の片づけに触れたか。
③ 晴天の写真そのものを誤りとはしていないか。

祖母の洗濯は、平常に戻った証拠ではない。題を変えても、写真の青空を消す必要はない。

（6）　写真に添える説明 70〜90 字

（6）解答例　88 字

十一時の町の天候は晴れですが、水位は三つの記録で最も高い一・六メートルです。干しているのは、洪水で水漬けになり、洗った布です。青空だけで、町が元の暮らしへ戻ったとは言えません。

（6）別解例　87 字

写真は洪水の翌日の十一時です。天候は晴れでも、川の水位は九時より高い一・六メートルでした。祖母は水漬けの布を洗って干しており、町ではまだ片づけの続いていたことを伝えています。

☆（6）自分で確かめる点

①「天候」「水位」を使ったか。
② 十一時の天候と一・六メートルの水位を正しく示したか。
③ 洗濯の背景を説明し、青空だけで平常とは決めなかったか。

三時刻の比較と、一日全体の最高値を区別する。この表で、現実の川の安全を判断しない。

漢字から文章へ 第三冊

第十四回

植物と動物

台本には「猿に実をやる」とあります。
同じ実を渡しても、違う場面に見えるようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

実	花	木	根
中身 果実 本当	植物の花 華やかさ	樹木 木材	植物を支える もと

植	種	茎	稲
植物を置き育てる	たね 種類	根と葉や花をつなぐ	米を実らせる作物

いっしょに覚える漢字

米	松	蚕	穀	芝	藤
狩	桑	駄	椎	猿	駒

この回で読むお話

猿に実を渡すまで

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
実	ジツ み みのる	中身／果実／本当 実・果実・事実	植	ショク うえる うわる	植物を地に置き育てる 植える・植物・植林
花	カ はな	植物の花／華やかなもの 花・開花・花粉	種	シュ たね	植物のたね／種類 種・種子・種類
木	ボク モク き こ	樹木／木材 木・木材・樹木	茎	ケイ くき	根と葉や花をつなぐ部分 茎・地下茎・球茎
根	コン ね	植物を支える／物事のもと 根・根毛・根拠	稲	トウ いね いな	米を実らせる作物 稲・稲作・稲穂

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
米	ベイ マイ こめ	稲から取れる穀物 米・白米・米国	狩	シュ かる かり	野生動物を追って捕る 狩る・狩猟・狩人
松	ショウ まつ	常緑の針葉樹 松・松林・松葉	桑	ソウ くわ	蚕の餌となる木 桑・桑畑・山桑
蚕	サン かいこ	絹糸を作る幼虫 蚕・養蚕・蚕糸	駄	ダ	荷を運ぶ馬／役に立たない 駄馬・無駄・駄作
穀	コク	米や麦などの実 穀物・雑穀・穀倉	椎	ツイ しい	シイの木／背骨の骨 椎・椎茸・脊椎
芝	シ しば	地面を覆う細い草 芝・芝生・芝居	猿	エン さる	霊長類の動物 猿・野猿・類人猿
藤	トウ ふじ	つる性の木 藤・藤棚・葛藤	駒	ク こま	若い馬／盤上のこま 駒・若駒・持ち駒

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「果実」と「事実」の「実」に合うものを選びなさい。
ア　どちらも役者だけ　　イ　実ったものと、本当にあったこと
ウ　どちらも種を植えること　　エ　どちらも同じ植物の名

(2)「植林」の「植」に関わるものを選びなさい。
ア　木を全て運び去る　　イ　花の色を塗る
ウ　根だけを切る　　エ　木などを植えて育てる

(3)「種子」と「種類」の「種」の働きを選びなさい。
ア　たねと、仲間分けに関わる　　イ　どちらも米だけを表す
ウ　どちらも同じ木の実　　エ　前後の語は読まなくてよい

(4)「根拠」の「根」に関わるものを選びなさい。
ア　草木の色だけ　　イ　物の重さ
ウ　考えなどのよりどころ　　エ　舞台の高さ

(5)「養蚕」の意味に合うものを選びなさい。
ア　野生動物を追う　　イ　蚕を飼い、繭を取る
ウ　稲から米を取る　　エ　草を刈りそろえる

(6)「無駄」の意味に合うものを選びなさい。
ア　まだ何も決めていない　　イ　馬が一頭いること
ウ　短い時間の全て　　エ　役に立たず、むだなこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　種類　穀物　結実　養蚕　藤棚　植林　開花
木材　駄作　真実　稲作　狩猟　根本　種子

文	解答	文	解答
(1) 花のあとに実がなる □□の様子を観察する。		(8) 仲間の違いから □□を分ける。	
(2) うそや偽りのない □□を確かめたい。		(9) 食用の米などの □□を育てる。	
(3) 花が咲く □□の時期を調べる。		(10) 稲を育てる □□の記録を読む。	
(4) 木を材料とする □□を使う。		(11) 蚕を飼う □□を調べる。	
(5) 問題の一番もとになる □□を考える。		(12) つるの木を支える □□の下を歩く。	
(6) 木を植え育てる □□を続ける。		(13) 出来のよくない作品を □□という。	
(7) 植物のたね、 □□を観察する。		(14) 野生動物を追い捕る □□の歴史を学ぶ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「事実」と「気持ち」に合うものを選びなさい。

舞台で実を差し出したのは事実だが、その動作だけでは、役の気持ちは伝わらなかった。

ア　差し出していないと分かった。
イ　動作があれば、どんな気持ちでも同じように伝わる。
ウ　行ったことと、そこから読み取る気持ちを分けている。
エ　役者本人と、役の気持ちは常に同じ。

（2）「種子」と「種類」のこの文に合うものを選びなさい。

袋にある種子を調べ、植物の種類ごとに分けた。

ア　植物のたねを、仲間ごとに分けた。
イ　種類は、全て一粒のたねを指す。
ウ　分けたので、全てのたねが発芽した。
エ　種子と種類は、いつでも入れ替えられる。

（3）この「無駄」と「待つ」に合うものを選びなさい。

台詞の前の短い間に、相手の動きを見る役目があるので、無駄とはしなかった。

ア　黙る時間は、全て同じ役目を持つ。
イ　間を置くほど、必ずよい芝居になる。
ウ　待つ時間は、長さだけで全て決まる。
エ　何も言わない間にも、役目があると捉えた。

（4）「根拠」のこの使い方に合うものを選びなさい。

私は猿が喜んだと読んだ。差し出された実に近づき、両手で受けた動作を根拠にした。

ア　自分の読みに、根拠は全くないと言った。
イ　読み取った気持ちと、よりどころの動作を結んだ。
ウ　実の重さを測って決めた。
エ　根拠があれば、ほかの読みは全て禁止になる。

（5）「根拠」を使い、考えのよりどころを書きなさい。20〜40 字。

（6）「無駄」を使い、目的との関係が分かる一文を書きなさい。20〜40 字。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 模型ではなく、**ジツブツ**を見て描く。	
(2) 贈り物の**ハナタバ**を両手で持つ。	
(3) 庭の**ウエキ**に水をやる。	
(4) 木の**ネモト**に、落ち葉が集まっていた。	
(5) 春の**タネマキ**に備える。	
(6) 実った**イナホ**が、風に揺れる。	
(7) ぬかを取り除いた**ハクマイ**を炊いた。	
(8) 海岸に続く**マツバヤシ**を歩く。	
(9) 桑の葉を食べる**カイコ**を育てる。	
(10) 根と葉や花をつなぐ、植物の**クキ**を観察する。	
(11) 校庭の**シバフ**に腰を下ろす。	
(12) 蚕の餌になる葉を取る**クワバタケ**を見学する。	
(13) 木の名の**シイ**を、図鑑で調べる。	
(14) 野生の猿を、**ヤエン**という。	
(15) 若い馬である**ワカゴマ**が、草を食べている。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 木陰	(17) 花粉	(18) 藤色	(19) 駄馬	(20) 種別

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ字も、熟語や文脈で働きが変わります。
物語の動作は、前後の言葉や相手の反応と合わせて読みましょう。

七　文章の中で考えよう

猿に実を渡すまで

農夫　猿に実をやる。

台本のその一行を、莉子は指で押さえた。学校の芝居「猿と種売り」で、農夫を演じる。稲を育て、米やほかの穀物を売る村へ、猿が来る話だ。最初の稽古では、実の模型を突き出し、「持っていけ」と言った。

猿役の航平が、手を引っ込めた。
「これ以上取るなって、追い払われた気がする。」
おなかをすかせた猿に、分ける場面のつもりだった。莉子は同じ一行をもう一度読んだ。相手も実も変えていないのに、思い描いた場面が届かない。

二人は舞台の端へ座った。芝生を描いた布に、松と椎の木の絵。藤棚の花、桑の葉を食べる蚕の人形、二人で動かす若駒もある。莉子が描いた根と茎の絵は、裏返っていた。直そうとして、台本を書いた友人が来るのを見た。

友人に聞くと、農夫は種を植え、実るまで待ったのに、一つ取られて腹を立てている。ただ、猿が空腹だと知り、もう一つ分けるつもりだという。狩人役の先輩も聞いていた。「怒りを全部消さなくても、猿を見る時間はあってよいのでは。」

もう一度。莉子は、すぐに実を出さなかった。猿の空いた手を見て、取られた実と、残った実を見比べる。何も言わない間を、初めは無駄だと思っていた。

実を差し出すと、今度は航平が近づき、両手で受け取った。

莉子は笑顔も足そうとして、やめた。農夫はまだ腹を立てているかもしれない。取られた事実も変わらない。それでも、食べてよいものを自分から渡すつもりは、さっきより伝わったようだ。航平は「受け取るまで、少し待ってみた」と、自分の変えた所も話した。

終わりに、莉子は一行の横へ「猿を見る」と書いた。果実の模型を戻し、裏返っていた根の絵も表へ向ける。客席には見えない根まで描いた友人が、片づけの箱を抱えている。莉子は箱の片側を持ち、二人で舞台を降りた。

人物・芝居・村は教材用の創作です。野生動物への接し方を示す話ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、植物が実らせたものを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）本当にあったことを表す「ジジツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文で莉子が初めは「無駄」だと思ったものを選びなさい。

ア　小道具を全て作ること。
イ　実を出す前に、猿や実を見る間。
ウ　猿に台詞を全て任せること。
エ　稲を売る場面そのもの。

（4）台本を書いた友人の説明に合うものを選びなさい。

ア　農夫は猿に全く怒っていない。
イ　猿が取った実は、実際にはなかった。
ウ　実を渡すのは、猿を必ず捕まえるため。
エ　農夫は怒りながらも、空腹と知って実を分ける。

（5）莉子が実を出す前に猿を見るようにした理由を、最初の稽古と比べ、45〜55 字で書きなさい。

（6）次の稽古への助言を、「無駄」「動作」を使って 70〜90 字で書きなさい。農夫の気持ちと、猿への伝わり方を考えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十四回　植物と動物

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　果実は実り、事実は本当にあったことに着目する。同じ実の字でも意味が違う。
（2）エ　植物を植えることに関わる。植えたことと、育った結果は区別して確かめる。
（3）ア　植物のたねと、物事の仲間分け。熟語全体で、種が何を表すかを読む。
（4）ウ　植物の根に加え、物事のもとにも関わる字。根拠は判断のよりどころをいう。
（5）イ　蚕を育てて繭を取る営み。植物と動物の関係も、語の周辺で確かめる。
（6）エ　役に立たないことなどをいう。何の目的に照らして無駄かを考える。

四　熟語を広げよう

（1）結実　（2）真実　（3）開花　（4）木材　（5）根本
（6）植林　（7）種子　（8）種類　（9）穀物　（10）稲作
（11）養蚕　（12）藤棚　（13）駄作　（14）狩猟
（1）結実は、実がなることなど。（2）の真実は、うそや偽りのない本当のこと。（5）根本は物事の大もと。（7）の種子はたね、（8）の種類は仲間分けに関わる。（13）駄作は出来のよくない作品。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　動作の有無と、どう受け取られるかは別。前後の言葉や相手との関わりも読む。
（2）ア　種子は分ける対象、種類は分ける区分に関わる。発芽の結果は書かれていない。
（3）エ　発声していない時間の役目に着目する。どの場面でも長く待つという意味ではない。
（4）イ　読みと、そのよりどころを示している。ほかの動作や台詞も合わせて検討できる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

猿が実へ近づいた動作を根拠に、受け取りたいのだと考えた。
☆自分で確かめる点　考えたことと、よりどころを結び付けたか。

（6）解答例

待つ間にも相手を見る役目があるので、無駄な時間とはしなかった。
☆自分で確かめる点　何に役立つか、役立たないかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）実物　（2）花束　（3）植木　（4）根元　（5）種まき
（6）稲穂　（7）白米　（8）松林　（9）蚕　（10）茎
（11）芝生　（12）桑畑　（13）椎　（14）野猿　（15）若駒
（16）こかげ　（17）かふん　（18）ふじいろ　（19）だば　（20）しゅべつ
（3）（4）（5）は送り仮名も書く。（9）は「蚕」、（10）は「茎」。（13）の椎は木の名。（15）の若駒は若い馬。（18）の藤色は、藤の花のような淡い紫色。

七　文章の中で考えよう

（1）果実　本文末の、植物の実に似せた模型に使われている。
（2）事実　実を取られた出来事そのものは変わらない。
（3）イ　発声していなくても、相手や実を見る役目がある。
（4）エ　怒りと、実を分けようとする行動は、ここでは両立している。

七　記述問題の考え方

（5）　猿を見る間を置いた理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

初めは強く実を出すと追い払うように伝わったので、猿の空腹に気づき、自分から分ける場面だと伝えたかったから。

（5）別解例　55 字

実を出す動作だけでは分けるつもりが伝わらず、猿や残った実を見る間を置いて、渡すまでの気持ちを表そうとしたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 最初は追い払うように伝わった点を示したか。
② 猿を見る間と、自分から分ける行動を結んだか。
③ 怒りが完全になくなったとは決めていないか。

実を出したという動作の有無だけでは足りない。相手にどう伝わり、その前をどう変えたかを読む。

（6）　次の稽古への助言 70〜90 字

（6）解答例　83 字

猿や実を見る間を無駄とせず、そのあと実を渡す動作とつなげてください。農夫の怒りを全て消す必要はありません。猿の受け取り方も確かめ、分けるつもりが伝わるか試しましょう。

（6）別解例　82 字

実を差し出す動作だけでなく、その前に猿を見る時間も残すとよいと思います。黙る間を無駄と決めず、怒りと空腹に気づく様子を表し、猿役の受け取り方を聞き、直してください。

☆（6）自分で確かめる点

①「無駄」「動作」を使ったか。
② 見る間と、実を渡す動作を結ぶ案を示したか。
③ 怒りを全て消すとせず、猿役への伝わり方も確かめたか。

笑顔や長い沈黙を、唯一の正しい演技にしない。本文のつもりと、相手の受け取り方を結ぶ。

漢字から文章へ 第三冊

第十五回

色・形・素材

手のひらでは、きれいな緑の宝石です。
けれど、客席から見ると、どこにあるか分かりません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

円	金	石	点
丸い形 お金の単位	金属 お金	岩のかけら 鉱物	小さな印 大切な所
鉄	緑	布	綱
金属の一種	緑色 草木	織ったぬの 広げる	太い縄 基本方針

いっしょに覚える漢字

容	丹	缶	枠	玄	絞
珠	紡	塑	錠	鎌	形

この回で読むお話

緑の石はどこへ消えた

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
円	エン まるい	丸い形／通貨 円・円形・円満	鉄	テツ	金属の一種 鉄・鉄道・鉄筋
金	キン コン かね かな	金属／お金 金・金属・金額	緑	リョク ロク みどり	緑色／草木 緑・緑地・新緑
石	セキ シャク コク いし	岩のかけら／鉱物 石・岩石・宝石	布	フ ぬの	織ったぬの／広げる 布・配布・分布
点	テン	小さなしるし／区切り 点・要点・採点	綱	コウ つな	太い縄／基本方針 綱・大綱・綱引き

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
容	ヨウ	中に入れる／姿 容器・内容・容姿	珠	シュ	丸い宝石や真珠 真珠・珠玉・数珠
丹	タン	赤い色／まごころ 丹念・丹精・牡丹	紡	ボウ つむぐ	繊維をより糸にする 紡ぐ・紡績
缶	カン	金属製の入れ物 缶・缶詰・空き缶	塑	ソ	やわらかい材料で形を作る 塑像・彫塑・可塑性
枠	わく	周りを囲むもの 枠・枠組み・窓枠	錠	ジョウ	戸などを閉ざす金具／固めた薬 錠前・施錠・錠剤
玄	ゲン	奥深い／暗い色 玄関・玄人・幽玄	鎌	かま	草などを刈る道具 鎌・大鎌・草刈り鎌
絞	コウ しぼる しめる	しめて出す／狭める 絞る・絞り染め・絞り込む	形	ケイ ギョウ かた かたち	外から見える姿／まとまり 形・形状・形式

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「円形」と「百円」の「円」に合うものを選びなさい。
ア　どちらも金属だけ　　イ　どちらも大きな石
ウ　角のある形だけ　　エ　丸い形と、お金の単位に関わる

(2)「金属」と「金額」の「金」に関わるものを選びなさい。
ア　材料と、お金に関わる　　イ　どちらも金色だけを表す
ウ　どちらも同じ重さを表す　　エ　どちらも布の作り方

(3)「要点」の「点」に合うものを選びなさい。
ア　必ず丸い絵を描く　　イ　細かな物を全て捨てる
ウ　大切なところを表す　　エ　物を水で洗う

(4)「配布」の「布」に関わるものを選びなさい。
ア　服の色を変える　　イ　広く行き渡らせる
ウ　糸だけを作る　　エ　必ず布を配る

(5)「紡ぐ」の説明を選びなさい。
ア　出来た布を切る　　イ　色を全て落とす
ウ　錠前を開ける　　エ　繊維をより合わせ、糸にする

(6)「大綱」の「綱」に関わるものを選びなさい。
ア　全体の基本となる方針　　イ　必ず綱で何かを縛る
ウ　細部の寸法だけ　　エ　全ての材料の色

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　大鎌　配布　岩石　窓枠　大綱　鉄道　内容
丹精　紡績　円形　緑地　空き缶　終点　金属

文	解答	文	解答
(1) 丸く描いて □□の窓にする。		(8) 全体の基本方針、 □□を定める。	
(2) 鉄などの材料、 □□について学ぶ。		(9) 箱に入っている物の □□を確かめる。	
(3) 自然にできた □□を観察する。		(10) 心を込めた世話を続け、 □□して花を育てる。	
(4) 路線の最後の駅、 □□で降りる。		(11) 中身を使い切った □□□を片づける。	
(5) 列車が走る □□の路線を調べる。		(12) 窓の周りを囲む □□を直した。	
(6) 草木のある □□を残したい。		(13) 大きな草刈り道具、 □□の絵を見る。	
(7) 知らせを皆に □□した。		(14) 繊維を糸にする □□の仕事を学ぶ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「金色」と「金属」のこの文に合うものを選びなさい。

紙で作った錠前に金色を塗り、金属のように見せた。

ア　金色なので、材料は本物の金である。
イ　見える色と、実際の材料は異なる。
ウ　紙なので、客席には何も見えない。
エ　金属という語は、色だけを表す。

（2）この「形」と「素材」に合うものを選びなさい。

形は同じ円形だが、一方は布、もう一方は鉄で作った。

ア　形が同じなので、重さも確定する。
イ　材料が違うので、形も必ず違う。
ウ　同じ形でも、材料は異なっている。
エ　二つの材料は入れ替えても、性質が全て同じ。

（3）「紡ぐ」と「織る」の関係に合うものを選びなさい。

繊維から糸を紡ぎ、その糸を織って布を作った。

ア　糸を作り、その糸で布を作る順序を述べている。
イ　出来た布を、ただ丸めた。
ウ　どちらも、完成した布を配ることだけを表す。
エ　糸を作る前に、その糸で布が完成した。

（4）この「大綱」と「細部」に合うものを選びなさい。

客席に伝わる小道具にするという大綱を決め、色や大きさを試した。

ア　方針が決まったので、試す必要はなくなった。
イ　色と大きさは、その後変えられない。
ウ　見た目をよくする目的は、全て捨てた。
エ　基本の方針に照らし、具体的な作り方を確かめた。

（5）「丹念」を使い、何を丁寧にしたかを書きなさい。20〜40 字。

（6）「要点」を使い、何をまとめるかを書きなさい。20〜40 字。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 粘土で形を作った**ソゾウ**を鑑賞する。	
(2) 紙に**キンイロ**の絵の具を塗った。	
(3) 古い**イシダン**を上った。	
(4) 答案を**サイテン**して、間違いを確かめる。	
(5) 建物の骨組みに使う**テッキン**について学ぶ。	
(6) 春の**シンリョク**が目に鮮やかだ。	
(7) 服にする**ヌノジ**を選んだ。	
(8) 相撲で最も上の位を、**ヨコヅナ**という。	
(9) 瓶に入る液体の**ヨウリョウ**を比べる。	
(10) 保存食の**カンヅメ**を棚へしまう。	
(11) 話し合いの進め方の**ワクグミ**を決めた。	
(12) 家の**ゲンカン**で靴を脱ぐ。	
(13) ぬれた布を**シボル**と、水が出た。	
(14) 貝の中でできる**シンジュ**の写真を見る。	
(15) 戸を閉ざす**ジョウマエ**の仕組みを調べる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 玄人	(17) 絞り染め	(18) 彫塑	(19) 金具	(20) 形状

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ色や形でも、材料や見える場所が違う場合があります。
何のために、どこで使うのかを合わせて考えましょう。

七　文章の中で考えよう

緑の石はどこへ消えた

「石はどこ？」
客席の後ろから聞かれ、綾は手のひらを開いた。ここにある。緑に塗った、小さな丸い粒。失くしたわけではないのに、見つけてもらえなかった。

劇の最後で、主人公が返す宝石だった。綾は玄人の小道具の写真を見て、真珠に似た粒を丹念に塗った。糸を紡ぐ場面の布とも色が合う。紙を金属に見せた錠前や、鉄の鎌をまねた小道具の横で、その一粒は十分に美しかった。

でも、手元で見たときの話だ。舞台へ戻ると、窓枠や衣装の模様の中に、緑の石が埋もれた。綾が何度手を振っても、宝石を返す動作が伝わらない。友人が衣装の袖を少し引いたが、まだ見つけにくいという。

照明を変える案も出た。照らす人の仕事や、ほかの場面にも関わるので、その場で全ては決めない。まず同じ明かりのまま、少し大きな模型も持ってみることにした。

彫塑の得意な友人が、軽い材料で円形の土台を作った。絞り染めの布をかぶせ、綱の模型のそばへ立つ。後ろからも形が分かるという。
「今度は、渡したのが分かった。」
手元では、前の粒ほど宝石らしくない。けれど、劇の大切な場面は見えた。

小さい方を捨てようとして、綾はやめた。

近くで見る展示なら、細かな模様も見えるだろう。缶の容器へ二つを並べ、材料と、どこから見たかを書いた。粒に付いた細い糸がなかなか取れず、二本の指でそっとつまんだ。友人はその横で、余った布を四角く畳んでいた。

劇の大綱は変えず、宝石の形状を変える。材料の金額だけでなく、場面で果たす働きが今回の要点だった。配布する案内にも、布を使った小道具だと記す。終わって客席の後ろへ座り、小さな粒を膝に置いた。ここでは模様がよく見える。前の宝石が悪くなったのではない。綾の見る場所が、一つ増えたのだった。

人物・劇・小道具・見え方の結果は教材用の創作です。実際の工具や照明の操作手順を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、物を入れるための器を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）お金の量を表す「キンガク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「見る場所が、一つ増えた」に合うものを選びなさい。

ア　綾が劇場を一つ建てた。
イ　近くで見ることを、今後は全てやめる。
ウ　小さな粒に、何もよさがなくなった。
エ　手元だけでなく、客席からの見え方も考えるようになった。

（4）本文で確かめたことを選びなさい。

ア　同じ明かりで大きな模型を持つと、後ろから形が分かった。
イ　照明を変えた結果、全ての席で同じように見えた。
ウ　値段の高い材料ほど、後ろからよく見えた。
エ　小さい宝石は、展示でも使えないと決まった。

（5）綾が宝石の作り方を変えた理由を、手元と客席の違いに触れ、45〜55 字で書きなさい。

（6）小道具を作る人への助言を、「形状」「要点」を使って 70〜90 字で書きなさい。使う場所と、残したいよさを考えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十五回　色・形・素材

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　形とお金の単位という違いを読む。百円という価格だけで形は分からない。
（2）ア　材料の仲間とお金を捉え分ける。金属が全て金色という意味ではない。
（3）ウ　多くの事柄の中の大切なところ。何を説明するかにより、要点も変わり得る。
（4）イ　広げ、行き渡らせる働き。配る物が、織物の布とは限らない。
（5）エ　繊維を糸にすること。糸を織って布にする工程とは区別する。
（6）ア　大綱は基本の方針などを表す。太い縄という意味だけでは読めない。

四　熟語を広げよう

（1）円形　（2）金属　（3）岩石　（4）終点　（5）鉄道
（6）緑地　（7）配布　（8）大綱　（9）内容　（10）丹精
（11）空き缶　（12）窓枠　（13）大鎌　（14）紡績
（9）内容は、中に含まれている物や事柄。（10）丹精は、心を込めて物事を行うこと。（11）は送り仮名も含めて「空き缶」。（13）は「おおがま」。（14）紡績は繊維から糸を作ること。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　色や見え方と、材料を分ける。金色に塗っただけで、紙が金属になるわけではない。
（2）ウ　外から見える形と、作る材料の違いを読む。強さや重さは別に確かめる。
（3）ア　糸を作ることと、糸を組み合わせて布にすることを、順序に沿って読む。
（4）エ　方針と、具体的な作り方を結ぶ。どの材料が合うかは、使う場所でも確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

舞台の模型を丹念に見て、客席から隠れる部分を確かめた。
☆自分で確かめる点　心を配って行ったことが、具体的に分かるか。

（6）解答例

試した材料と選んだ理由を、説明の要点としてノートにまとめた。
☆自分で確かめる点　何の説明の、大切な所なのかを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）塑像　（2）金色　（3）石段　（4）採点　（5）鉄筋
（6）新緑　（7）布地　（8）横綱　（9）容量　（10）缶詰
（11）枠組み　（12）玄関　（13）絞る　（14）真珠　（15）錠前
（16）くろうと　（17）しぼりぞめ　（18）ちょうそ　（19）かなぐ　（20）けいじょう
（1）塑像は粘土などで形を作った像。（8）は「横綱」、（10）は「缶詰」。（11）（13）は送り仮名も書く。（16）は「くろうと」。（18）彫塑は、彫刻と塑像を合わせた語。

七　文章の中で考えよう

（1）容器　大小二つの模型を並べて入れた、缶の入れ物を指す。
（2）金額　お金の量をいう。材料の性質を表す「金属」とは分ける。
（3）エ　手元のよさを消さず、使う場所から見る観点を加えた。
（4）ア　同じ明かりで、大きな模型を試した結果。照明を変えたとはしていない。

七　記述問題の考え方

（5）　宝石の作り方を変えた理由 45〜55 字

（5）解答例　55 字

手元では宝石らしく美しくても、客席の後ろからは見えず、主人公が返す大切な動作を伝える役目を果たせなかったから。

（5）別解例　53 字

まねた粒は近くではきれいだが、客席では見つからず、劇の中で返す場面に合う大きさや形が必要だと気づいたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 手元ではよく見えたことを示したか。
② 客席の後ろでは見つからなかった点を対比したか。
③ 宝石を返す動作を伝える目的と結んだか。

小さな粒が、どこでも無価値になった話ではない。今回の舞台で果たす役目から考える。

（6）　小道具を作る人への助言 70〜90 字

（6）解答例　82 字

何を伝える小道具か、要点を確かめてください。形状や材料は、手元だけでなく使う明かりと客席の位置でも試すとよいです。近くで見えるよさは、展示で生かす案も残しましょう。

（6）別解例　87 字

形状を本物に似せるだけでなく、客席から動作が伝わるかを確かめるのが要点です。同じ明かりで大きさや材料を試し、手元で美しい小さな粒も、近くで見る展示に使えないか考えてください。

☆（6）自分で確かめる点

①「形状」「要点」を使ったか。
② 舞台で伝える目的と、使う条件での確認を結んだか。
③ 小さい粒のよさも、別の使い方として残したか。

安い材料や大きい形が常に最良とはしない。照明を一方的に変えるのでなく、関係する人と確かめる。

漢字から文章へ 第三冊

第十六回

食べる・着る・住む

沙耶は「休憩してよいよ」と言われました。
それでも、椅子に座ったまま、食堂の方を気にしています。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

活	休	味	塩
生きる 勢いよく動く	動きを止めて休む	味 おもしろみ	調味料の塩

喫	斎	丼	煮
飲む 食べる 受ける	清める 部屋	深い鉢 丼物	水分とともに熱する

いっしょに覚える漢字

戸	版	菜	養	麻	扇
枕	棚	酪	錦	酎	寮

この回で読むお話

休憩中の椅子

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
活	カツ	生きる／勢いよく動く 生活・活動・活用	喫	キツ	飲む 食べる／受ける 喫茶・喫食・満喫
休	キュウ やすむ やすめる	動きを止めてやすむ 休む・休日・休息	斎	サイ	心身を清める／部屋 斎場・書斎・斎戒
味	ミ あじ あじわう	舌で感じるもの／おもしろみ 味・味覚・意味	丼	どんぶり どん	深い鉢／丼物 丼・牛丼・天丼
塩	エン しお	塩分をもつ調味料 塩・食塩・塩分	煮	シャ にる にえる にやす	水分とともに熱する 煮る・煮物・煮沸

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
戸	コ と	出入口の建具／家 戸・戸口・戸籍	枕	チン まくら	頭を支える寝具 枕・枕元・氷枕
版	ハン	印刷の板／出版物の形 出版・版画・新版	棚	たな	物を載せる板 棚・本棚・食器棚
菜	サイ な	食用の草／おかず 菜・野菜・菜食	酪	ラク	乳から作る食品 酪農・乳酪・酪酸
養	ヨウ やしなう	育てる／力をつける 養う・栄養・養成	錦	キン にしき	美しい織物 錦・錦絵・錦秋
麻	マ あさ	繊維を取る植物 麻・麻布・亜麻	酎	チュウ	濃い酒／焼酎に関わる 焼酎
扇	セン おうぎ	風を送る道具／広がる形 扇・扇子・扇風機	寮	リョウ	共同生活する住まい 寮・学生寮・寮生活

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「活用」の「活」に関わるものを選びなさい。
ア　働きを生かす　　イ　必ず新しく買う
ウ　休みを全てなくす　　エ　同じ形にそろえる

(2)「休息」の意味に合うものを選びなさい。
ア　仕事を全て放り出す　　イ　人と二度と会わない
ウ　仕事などをやめ、心身を休める　　エ　必ず眠り続ける

(3)「味覚」と「意味」の「味」に合うものを選びなさい。
ア　どちらも食塩の量だけ　　イ　味の感覚と、内容や意義に関わる
ウ　どちらも食べ方だけ　　エ　どちらも食器の種類

(4)「満喫」の意味を選びなさい。
ア　必ず多く食べ過ぎる　　イ　休みの時間を数える
ウ　相手に食事を作らせる　　エ　十分に味わい、楽しむ

(5)「書斎」の意味に合うものを選びなさい。
ア　必ず食事を配る棚　　イ　戸口に置く寝具
ウ　本を読み、書き物などをする部屋　　エ　寮の住人全員

(6)「煮物」の「煮」に関わるものを選びなさい。
ア　水分とともに食材などを熱する　　イ　食材を必ず生で食べる
ウ　風を送って乾かす　　エ　材料を織って布にする

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　酪農　生活　書斎　味覚　野菜　休業　学生寮
牛丼　出版　活気　煮物　食塩　栄養　喫茶

文	解答	文	解答
(1) 毎日の暮らし、□□を見直した。		(8) 深い鉢に盛った□□を注文する。	
(2) 会場には、人々の□□があふれていた。		(9) 水分と熱を使う□□の調理だ。	
(3) 店の仕事を休む□□の日を知らせる。		(10) 印刷して本を出す□□の仕事を知る。	
(4) 味を感じる□□について学ぶ。		(11) 食用にする草などの□□を育てる。	
(5) 調味料に使う□□の量を量る。		(12) 育つために取り入れる□□について学ぶ。	
(6) 茶を飲んで過ごす□□の時間だ。		(13) 乳牛などを飼う□□の仕事を調べる。	
(7) 読書や書き物をする□□へ入る。		(14) 共同生活の住まい、□□□を見学した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「休憩」と「待機」のこの文に合うものを選びなさい。

休憩と言われたが、呼ばれたらすぐ対応する担当のまま、席で待機していた。

ア　座っているので、何も気にしていない。
イ　休憩と言えば、担当は自動的に交代する。
ウ　待機している人は、その場にいない。
エ　作業は止めても、対応を待つ役目が残っている。

（2）この「薄味」と「味がない」に合うものを選びなさい。

塩味を控えた煮物でも、野菜の味は感じられた。

ア　塩味が控えめなことと、味が全くないことは違う。
イ　塩が少なければ、野菜の味も必ず消える。
ウ　野菜の味を感じたので、塩は大量に入っている。
エ　この一文で、全ての人の好みが分かる。

（3）「活用」と「使用」のこの文に合うものを選びなさい。

空いている書斎を使用し、静かな場所として活用した。

ア　二つの語は、同じ場所には使えない。
イ　活用したので、書斎の持ち主になった。
ウ　使うことと、その場所の働きを生かすことを述べた。
エ　使用は、必ず壊すという意味になる。

（4）「担当」と「交代」のこの文に合うものを選びなさい。

十分間だけ戸口の担当を交代し、その間は別の人が来客に応じた。

ア　最初の担当者が、十分後も永久に役目を失う。
イ　その時間の来客対応を、別の人が引き受けた。
ウ　交代したので、来客は来なくなった。
エ　二人とも、対応する人はいないと決めた。

（5）「休息」を使い、どう休むかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字。

（6）「活用」を使い、何の働きを生かすかを書きなさい。20〜40 字。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 地域を紹介する**カツドウ**に参加した。	
(2) 次の**キュウジツ**は、家でゆっくり過ごしたい。	
(3) この料理の**フウミ**を楽しむ。	
(4) 海水に含まれる**エンブン**を調べる。	
(5) 作業の途中で、十分間の**キュウケイ**を取る。	
(6) 鶏肉と卵を使った**オヤコドン**を注文する。	
(7) 野菜を柔らかくなるまで**ニル**。	
(8) 本を**カイハン**し、内容を新しくした。	
(9) 来客を迎えるため、**トグチ**へ出た。	
(10) 麻から作った**アサイト**を使う。	
(11) 畳んでいた**センス**を広げた。	
(12) 寝る前に、本を**マクラモト**へ置く。	
(13) 読み終えた本を、**ホンダナ**へ戻す。	
(14) 色糸で模様を織った絹織物、**ニシキ**を鑑賞する。	
(15) 資料には、酒の名の**ショウチュウ**が出てきた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 衣食住	(17) 扇形	(18) 枕木	(19) 錦絵	(20) 寮生

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ場所にいても、引き受けている役目は違う場合があります。
休むという言葉だけでなく、実際の時間の過ごし方を読みましょう。

七　文章の中で考えよう

休憩中の椅子

「沙耶、十分、休憩してよいよ。」
私は麻布の座布団を敷いた椅子に座り、扇子を開いた。冊子も手元へ置く。けれど、戸が鳴ると立ち上がった。食器が足りなければ棚へ戻り、食堂から声がするたび、そちらを向く。

寮の体験会で、私は昼食の手伝いをしていた。生活を紹介する冊子の新版も配る。野菜の煮物と牛丼が並ぶ予定で、火を使う調理は寮の大人、机と食器の準備は私たちの担当だった。

「まだ一ページも読めていないね。」
友人に言われ、私は冊子の表紙を見た。しおりにした紙が、初めの所から動いていない。手が止まれば休息になると思っていたが、戸口と食器の役目は、誰にも渡していなかった。

椅子に座って、次に呼ばれるのを待っていた。

寮の人へ話すと、戸口は友人、食器は別の人に、十分間だけ引き継ぐことになった。調理の担当も変わらずいる。私は食堂を離れ、書斎の一角を借りた。枕もあったが、今は本を読みたい。

机には、茶を喫する時間の案内があった。窓の下には酪農の写真、壁には近所の人から贈られた錦絵。花を挿した焼酎の空き瓶も、ここへ運ばれていた。廊下では足音がしている。

でも、今は自分が戸へ出る番ではない。冊子を開くと、次の行へ目が進んだ。椅子の脚が少し鳴った。食堂でも、同じ音を聞いていたのだろうか。気づくと、しおりは机の端にあった。

戻ると、友人も休む番だった。担当の表に、交代する役目と時間を加える。空いた書斎の活用も相談した。同じ十分でも、誰かを待つ時間と、本を読む時間は、私には違っていた。

昼食の煮物は、塩味を控えた野菜の甘さがした。栄養の説明も聞きたいが、まずは一口。私は扇子を閉じ、机の端から少し内側へ置いた。少し休んだあとの昼食を、ゆっくり満喫した。

人物・寮・体験会は教材用の創作です。休み方の好みや感じ方は、人によって異なります。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、新しく出した版を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）十分に味わい楽しむ「マンキツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「今は自分が戸へ出る番ではない」に合うものを選びなさい。

ア　戸口から誰も来なくなった。
イ　沙耶は今後、手伝いを全てやめる。
ウ　その十分間の戸口の役目は、友人が引き受けている。
エ　書斎から音は全く聞こえなくなった。

（4）沙耶の最初の休憩について、本文に合うものを選びなさい。

ア　眠っていたので、呼び声に気づかなかった。
イ　座っていても、戸口や食器の役目が残っていた。
ウ　誰も仕事をしておらず、調理も無人だった。
エ　十分間、好きな本を読み進めていた。

（5）沙耶が担当の表へ交代する役目と時間を加えた理由を、休憩の経験から、45〜55 字で書きなさい。

（6）次の体験会への引継ぎを、「休息」「担当」を使って 70〜90 字で書きなさい。休む人と、仕事を引き受ける人が分かるようにします。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十六回　食べる・着る・住む

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　物や力などを生かして使うこと。活発に動くことだけを表す字ではない。
（2）ウ　心身を休めること。外から見える姿だけで、休めているかを決めない。
（3）イ　舌などで感じる味と、物事の内容などに関わる使い方を捉え分ける。
（4）エ　よさなどを十分に味わうこと。喫茶は茶を飲むことに関わる語。
（5）ウ　読書や書き物をする部屋。斎の字は、この語では部屋に関わる。
（6）ア　煮ることに関わる字。煮物の味や材料は、料理ごとに確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）生活　（2）活気　（3）休業　（4）味覚　（5）食塩
（6）喫茶　（7）書斎　（8）牛丼　（9）煮物　（10）出版
（11）野菜　（12）栄養　（13）酪農　（14）学生寮

（2）活気は、生き生きとした勢い。（3）休業は、仕事や営業を休むこと。（7）の書斎は、読書や書き物をする部屋。（14）の学生寮は三字で書く。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　手を動かしていないことと、役目から離れて休めることを分けて読む。
（2）ア　塩味の強さと、感じる味の全てを同じにしない。好みも全員同じとは限らない。
（3）ウ　意味の重なりはあるが、この文では、使った場所と生かした働きを示している。
（4）イ　どの役目を、いつからいつまで引き受けるかを読む。交代と廃止は違う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

戸口の担当を交代してもらい、書斎で十分間の休息を取った。

☆自分で確かめる点　役目や時間、休み方のいずれかを具体的に示したか。

（6）解答例

空いていた書斎を、静かに本を読める場所として活用した。

☆自分で確かめる点　何を、どのような目的で生かしたかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）活動　（2）休日　（3）風味　（4）塩分　（5）休憩
（6）親子丼　（7）煮る　（8）改版　（9）戸口　（10）麻糸
（11）扇子　（12）枕元　（13）本棚　（14）錦　（15）焼酎
（16）いしょくじゅう　（17）おうぎがた　（18）まくらぎ　（19）にしきえ　（20）りょうせい

（7）は送り仮名も書く。（8）改版は、本の内容などを改めて出版すること。（14）の錦は、模様を織り出した絹織物。（16）衣食住は、着る・食べる・住むという暮らしの基本。（17）は「せんけい」「おうぎなり」も可。

七　文章の中で考えよう

（1）新版　寮の暮らしを紹介する冊子の、新しく出した版を指す。
（2）満喫　ここでは昼食を十分に味わって楽しむ。
（3）ウ　友人へ、十分間だけ役目を引き継いでいる。
（4）イ　最初は役目を誰にも渡さず、呼ばれたら応じる状態だった。

七　記述問題の考え方

（5）　担当の表を書き足した理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

座って手を止めても役目が残ると休めず、誰がいつ代わるかを明らかにして、担当を離れる時間を作りたかったから。

（5）別解例　53 字

休憩と言われても呼ばれるのを待っていたため、役目と時間を決めて交代し、安心して休めるようにしたかったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 最初の休憩でも、役目が残った点を示したか。
② 役目と時間を決めた交代に触れたか。
③ 仕事を無人にしたり、手伝いをやめたりする話にしていないか。

座ることが常に休息にならない、とは言わない。この場面で沙耶が何を気にしていたかを読む。

（6）　次の体験会への引継ぎ 70〜90 字

（6）解答例　84 字

休息を取るときは、戸口や食器の担当を誰が何時まで代わるか、表に記してください。休む人が呼ばれるのを待ち続けずに済み、引き受ける人も役目と時間を確かめられるようにします。

（6）別解例　85 字

休息の十分間には、戸口と食器の担当を別の人へ渡し、交代の時間も知らせてください。調理の担当まで不在にせず、休む人が役目を離れられるようにします。書斎の使い方も相談します。

☆（6）自分で確かめる点

①「休息」「担当」を使ったか。
② 交代する役目と時間、引き受ける人が分かる案にしたか。
③ 必要な仕事を無人にせず、休む人が役目を離れられるようにしたか。

全員が書斎で読書をすればよいと決めない。何を休息と感じるかは、本人にも確かめる。

漢字から文章へ 第三冊

第十七回

形・構造・技術

一度は、目印ぴったりに止まりました。
でも、選ばれたのは、別の車でした。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

気	平	度	輪
空気 気持ち 力	平ら 等しい	程度 回数 角度	丸くつながるもの

張	精	拙	桁
引き伸ばす 広げる	細かく整える	つたない へりくだる	横に渡す材 数の位

いっしょに覚える漢字

車	幹	狙	墨	埋	舟
筒	盤	抹	繰	堆	緯

この回で読むお話

ぴったり一回の車

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
気	キ ケ	空気／心の動き／力 空気・気持ち・電気	張	チョウ はる	引き伸ばす／広げる 張る・張力・緊張・主張
平	ヘイ ビョウ たいら ひら	でこぼこがない／等しい 平ら・平等・水平	精	セイ ショウ	細かい／よく選び整える 精密・精神・精製
度	ド ト タク たび	程度／回数／角度 温度・程度・角度	拙	セツ つたない	うまくない／自分をへりくだる 拙い・拙速・拙著
輪	リン わ	丸くつながるもの 輪・車輪・輪郭	桁	けた	横に渡す材／数の位 桁・桁数・橋桁

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
車	シャ くるま	車輪で動く乗り物 車・車両・風車	筒	トウ つつ	中が空いた長い形 筒・円筒・封筒
幹	カン みき	木の中心／物事の中心 幹・幹線・基幹	盤	バン	平たい台／土台 基盤・円盤・地盤
狙	ソ ねらう	目標を定める 狙う・狙い・狙撃	抹	マツ	消す／粉にする 抹消・抹茶・一抹
塁	ルイ	土を積んだとりで／球技の塁 塁・塁壁・満塁	繰	くる	順に動かす／繰り返す 繰る・繰り返す・繰越し
埋	マイ うめる うまる	土などの中へ入れる 埋める・埋設・埋蔵	堆	タイ	積み重なる 堆積・堆肥・堆積物
舟	シュウ ふね ふな	小さな船 舟・小舟・舟運	緯	イ	横の方向／成り行き 緯度・経緯・緯糸

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「空気」と「気持ち」の「気」に合うものを選びなさい。
ア　どちらも車輪だけ　　イ　どちらも数字の位
ウ　どちらも同じ重さ　　エ　空気と、心の動きに関わる

(2)「水平」の意味に合うものを選びなさい。
ア　水面のように平らなこと　　イ　必ず速く動くこと
ウ　数字が全て同じこと　　エ　部品が全て丸いこと

(3)「角度」の「度」に関わるものを選びなさい。
ア　走る人の名前　　イ　材料の値段だけ
ウ　角の開きの大きさ　　エ　車輪の個数だけ

(4)「精密」の説明を選びなさい。
ア　見た目が派手なこと　　イ　細かいところまで行き届き、正確なこと
ウ　値段が高いことだけ　　エ　結果を消すこと

(5) 自分の本を「拙著」と呼ぶ働きを選びなさい。
ア　本を出版していないと示す　　イ　読者の本を悪く言う
ウ　内容の誤りを全て証明する　　エ　自分の著書をへりくだっていう

(6)「経緯」の意味に合うものを選びなさい。
ア　物事がそこへ至った成り行き　　イ　横の長さだけ
ウ　必ず一回で成功すること　　エ　最後の数字だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　精密　抹茶　角度　緯度　幹線　空気　堆肥
塁壁　円筒　埋設　拙速　張力　桁数　円盤

文	解答	文	解答
(1) 目に見えない□□の動きを調べる。		(8) 数の位を数え、□□をそろえる。	
(2) 円い筒の形をした□□を作る。		(9) 町を結ぶ主要な□□道路を調べる。	
(3) 角の開きの大きさ、□□を測る。		(10) 守りのための□□が残る場所だ。	
(4) 円く平たい形の□□を回した。		(11) 地中に線を入れる□□の工事を記録する。	
(5) 引っ張る力である□□について学ぶ。		(12) 茶の葉をひいて作る□□を味わう。	
(6) 細部まで行き届く□□な模型だ。		(13) 落ち葉などを積んで作る□□を畑に使う。	
(7) 出来より速さを急ぐ□□を避けたい。		(14) 南北の位置を示す□□を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「狙い」と「最長」に合うものを選びなさい。

三十センチの目印近くに止めるのが狙いだが、最長は四十センチだった。

ア　遠くへ行くほど、必ず狙いに合う。
イ　最長の距離と、目印へ近いかは別に比べる。
ウ　四十センチなので、車は一度も動かなかった。
エ　狙いという語は、最大値だけを表す。

（2）「精密」と「桁数」のこの文に合うものを選びなさい。

一センチ単位で読んだ値へ、測っていない小数を足して桁数を増やした。

ア　数字が長いので、測定は必ず精密になった。
イ　小数を書いたので、実験の回数が増えた。
ウ　測っていない細かさを足しても、測定の精密さは増さない。
エ　どんな測定値も、桁は一つしか書けない。

（3）この「繰り返す」と「成功」に合うものを選びなさい。

三回試し、二回は範囲を外れ、一回は目印に止まった。

ア　一回の成功はあるが、三回とも成功したとは言えない。
イ　成功した一回だけが、実際に行った試験である。
ウ　二回外れたので、一回の成功もなかったことになる。
エ　次回は必ず成功すると証明された。

（4）「拙著」と「拙速」のこの使い方に合うものを選びなさい。

自分の本を拙著と呼んだが、制作では拙速を避け、何度も点検した。

ア　自分の本を悪く呼んだので、点検は一度もしていない。
イ　拙著は、他人の本をけなす語である。
ウ　二つの語は、どちらも必ず速さを表す。
エ　自分をへりくだる語と、出来より速さを急ぐ語を使った。

（5）「狙い」を使い、何を目指すかを書きなさい。20〜40 字。

（6）「経緯」を使い、どのような成り行きを伝えるかを書きなさい。20〜40 字。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 朝と昼の**キオン**を記録した。	
(2) 皆へ**ビョウドウ**に機会を設ける。	
(3) 水の**オンド**を測る。	
(4) 木の切り口の**ネンリン**を観察する。	
(5) 初めての発表で、**キンチョウ**した。	
(6) 相手を尊重する**セイシン**を大切にする。	
(7) 著者は、自分の本を**セッチョ**と呼んだ。	
(8) 橋を横に支える**ハシゲタ**を調べる。	
(9) 車輪の上にある**シャタイ**の形を描いた。	
(10) 木の太い**ミキ**に、鳥が止まっている。	
(11) 大会での優勝を**ネラウ**。	
(12) 打者が二塁まで進む**ニルイダ**を打った。	
(13) 掘った穴を土で**ウメル**。	
(14) 川に浮かぶ**コブネ**を描いた。	
(15) 同じ練習を、何度も**クリカエス**。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 盤面	(17) 拙い	(18) 輪郭	(19) 筒状	(20) 気配

この回を終えたら もう一度確かめる

よい結果かどうかを、初めに決めた目的から考えましょう。
試した回は、うまくいった回も外れた回も、分けて残します。

七　文章の中で考えよう

ぴったり一回の車

　航平は、三十の数字に大きな丸を付けた。目印ぴったり。胸を張りかけ、ほかの二回を消そうとすると、友人の指が消しゴムを押さえた。
「それだと、三回とも同じ所へ止まったように見えるよ。」

　模型の町を走る車を作っていた。幹線道路の横に野球場の塁を描き、川には小舟を置く。客が空気を送って車を止める遊びだ。絵に夢中になり、初めは遠くへ走らせることばかり考えた。

　規則は違った。「目印は出発点から三十センチ。そこから前後五センチ以内で止まれば成功」。紙の筒の車体を持ち直すと、車輪の片方が傾いている。

　試す前に盤面を水平にし、切りくずの堆積を片づけ、溝も埋めた。送る空気の強さと時間、出発位置をそろえる。最初の車Ａと、車輪の向きを調整したＢを、三回ずつ繰り返して試した。止まった場所は車体の前の端でそろえ、距離を一センチ単位で記録した。

車が止まった距離の記録

試した回	最初の車Ａ	調整後の車Ｂ
一回目	二十センチ	二十八センチ
二回目	三十センチ	二十九センチ
三回目	四十センチ	三十一センチ

　丸を付けたのは、Ａの二回目だった。二十と四十は、決めた範囲の外にある。Ｂには、ぴったりの回はない。それでも二十八、二十九、三十一は、三回とも範囲の中だ。

　一番遠い車でも、一番きれいな丸でもなかった。

　狙いは目印の近くへ止めることだ。今回はＢを使う。航平はＡの失敗も抹消せず、調整した角度と試した経緯を横へ書いた。精密に見せるため、測っていない小数を足すのもやめた。桁を増やしても、車が正確になるわけではない。

　次も必ず成功するとは、まだ言わない。拙速に完成の札を出す前に、同じ条件でもう一度試したい。友人が小舟の向きを直し、川へ戻した。航平は三十センチの場所に停留所を描き加えた。そこへ止まる車を想像すると、遠くまで走ったときとは違う楽しみがあった。

人物・模型・試験条件・数値は教材用の創作です。実物の乗り物や構造物の設計・安全を検証する実習ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と、車が止まった距離の記録を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、物が積み重なることを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）記録などを消す「マッショウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「狙い」に合うものを選びなさい。

ア　最も遠い場所へ車を走らせる。
イ　三十センチの目印から前後五センチ以内で止める。
ウ　一回の写真だけをきれいに撮る。
エ　模型を、実物の車と同じ大きさにする。

（4）表と規則に合うものを選びなさい。

ア　Ａは三回とも、成功の範囲に入った。
イ　Ｂは一度も、成功の範囲に入らなかった。
ウ　ＡもＢも、三回とも目印ぴったりだった。
エ　Ｂはぴったりの回はないが、三回とも範囲に入った。

（5）航平がＡの一回の結果だけで選ばず、今回はＢを使うとした理由を、45〜55 字で説明しなさい。

（6）試験結果の報告を、「狙い」「繰り返し」を使って 70〜90 字で書きなさい。二つの車の違いと、まだ言えないことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十七回　形・構造・技術

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　同じ気の字でも、物と心に関わる使い方がある。熟語全体で読む。
（2）ア　水面のように平らなこと。水平にしただけで、車の結果までは決まらない。
（3）ウ　角の開きの大きさに関わる。温度や回数を表す使い方とは文脈で分ける。
（4）イ　細部まで行き届くこと。数字の桁を増やすだけで、測り方が精密になるとは限らない。
（5）エ　拙には自分をへりくだる使い方もある。拙著だけで、本の出来は決めない。
（6）ア　物事の成り行きを表す。結果だけでなく、そこまでの過程も伝える語。

四　熟語を広げよう

（1）空気　（2）円筒　（3）角度　（4）円盤　（5）張力
（6）精密　（7）拙速　（8）桁数　（9）幹線　（10）塁壁
（11）埋設　（12）抹茶　（13）堆肥　（14）緯度

（2）は円い筒、（4）は円く平たい形。（7）の拙速は、出来より速さを重んじた結果、よくない点があること。（13）堆肥は、落ち葉などを積み、腐らせて作る肥料。（14）緯度は、赤道を基準に南北の位置を表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　何をよい結果とするかは目的による。最長という値だけで選ばない。
（2）ウ　実際に読み取れた細かさと、書いた数字の長さを分ける。未測定の値は足さない。
（3）ア　成功した回も、外れた回も記録に残す。次回の結果まで決まったわけではない。
（4）エ　拙の使い方を熟語で確かめる。へりくだった表現を、品質の判定と同じにはしない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

遠くへ走らせるのでなく、目印の近くへ止めることを狙いにした。

☆自分で確かめる点　目指す結果や目的を具体的に示したか。

（6）解答例

車輪の向きを直して三回試すまでの経緯を、記録に書き残した。

☆自分で確かめる点　結果だけでなく、そこへ至る過程が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）気温　（2）平等　（3）温度　（4）年輪　（5）緊張
（6）精神　（7）拙著　（8）橋桁　（9）車体　（10）幹
（11）狙う　（12）二塁打　（13）埋める　（14）小舟　（15）繰り返す
（16）ばんめん　（17）つたない　（18）りんかく　（19）とうじょう　（20）けはい

（7）拙著は、自分の著書をへりくだっていう語。（8）は「橋桁」。（11）（13）（15）は送り仮名も書く。（17）は「つたない」、（19）は「とうじょう」と読む。

七　文章の中で考えよう

（1）堆積　盤面に工作の切りくずが積み重なっていたことをいう。
（2）抹消　都合のよくない数字を消さず、残すことにした。
（3）イ　目印は三十センチで、前後五センチ以内が成功の範囲。
（4）エ　Bの二十八・二十九・三十一は、全て二十五〜三十五センチの範囲内。

七　記述問題の考え方

（5）　今回はＢを選んだ理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

狙いは目印の近くへ止めることで、Ａは一回ぴったりでも二回外れ、Ｂは試した三回とも決めた範囲に入ったから。

（5）別解例　51 字

一度ぴったり止まるだけでなく、目印の近くへ止まることが狙いなので、三回とも範囲に入ったＢを選んだから。

☆（5）自分で確かめる点

① 狙いが最長の距離でないと分かるか。
② Ａは一回成功・二回範囲外、Ｂは三回とも範囲内と捉えたか。
③ 次回も必ず成功するという証明にはしていないか。

Ｂが目印ぴったりに止まったとは書かない。今回は、成功とする範囲に入った回を比べる。

（6）　試験結果の報告 70〜90 字

（6）解答例　86 字

狙いは三十センチの目印から前後五センチ以内で止めることです。同じ条件で繰り返し三回試すと、Ａは一回、Ｂは三回とも範囲に入りました。今回はＢを使いますが、次の結果は不明です。

（6）別解例　86 字

目印近くへ止める狙いでは、Ａは一回ぴったりでも、二回は範囲外でした。Ｂは繰り返し試した三回とも範囲内なので、今回はＢを選びます。ただし、次回も同じ結果になるとは言えません。

☆（6）自分で確かめる点

①「狙い」「繰り返し」を使ったか。
② 目印近くへ止める目的と、両方の三回の結果を結んだか。
③ 今回の選択と、次回の結果が未確定なことを分けたか。

一回の成功をなかったことにせず、ほかの回も残す。模型の記録から実物の安全性までは結論しない。

漢字から文章へ 第三冊

第十八回

文化と表現

踊る人の後ろに、祖母の手が写っていました。
切り取ってよい余白だと、澪は思っていたのですが。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

社	画	写	真
人の集まり 神の社	絵 区切る 計画	もとの姿を移す	本当 まじりけがない

祭	仏	映	舞
神仏を祭る 行事	ほとけ 仏教に関わる	光で像を表す	身ぶりで踊る

いっしょに覚える漢字

易	影	弔	葬	盆	紋
鬼	妖	僧	鼓	霊	美

この回で読むお話

写真の端にあった盆

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
社	シャ やしろ	人の集まり／神を祭る所 社会・会社・神社	祭	サイ まつる まつり	神仏を祭る／行事 祭り・祭礼・文化祭
画	ガ カク	絵／区切る／計画 絵画・画面・計画	仏	ブツ ほとけ	仏陀／亡くなった人 仏・仏教・仏像
写	シャ うつす うつる	そのまま移す 写す・写真・描写	映	エイ うつる うつす はえる	光で像を表す 映る・映画・上映
真	シン ま	本当／まじりけがない 真実・写真・真心	舞	ブ まう まい	身ぶりで踊る 舞う・舞台・舞踊

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
易	エキ イ やさしい	変わる／容易 容易・貿易・易しい	鬼	キ おに	想像上の存在／恐ろしいもの 鬼・鬼門・鬼才
影	エイ かげ	光が遮られてできる像／影響 影・影絵・影響	妖	ヨウ あやしい	あやしく人を惑わす 妖怪・妖精・妖艶
弔	チョウ とむらう	死者をいたむ 弔う・弔辞・弔意	僧	ソウ	出家して仏道を修める人 僧・僧侶・高僧
葬	ソウ ほうむる	死者を送り埋める 葬る・葬儀・埋葬	鼓	コ つづみ	打楽器／励ます 太鼓・鼓動・鼓舞
盆	ボン	浅い器／祖先を迎える時期 盆・盆栽・盆踊り	霊	レイ リョウ	魂／不思議な力に関わる 霊・霊魂・精霊
紋	モン	表面の模様／家の印 紋・紋章・波紋	美	ビ うつくしい	うつくしい／よさ 美しい・美術・美

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「会社」と「神社」の「社」に合うものを選びなさい。
ア　どちらも写真だけを表す　　イ　どちらも舞台の広さ
ウ　人の集まりと、神を祭る所に関わる　　エ　前後の語には意味がない

(2)「描写」の「写」に関わるものを選びなさい。
ア　姿や様子を写し出す　　イ　実物を必ず持ち去る
ウ　数だけを増やす　　エ　想像を一切使わないと決める

(3)「真実」の意味に合うものを選びなさい。
ア　多くの人が好きなこと　　イ　見た目が明るいこと
ウ　主人公が願ったこと全て　　エ　うそや偽りのない、本当のこと

(4)「上映」の「映」に関わるものを選びなさい。
ア　役者が必ず外を走る　　イ　映像を映して見せる
ウ　写真を全て捨てる　　エ　何もない画面にする

(5)「弔意」の意味を選びなさい。
ア　相手を笑わせる仕掛け　　イ　自分の作品の値段
ウ　亡くなった人をいたむ気持ち　　エ　すぐに答える速さ

(6)「鼓舞」の意味に合うものを選びなさい。
ア　励まし、気持ちを奮い立たせる　　イ　必ず太鼓を演奏する
ウ　相手の声を消す　　エ　記録を全て同じにする

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　写生　影絵　紋章　仏像　容易　舞踊　社会
葬儀　祭礼　舞台　真実　絵画　上映　弔辞

文	解答	文	解答
(1) 人々の集まり、□□の仕組みを学ぶ。		(8) 踊りを表現する□□を鑑賞する。	
(2) 筆で描いた□□を鑑賞する。		(9) 物事が行いやすい□□な方法を考える。	
(3) 実際の風景を見て□□した。		(10) 光を遮って像を作る□□を演じた。	
(4) 本当にあった□□を確かめたい。		(11) 亡くなった人をいたむ□□を読み上げる。	
(5) 地域の行事、□□の記録を読む。		(12) 亡くなった人を送る□□の写真をしまう。	
(6) 仏の姿を表した□□を見学した。		(13) 家などを表す印、□□を調べた。	
(7) 映像を映す□□の準備をする。		(14) 演技や踊りを見せる□□を整える。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「写真」と「創作」に合うものを選びなさい。

昔の写真を紹介したあと、その写真から想像した鬼の物語を、創作と明示して上映した。

ア　鬼が昔の祭りに実在したと証明した。
イ　記録の紹介と、想像して作った表現を分けた。
ウ　創作と書いたので、写真の日付は不要になった。
エ　写真を使うと、想像は全て禁じられる。

（2）「容易」と「適切」のこの文に合うものを選びなさい。

写真をつなぐのは容易だが、どう紹介するのが適切かは、もう一度考えた。

ア　簡単にできるので、紹介の仕方も必ず正しい。
イ　二つの語は、いつも全く同じ意味。
ウ　難しくすれば、どんな紹介でも適切になる。
エ　行いやすさと、その場に合うかを分けている。

（3）この「弔意」と「笑顔」に合うものを選びなさい。

亡くなった人をいたみながら、その人との楽しい思い出を笑顔で話した。

ア　いたむ気持ちと、笑顔で話すことは両立している。
イ　笑顔なので、その人を覚えていない。
ウ　弔意がある人は、楽しい話を全て忘れる。
エ　この一文で、気持ちの強さを数値にできる。

（4）「上映してよい範囲」のこの文に合うものを選びなさい。

祖母は、祭りの写真一枚なら会場で映してよいが、葬儀の写真は使わないでほしいと話した。

ア　持っている全ての写真を、どこでも使ってよい。
イ　葬儀の写真も、映す順番を変えれば使ってよい。
ウ　認めた写真と場所、使わない写真を分けている。
エ　祭りの写真は、会場でも使えなくなった。

（5）「描写」を使い、何をどう表すかを書きなさい。20〜40 字。

（6）「鼓舞」を使い、誰をどう励ますかを書きなさい。20〜40 字。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 神を祭る**ジンジャ**の建物を見学した。	
(2) 映像の**ガメン**を明るくする。	
(3) 昔の町を写した**シャシン**を借りた。	
(4) 相手を思う**マゴコロ**が伝わった。	
(5) カレンダーの**サイジツ**を確かめる。	
(6) 皆の意見を、計画へ**ハンエイ**する。	
(7) よく考えず、**アンイ**に結論を出さない。	
(8) 窓の向こうに**ヒトカゲ**が見えた。	
(9) 小さな鉢で木を育てる**ボンサイ**を鑑賞する。	
(10) 家の印として伝わる**カモン**を調べた。	
(11) 並外れた才能を持つ人を、**キサイ**という。	
(12) 不思議な**ヨウカイ**の出る物語を読む。	
(13) 仏教の**ソウリョ**が話す言葉を聞いた。	
(14) 死後の**レイコン**を描いた物語を読んだ。	
(15) 絵や彫刻などの**ビジュツ**を学ぶ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 盆踊り	(17) 鬼	(18) 妖気	(19) 高僧	(20) 精霊

この回を終えたら もう一度確かめる

記録されたことと、自分が想像して作ったことを分けて伝えましょう。
誰かの思い出を扱うときは、その人の言葉にも耳を傾けます。

七　文章の中で考えよう

写真の端にあった盆

端に写る手を、澪は切り取ろうとしていた。神社の祭りを紹介する映像には、踊る人を大きく見せたい。盆を持つ祖母は踊っていない。祖父が太鼓を打つ、昔の写真の隅だった。

「その花、誰に運んだか覚えているよ。」
祖母が手を指した。祖父が亡くなる前の写真で、盆には、先に亡くなった家族へ供える花を載せていたという。澪は画面を広く戻した。切るつもりだった所へ、もう一度目を寄せる。

文化祭で町の映像を上映しようと、澪は寺の仏像も撮り、祖母に写真を借りた。別のページには祖父の葬儀があり、僧侶と家族が並ぶ。静かな音を付けて祭りとつなごうとしたが、祖母は「それは使わないで」と言った。

家族が弔意を表し、大切にしまった写真だった。祭りの一枚だけなら会場で映してよいという。借りたことと、人に見せてよいことを、澪は一緒にしていた。葬儀の写真は外した。つなぐのは容易だったが、使ってよいとは限らない。

残した一枚の服には紋が見える。祖母は、家族の霊を迎えるつもりで花を運び、あとで踊る人にも茶を渡したと話した。盆踊りを舞う姿ばかり探していたが、この手にも、その日の仕事と思い出があった。

踊っていない時間も、祭りの中にあった。

写真は広いまま残し、祖母の言葉を添える。前半は昔の祭典の記録、後半は自分たちの創作と分けた。初めに描いた鬼や妖怪の影絵は、やめない。ただ、昔の祭りの再現だとは説明しない。

後半では、小さな鬼が盆を差し出し、人が茶を受け取る。祖母は絵を見て笑った。
「こんな鬼は見なかったね。」
澪も笑った。祖母の膝では、写真を包んでいた布の端が、三角に折られていた。本当にいたとは言わなくても、新しい物語は一緒に楽しめた。

仲間の言葉に鼓舞され、紹介文を書き直す。美しい場面だけでなく、誰がどう覚えているかも伝えたい。試写で祖父が太鼓を打ち、その端に祖母の盆が残った。上映が終わって明るくなるまで、澪はその手を見ていた。

人物・町・祭り・家族の記憶は教材用の創作です。特定の地域の祭礼や宗教儀礼を再現するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、亡くなった人をいたむ気持ちを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）祭りの式や行事を表す「サイテン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「容易だった」に合う説明を選びなさい。

ア　昔の事実だと全て確認できた。
イ　作業を行うことは難しくなかった。
ウ　祖母の気持ちも全て分かった。
エ　借りた全ての写真を使ってよくなった。

（4）祖母が認めた範囲に合うものを選びなさい。

ア　借りた全ての写真を、どこでも使う。
イ　葬儀の写真だけを、祭りの記録として使う。
ウ　祭りの一枚を、会場で映す。
エ　鬼の絵を、昔の祭りの写真だったと説明する。

（5）澪が写真の端の手を切らずに残した理由を、祖母から聞いたことと結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）上映の案内を、「写真」「創作」を使って 70〜90 字で書きなさい。使う写真の範囲と、記録と創作の区別を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十八回　文化と表現

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　集まりと、神を祭る所に関わる使い方。社だけで全てを同じものとしない。
（2）ア　姿や様子を写し表すことに関わる。どんな方法で表すかも文中で確かめる。
（3）エ　本当のことに関わる。人気や美しい見た目だけで、真実かは決まらない。
（4）イ　映像を映して見せること。何をどこで上映するか、文の条件も読む。
（5）ウ　亡くなった人をいたむ気持ち。どのように表すかは、本人や場面でも異なる。
（6）ア　励まし、奮い立たせること。字を一つずつ直訳するだけでは意味が捉えにくい語。

四　熟語を広げよう

（1）社会　（2）絵画　（3）写生　（4）真実　（5）祭礼
（6）仏像　（7）上映　（8）舞踊　（9）容易　（10）影絵
（11）弔辞　（12）葬儀　（13）紋章　（14）舞台

（3）の写生は、実際の物や風景を見て描くこと。（9）の容易は行いやすいこと。（11）の弔辞は亡くなった人をいたむ言葉。（14）の舞台は、演技などを見せる場所をいう。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　記録と創作を分けて伝えている。区別することと、創作をやめることは同じではない。
（2）エ　作業のしやすさと、伝え方が場面に合うかは別。何を紹介するかに照らして考える。
（3）ア　表情と気持ちを一対一で決めない。この文では、いたむことと懐かしむことが重なる。
（4）ウ　何をどこで使ってよいかを読む。一つの了承を、別の写真や使い方まで広げない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖母が盆を両手で持つ様子を、指の動きに注目して描写した。

☆自分で確かめる点　表す対象と、着目した様子が分かるか。

（6）解答例

本番を前に緊張する仲間を、先輩の励ましの言葉が鼓舞した。

☆自分で確かめる点　励ます人や言葉と、励まされる相手を結んだか。

六　短文で使ってみよう

（1）神社　（2）画面　（3）写真　（4）真心　（5）祭日
（6）反映　（7）安易　（8）人影　（9）盆栽　（10）家紋
（11）鬼才　（12）妖怪　（13）僧侶　（14）霊魂　（15）美術
（16）ぼんおどり　（17）おに　（18）ようき　（19）こうそう　（20）せいれい

（4）は「真心」。（7）安易は、ここでは十分に考えない様子。（11）の鬼才は並外れた才能や、その持ち主。（13）は「僧侶」。（20）精霊は生物や物に宿るとされる魂など。死者の霊魂の意味では「しょうりょう」も可。

七　文章の中で考えよう

（1）弔意　祖父を送る葬儀の写真について述べる場面にある。
（2）祭典　祭りの式や行事をいう。本文では、前半に紹介する昔の祭りに使われている。
（3）イ　つなげやすさと、使ってよいかどうかは別だった。
（4）ウ　祭りの一枚だけ、会場で映すことを認めた。ほかの写真や場所へ広げない。

七　記述問題の考え方

（5）　写真の端の手を残した理由 45〜55 字

（5）解答例　55 字

踊らない祖母の手にも、亡くなった家族へ花を供え、人に茶を渡した仕事と思い出があり、祭りの一部だと気づいたから。

（5）別解例　54 字

踊る姿だけを見て余分だと思ったが、盆で花を運び、人に茶も渡した祖母の役目と記憶が、その手にあると知ったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 初めは踊る姿だけを探していた点を踏まえたか。
② 花や茶を運ぶ仕事と、祖母の思い出を結んだか。
③ 当時すでに祖父を弔っていたとは取り違えていないか。

写真は祖父が亡くなる前。祖母が花を供えた相手は、先に亡くなった家族である。

（6）　上映の案内 70〜90 字

（6）解答例　86 字

会場では、祖母が認めた祭りの写真一枚だけを映し、盆で花を運ぶ姿も残します。葬儀の写真は使いません。後半の鬼や妖怪の場面は私たちの創作で、昔の祭りの再現ではないと案内します。

（6）別解例　87 字

前半は、祖母が会場で映してよいと認めた祭りの写真一枚を、本人の言葉とともに紹介します。葬儀の写真は使いません。後半の鬼の場面は、昔の記録と分けて、私たちの創作として示します。

☆（6）自分で確かめる点

①「写真」「創作」を使ったか。
② 会場で認められた祭りの一枚を使い、葬儀の写真は使わないと示したか。
③ 鬼の場面は創作で、昔の祭りの再現ではないと分かるか。

創作を禁じるのでなく、記録とは分けて示す。認められた範囲を、別の写真や公開の仕方へ広げない。